

岩手県内遺跡発掘調査報告書

(平成26年度 復興関係)

平成28年3月

岩手県教育委員会

岩手県内遺跡発掘調査報告書

(平成26年度 復興関係)

岩手県教育委員会

序

本県沿岸市町村に甚大な被害をもたらした東日本大震災津波の発災から5年が経過し、「復興道路」の一つとして位置づけられた三陸沿岸道路の建設、集団移転地の造成、被災した道路や農地の復旧等、被災地住民の生活再建に向けた大規模開発事業が着実に進展しています。また、被災地では、個人住宅や企業店舗・施設の再建等、民間開発事業も進められています。

当教育委員会では、埋蔵文化財の保護と復興事業の推進を両立させるため、平成24年度から文化庁の調整により、他道府県の専門職員の派遣をいただき、復興事業に伴う膨大な埋蔵文化財調査に対応するとともに、沿岸市町村教育委員会が実施する調査へ支援を行ってまいりました。

本書は、当教育委員会が平成26年度に復興交付金を活用して実施した諸調査の記録をまとめたものです。本書が広く活用され、埋蔵文化財保護に役立てば幸いです。

最後になりましたが、調査及び報告書作成に御指導と御協力をいただきました関係機関・各位に厚く感謝申し上げます。

平成28年3月

岩手県教育委員会

教育長 高橋嘉行

目 次

序

例言

岩手県沿岸市町村位置図、凡例	1
岩手県内復興道路、復興支援道路全体図	2
調査位置図	3

試掘調査

【三陸沿岸道路】

1 乙部野Ⅱ遺跡（新規発見 旧可能性あり 2・3：宮古市）	11
2 青猿Ⅰ遺跡（宮古市）	15
3 山口駒込Ⅰ遺跡（宮古市）	18
4 千徳城遺跡群（宮古市）	20
5 荷竹日向Ⅰ遺跡（新規発見範囲拡大：宮古市）	23
6 荷竹日影Ⅱ遺跡（新規発見範囲拡大：宮古市）	26
7 小白浜遺跡（釜石市）	28

【宮古盛岡横断道路】

8 盆花遺跡（新規発見 旧可能性あり 10：盛岡市）	31
----------------------------------	----

本発掘調査

【三陸沿岸道路】

9 サンニヤⅡ遺跡（新規発見 旧可能性あり 2号工事用道路：洋野町）	35
10 南鹿糠Ⅰ遺跡（新規発見 旧可能性あり 29号工事用道路：洋野町）	52
11 黒坂遺跡（新規発見 旧可能性あり 工事用道路①-2：洋野町）	62
12 駿達Ⅰ遺跡（新規発見 旧可能性あり 1：宮古市）	65
13 牛沢遺跡（宮古市）	67
14 扇洞遺跡（新規発見 旧可能性あり 1：大船渡市）	72

【宮古盛岡横断道路】

15 中村遺跡（新規発見 旧可能性あり 8：盛岡市）	94
平成26年度 派遣専門職員の調査風景	102

調査一覧

1 分布調査一覧	105
2 試掘調査一覧	106
3 本発掘調査一覧	107
4 工事立会一覧	107

報告書抄録

例　　言

- 1 本書は岩手県教育委員会が平成26年度に実施した県内遺跡発掘調査事業（復興関係）に係る調査成果の概要報告である。なお、本事業は復興庁復興交付金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は岩手県教育委員会が調査主体となり、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。野外調査・室内整理および報告書作成・編集は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課埋蔵文化財担当（復興事業担当）が行った。
- 3 遺跡位置図は国土地理院発行の1/25,000地形図（数値地図地図画像）を使用し、一部加筆・改変したものである。
- 4 調査区位置図等は各事業者から提供された工事図面・地形図等を原図として作成した。
- 5 本書では試掘調査により本調査対応となった主な事業予定箇所の成果概要について記載した。
- 6 調査による遺物実測図は遺跡毎に掲載した。
- 7 遺構・遺物実測図の掲載はページ毎に縮尺を記載し、主な表現は凡例のとおりである。
- 8 遺構・遺物写真は、紙幅の関係から主な遺構・遺物を選択して遺跡ごとに掲載した。
- 9 平成26年度は、復興事業に伴う埋蔵文化財調査の著しい増加が予想されたことから、文化庁による調整の下、当教育委員会では12道府県から各1名、計12名の専門職員の派遣を受けた。平成26年度の埋蔵文化財担当は計21名（兼務含む）で、調査体制は以下のとおりである。

<埋蔵文化財担当> 上席文化財専門員 音常久（全体総括）

<予算・経理担当> 主任 藤村フサ子

<復興事業担当> 文化財専門員 半澤武彦（復興事業総括）・鳥居達人・相原伸裕

【他道府県教育委員会からの派遣専門職員】

上席文化財専門員 小林昭彦（大分県）・浅野晴樹（埼玉県）・今福利恵（山梨県）・上垣幸徳（滋賀県）

文化財専門員 加藤竜（秋田県）・丸杉俊一郎（静岡県）・関真一（大阪府）・柏原正民（兵庫県）・坂

井田端志郎（熊本県）・上床真（鹿児島県）

文化財調査員 村本周三（北海道）・中澤寛将（青森県）

<通常事業担当> 文化財専門員 千葉正彦（通常事業総括）・晴山雅光・高橋祐・佐々木務

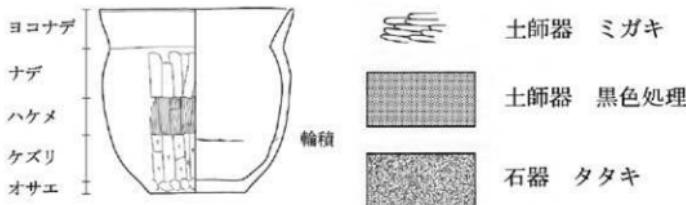
- 10 本書は復興事業関係の調査を収録し、調査は主に復興事業担当が実施した。なお、通常事業関係の調査については、第145集として別途刊行した。

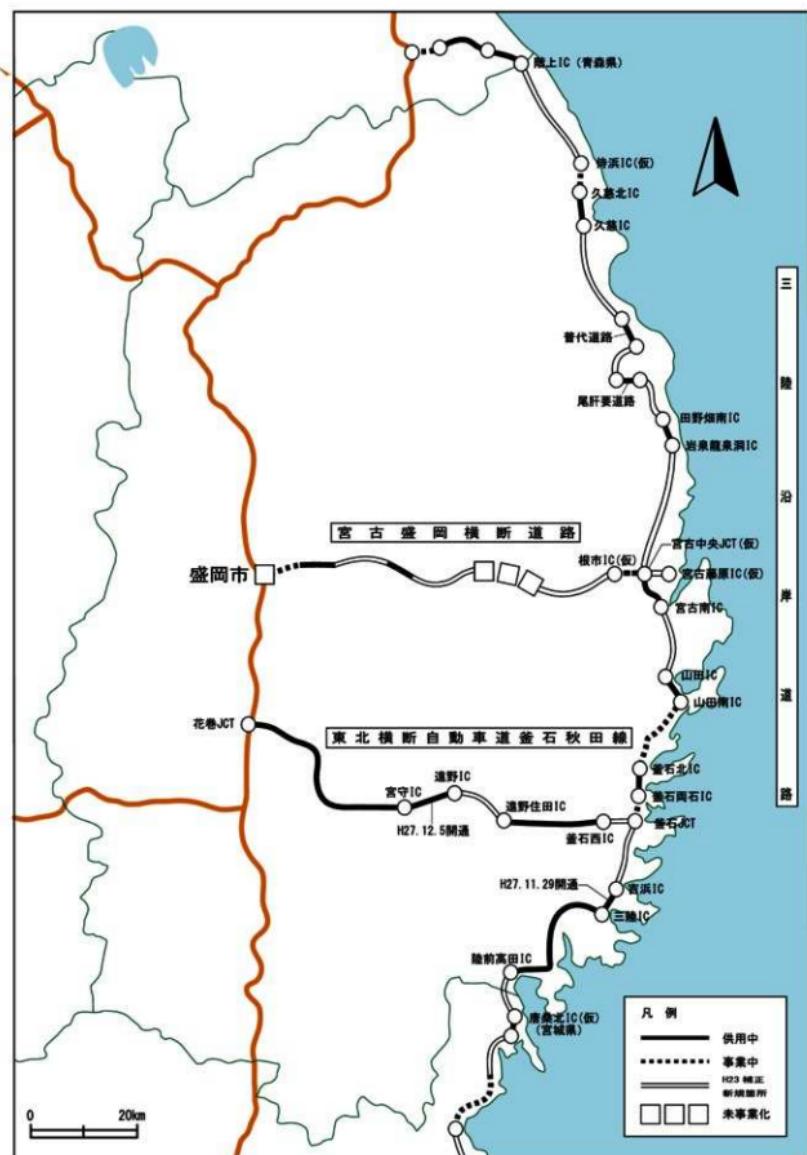
- 11 本事業の調査記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

岩手県沿岸市町村位置図



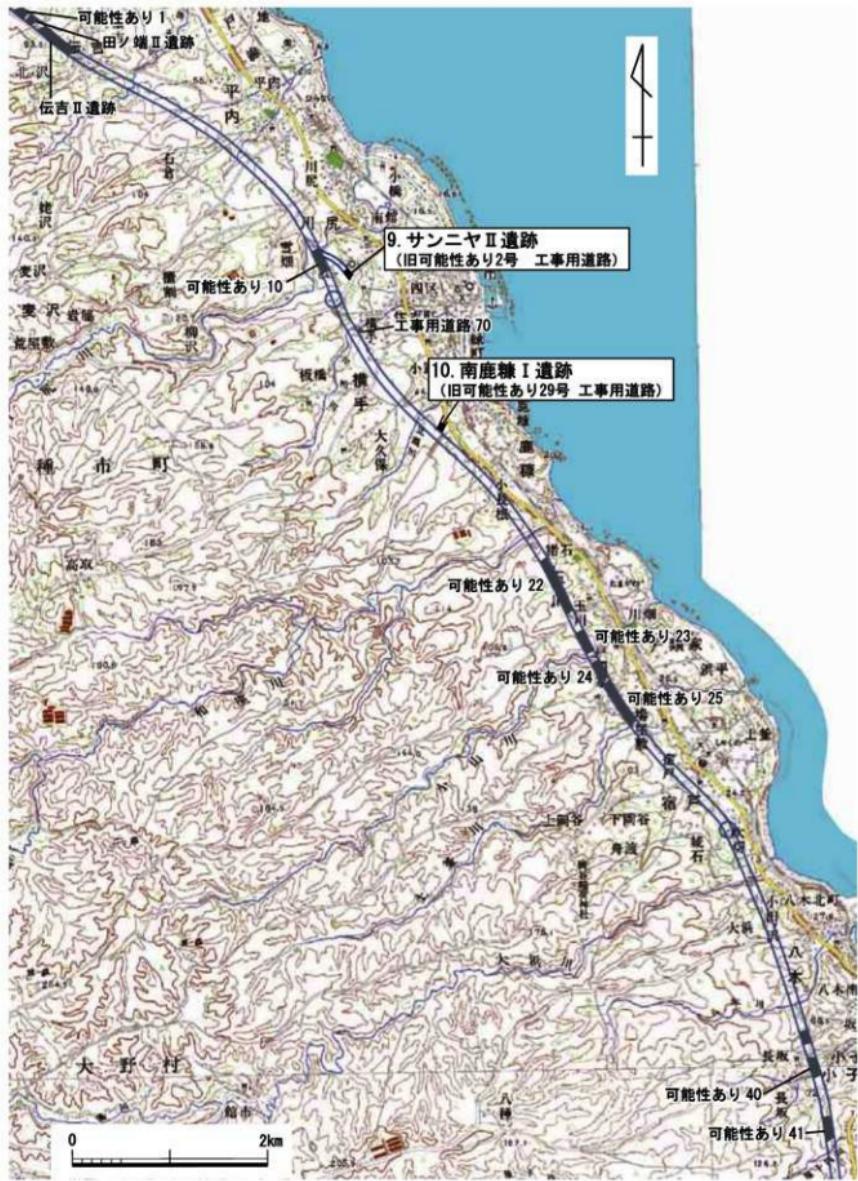
凡　例



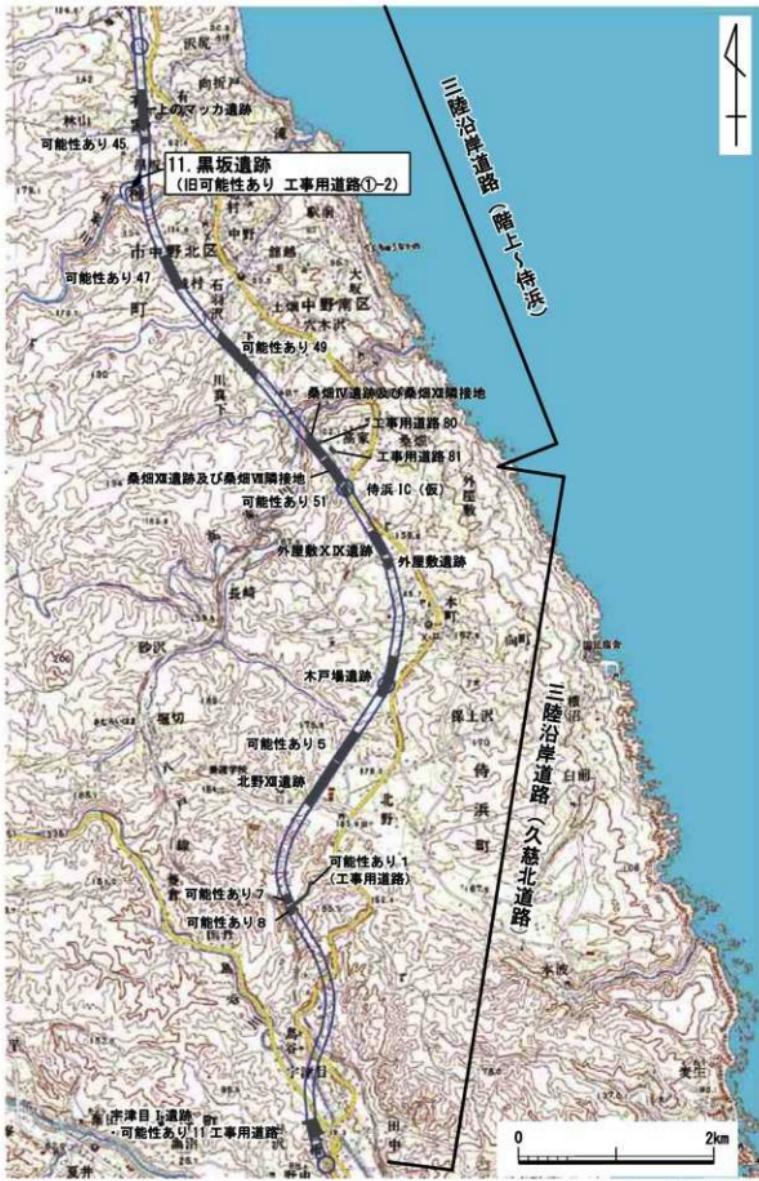


H26年末現在、国交省三陸国道事務所HPより引用、一部加筆

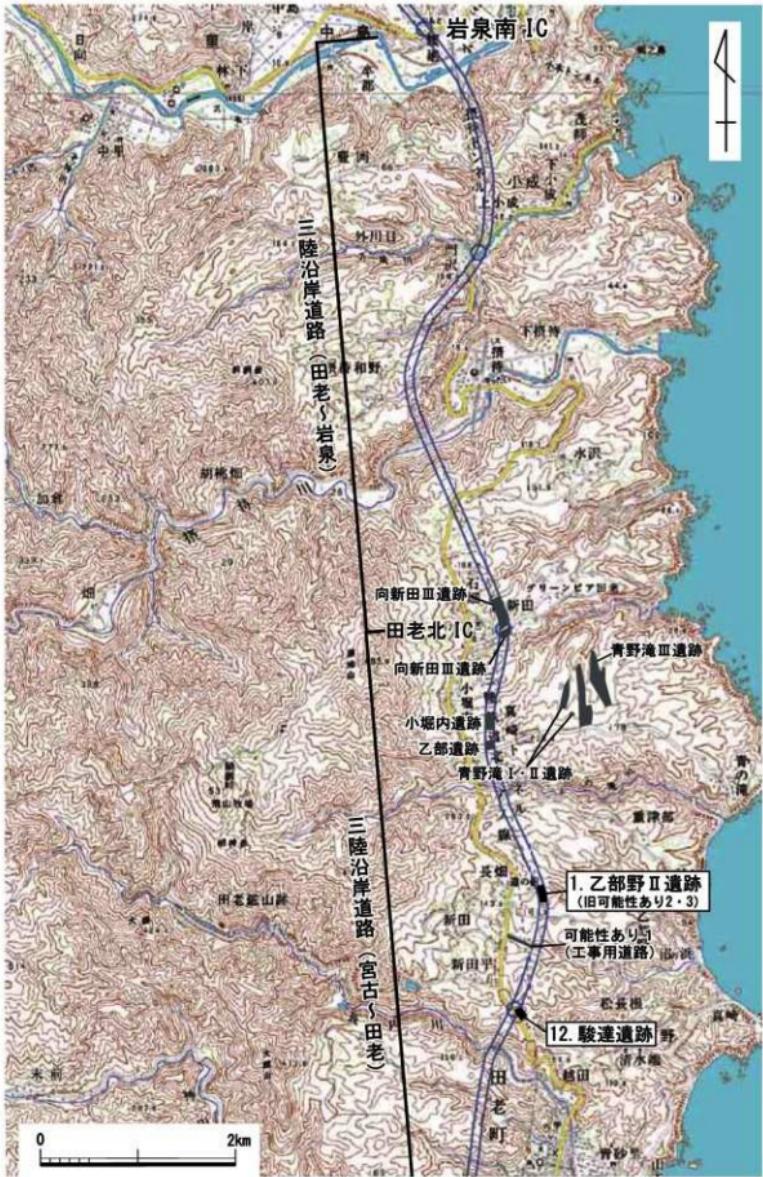
岩手県内 復興道路・復興支援道路全体図（国土交通省関係）



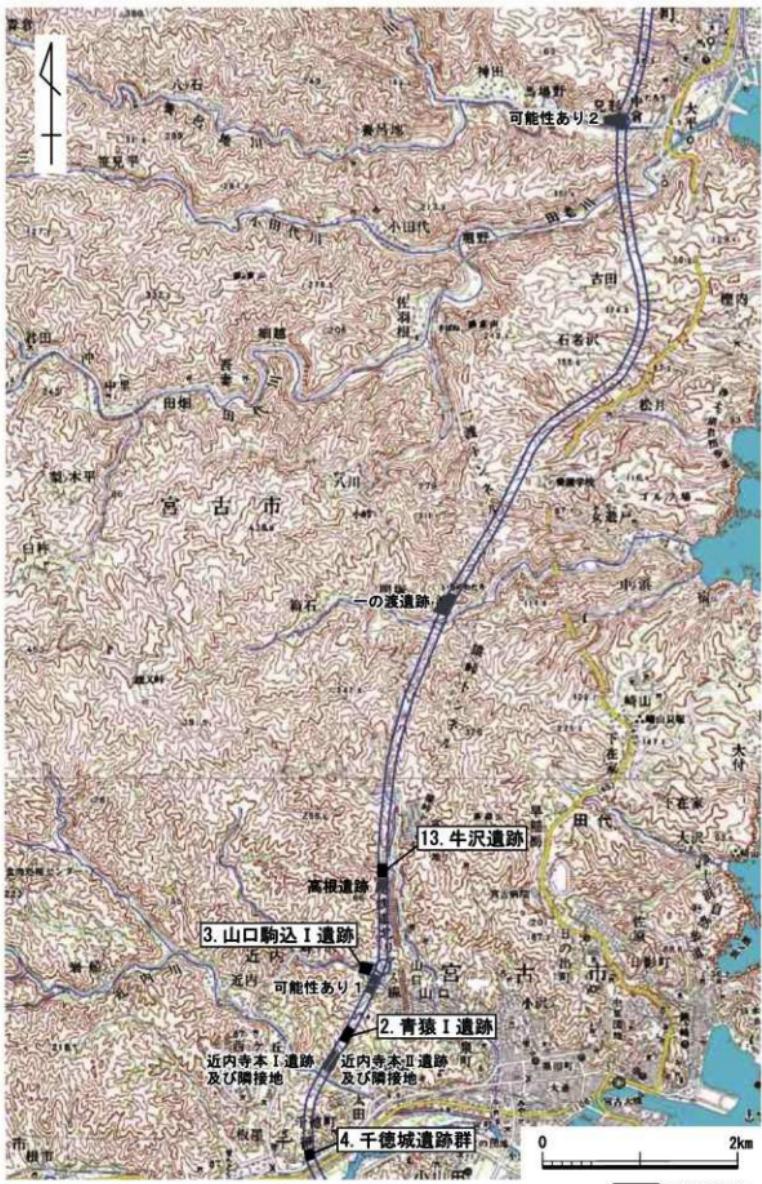
三陸沿岸道路（青森県陸上～侍浜）試掘調査位置図



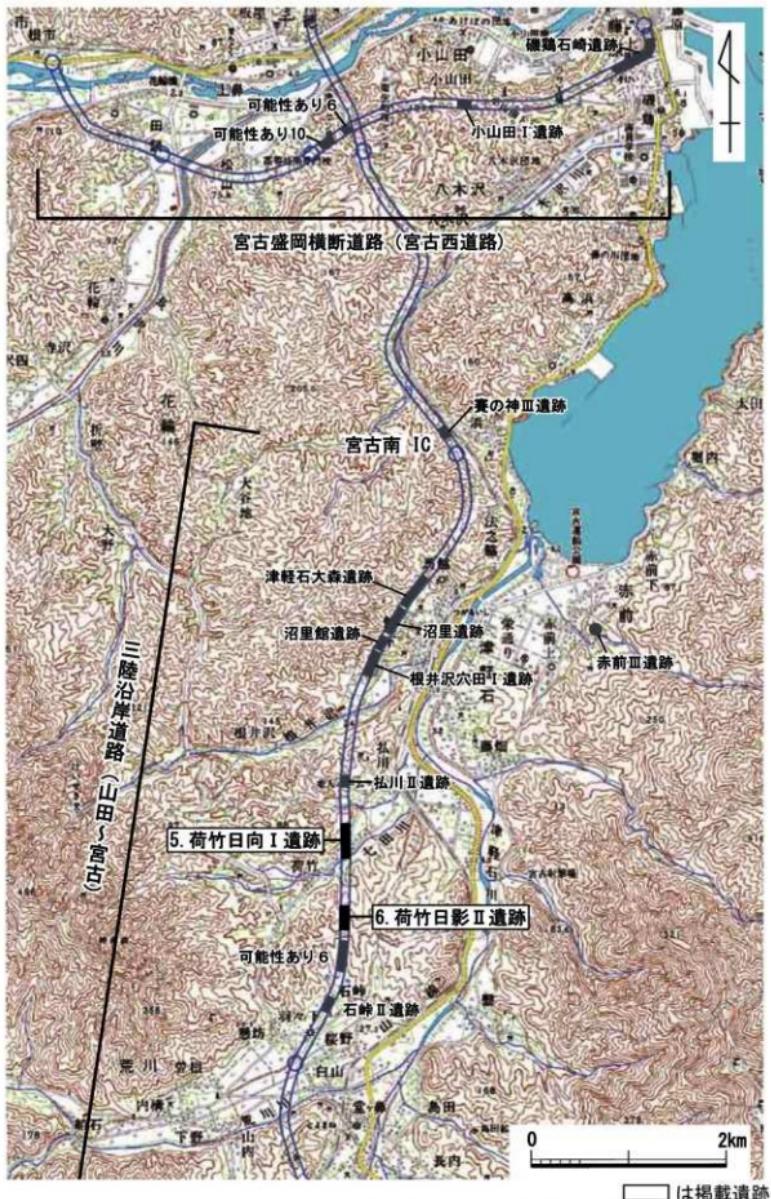
三陸沿岸道路（道野～待返）調査位置図



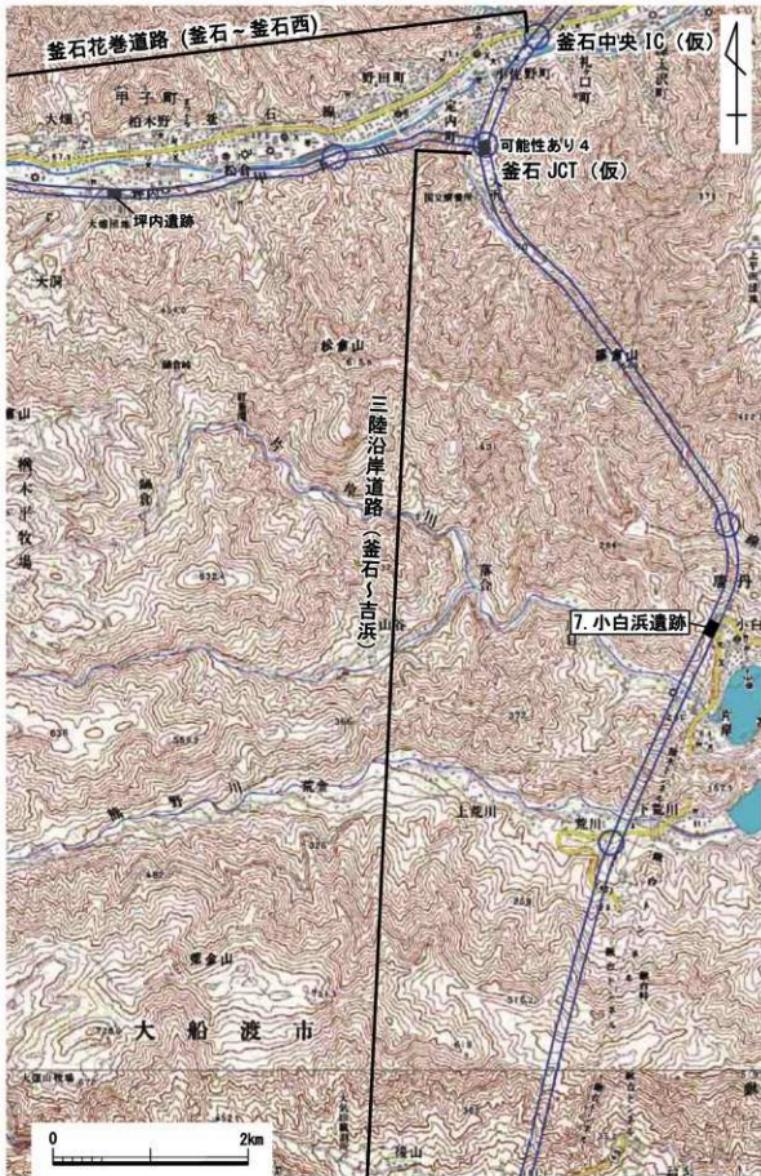
三陸沿岸道路（宮古～田老・ 田老～岩泉）調査位置図



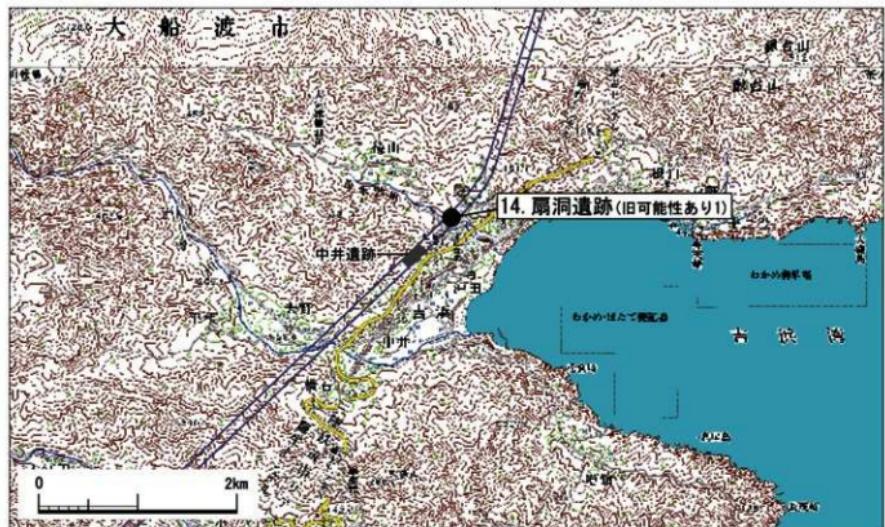
三陸沿岸道路(宮古~田老)調査位置図



三陸沿岸道路(山田～宮古)・宮古盛岡横断道路(宮古西道路)調査位置図



三陸沿岸道路（吉浜～釜石）・東北横断自動車道 釜石秋田線（釜石～釜石西）試掘調査位置図



三陸沿岸道路(三陸～釜石) 調査位置図



宮古盛岡横断道路（区界道路）調査位置図

試掘調査

1 三陸沿岸道路(宮古～田老)

乙部野Ⅱ遺跡 (KG84-2107 : 新規発見)

【所 在 地】 宮古市田老子乙部野地内

【事 業 者】 国土交通省東北地方整備局

三陸国道事務所

【調査期日】 平成26年4月21日(月)

～23日(水)

【調査結果】 調査地は、国道45号道の駅たろうから東側約500mに所在する山稜上に位置し、標高は130～140m、現況は山林である。

山稜の尾根上から緩やかな南傾斜地にトレッソを37箇所(T 1～37)設定し調査を行つた。

基本層序は以下のとおりである。

I層 黒色土 層厚15～35cm(表土 場所により暗褐色土となる)

II層 暗褐色土 層厚10～40cm

II-1層 暗黄褐色土 層厚10～30cm(II層にIII層が混在)

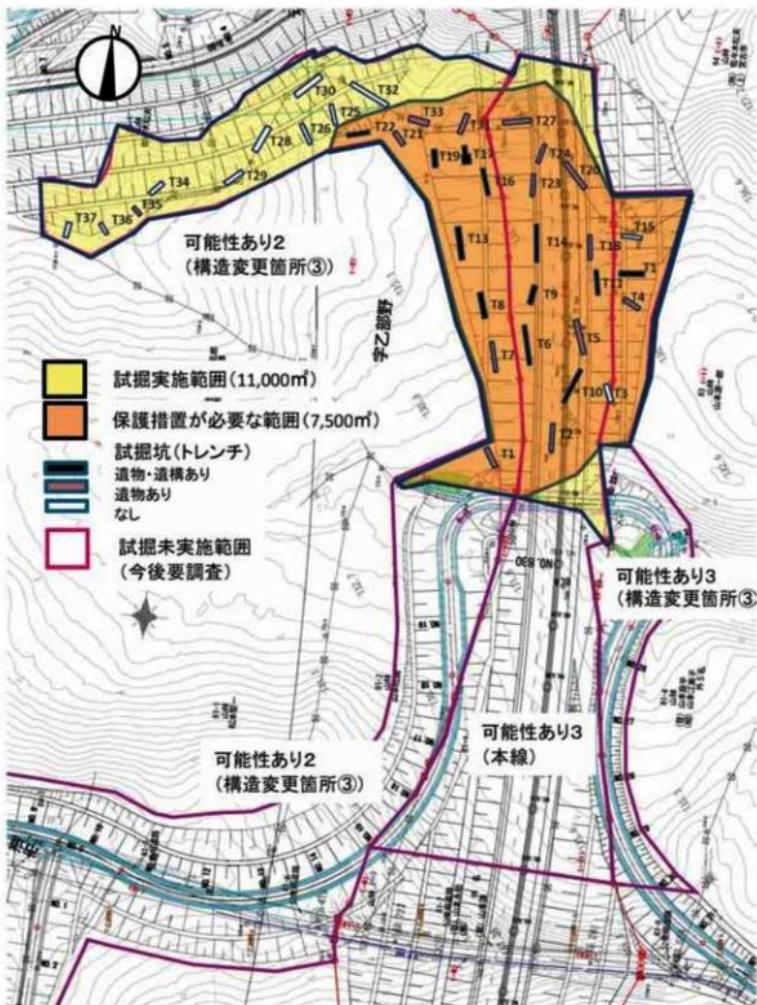
III層 黄褐色土 層厚不明(地山、場所により花崗岩礫を含む)

その結果、山稜尾根付近(T 25・26・28～30・32・34～37)ではほとんど遺物遺構は認められなかつたが、南側への緩斜面ではほぼ全域にわたって遺物の出土があり、住居跡、土坑と思われる遺構が12箇所のトレッソにて認められた。調査南端部の沢に向かう傾斜地は包含層が厚くみられたが、遺物は少なくなる傾向にある。遺物は縄文時代後期前半を主体として早期、前期、晚期の土器並びに石器類がみられ、試掘調査で確認できた遺構は住居跡5棟、土坑11基である。

今回の調査で遺構・遺物ともにやや密度の濃い状況が確認されたことから、周辺にも遺跡が広がる可能性が高い。



乙部野Ⅱ遺跡 位置図





調査風景（重機掘削）



調査風景（人力掘削）



T 1 断面



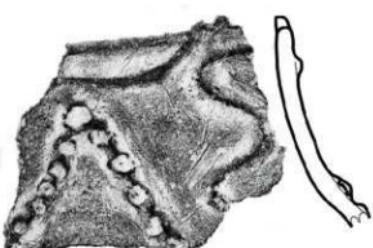
T 6 断面



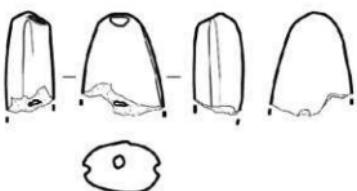
T 8 整穴住居跡検出状況



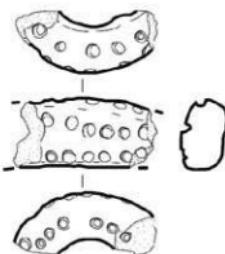
出土遺物（縄文土器・石器）



出土遺物 1



出土遺物 2



出土遺物 3

2 三陸沿岸道路(宮古～田老)

青猿I遺跡(LG33-0221)

【所在 地】 宮古市近内第2地割地内

【事業者】 国土交通省東北地方整備局

三陸国道事務所

【調査期日】 平成26年12月8日(月)

～11日(金)

【調査結果】 調査地は、調査対象区域は、宮古市役所から西方向に約3km内陸で、調査対象地となる地形は、閉伊川支流近内川左岸の丘陵頂部、丘陵斜面地、丘陵裾に接した谷部の大きく3箇所に分かれる。標高は丘陵頂部約80m、谷部約25mであり、現況は丘陵部・斜面地が山林、谷部は休耕田である。



青猿I遺跡 位置図

調査では、丘陵地に8箇所(T1～8)、斜面に7箇所(T9～15、16)、谷部に5箇所(T14、17～20)の計20箇所のトレーニチを設定した。

基本層序は以下のとおりである。

< T1～8 (丘陵上部) >

I 層 表土(層厚10～20cm)

II 層 黒褐色砂(層厚20～30cm)

III 層 暗褐色砂(漸移層)(層厚10～20cm)

IV 層 黄褐色土(地山)(厚さ20～30cm)

V 層 風化花崗岩(地山)(層厚不明)

< T9～13、15、16 (丘陵斜面) >

I 層 表土(層厚10～20cm)

II 層 灰褐～灰茶褐色砂質土(層厚20～50cm)

III 層 暗灰～暗褐色砂質土(層厚40～60cm)

IV 層 風化花崗岩(地山)(層厚不明)

< T14、17～20 (丘陵下端) >

I 層 表土 層厚10～20cm

II 層 褐～暗褐色砂質土 層厚20～50cm

III 層 黑褐色砂質土 層厚50～60cm

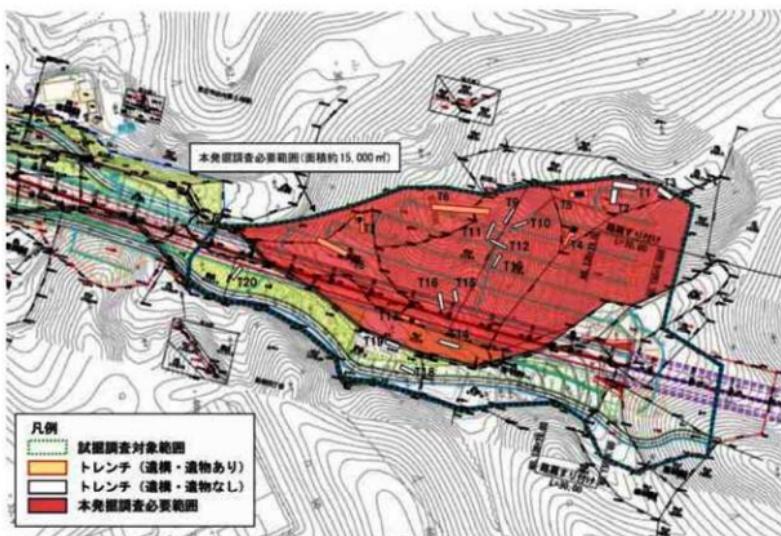
IV 層 暗灰褐色砂礫土 層厚不明

調査の結果、丘陵頂部及び谷部に設けたトレンチで遺構遺物を確認した。

丘陵頂部のT 4 及びT 5 で竪穴住居跡を各1棟、T 7 で土坑1基、T 8 で土坑1基と遺構と考える落込みを確認した。いずれも現地表面から約20cm程度で確認された。遺物はT 4 ~ 7 から土師器が少量出土している。

谷部においては丘陵裾部に接するT 17 で、表土直下のⅡ層から完形に復元可能な縄文土器片と土師器の小破片が出土した。

以上のことから、調査対象地域には古代と縄文時代の遺跡が存在するものと考えられる。



トレンチ位置図



調査風景（重機掘削）



T 4 壁穴住居跡検出状況



T 5 壁穴住居跡検出状況



T 7 土坑検出状況



出土遺物

3 三陸沿岸道路(宮古～田老)

山口駒込I遺跡(LG23-2244)

【所在地】 宮古市山口第9地割駒込内地

【事業者】 国土交通省東北地方整備局

三陸国道事務所

【調査期日】 平成26年4月14日(月)

～18日(金)

【調査結果】 調査地は、宮古湾から西方向に約3km内陸で、山口川支流峰ヶ沢川左岸の丘陵部及び谷部である。標高は約24mであり、現況は山林や畠地である。

今回の発掘調査は、三陸沿岸道路(宮古～田老)に伴って、事業地における埋蔵文化財の実態を把握する目的で行った試掘調査であ

る。当該事業地には縄文時代の集落遺跡である山口駒込I遺跡があり、埋蔵文化財の状況を把握するため、対象区域内に幅0.8m～4m、長さ3m～23mのトレンチ(以下T)を21本設定し掘削を行った。

基本層序は以下のとおりである。

I層	暗褐色土	層厚20～60cm(表土及び耕作土)
II層	黒褐色土	層厚20～60cm(谷部堆積土)
III層	黒色土	層厚20～40cm(縄文時代の包含層)
IV層	粘質黃褐色土	層厚30cm(基盤層・地山)
V層	風化花崗岩	層厚不明(基盤層・地山)

包含層はIII層の黒色土で、縄文中期の土器が中心であった。遺物は遺存状態がよく、摩滅等は見られなかった。なお古代の土器が1点出土した。遺構面は1面を把握した。調査の結果、谷に挟まれた南向き緩斜面裾部付近の平坦面に設定したT11において、深さ1mから円形の竪穴住居跡のプランを確認した。また、T11～13では遺物包含層を確認した。一方、東部及び西部の谷部では、遺構及び遺物を確認することはできなかった。以上の所見から丘陵の緩斜面に当たる東西約80m・南北約25mの約2,000m²に、縄文時代の遺構群が存在すると考えられる。



山口駒込I遺跡 位置図



検出遺構



遺構面の深度



作業風景 人力掘削



トレンチ位置図



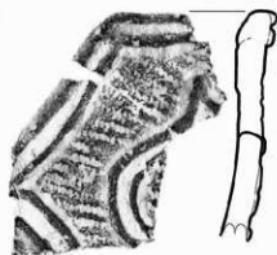
調查地 遺景



調查風景 重機掘削



調查風景 堆積狀況精查



任士遺物

4 三陸沿岸道路(宮古～田老)

千徳城遺跡群(LG33-0197)

【所在地】 宮古市千徳地内

【事業者】 国土交通省東北地方整備局

三陸国道事務所

【調査期日】 平成26年12月15日(月)

～18日(金)

【調査結果】 調査地は、JR宮古駅より西へ約2.2km、標高6～30m、現況は宅地、畠地及び山林である。

調査区全体に21本(尾根部7本・谷部14本・T 1～21)のトレンチを設定した。

基本層序は以下のとおりである。

<調査区北側：トンネル坑口予定地付近>

I 層 黒褐色土 層厚5cm(表土)

II 層 暗褐色土 層厚35cm

III 層 褐色土 層厚不明(地山・真砂土)

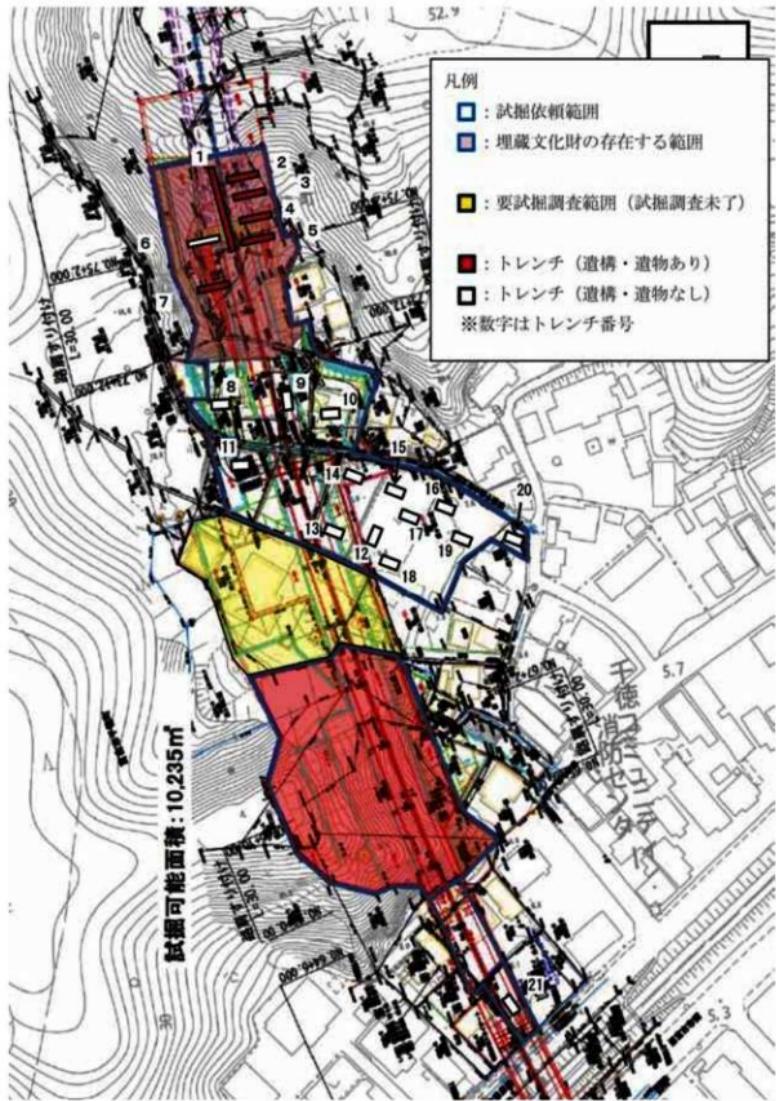
調査の結果、調査区東側の南西向き斜面に設定したT 1(センター杭No.76より4.5m下位)において、堅穴住居跡1棟を確認した。住居壁面はトレンチ上部(東側)のみ残存し、下部(西側)は流失していた。床面付近から土師器片、鉄滓片、羽口片が出土していることから古代の住居跡と考えられる。T 1からは他に埋土より縄文土器片も出土している。

また、尾根上端から谷側に向って設定したトレンチ(T 2～5)では、谷側に向って、地山が人為的に掘削されたと思われる状況が確認された。調査区外に曲輪が所在することから、城館の防御施設の可能性があると思われる。

一方で、調査区西側の丘陵部には現地踏査時に曲輪が確認されていたため、要本調査範囲とし、掘削は行わなかった。



千徳城遺跡群(南側)位置図



トレンチ位置図（遺跡南側）



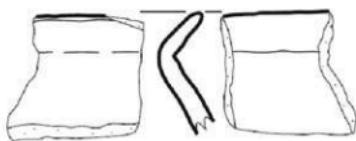
調査風景（T 1 付近）



T 1 壁穴住居跡検出状況



調査区西側に広がる平場



出土遺物

5 三陸沿岸道路(宮古～田老)

荷竹日向 I 遺跡 (LG63-0231 : 範囲拡大)

【所在地】 宮古市津軽石荷竹地内

【事業者】 国土交通省東北地方整備局

三陸国道事務所

【調査期日】 平成26年5月19日(月)

～20日(火)

【調査結果】 調査は、JR山田線津軽石駅の南西へ約2.5kmに位置し、荷竹日向 I 遺跡 (LG63-0231) の北側に隣接する丘陵頂部周辺が調査対象地である。

トレンチを計7箇所に設定した。T 1・2 は丘陵頂部平坦面に、T 3・4 は丘陵頂部から南側に延びる平坦面に、T 5・6 は同じく東側に延びる平坦面に設定した。T 7 はかつて神社が存在した平坦面に設定した。

基本層序は以下のとおりである。

I 層 暗褐色土 層厚20cm(表土)

II 層 灰褐色砂質土 層厚20～30cm

III 層 灰白色砂礫土 層厚30cm(地山)

調査の結果、遺構は T 1・4・5 で確認された。遺構は T 1 で土坑及び溝状遺構の計5基、T 4 で土坑1基、T 5 で溝状遺構1基である。遺物は、T 1・4 の遺構埋土から土師器片が出土している。

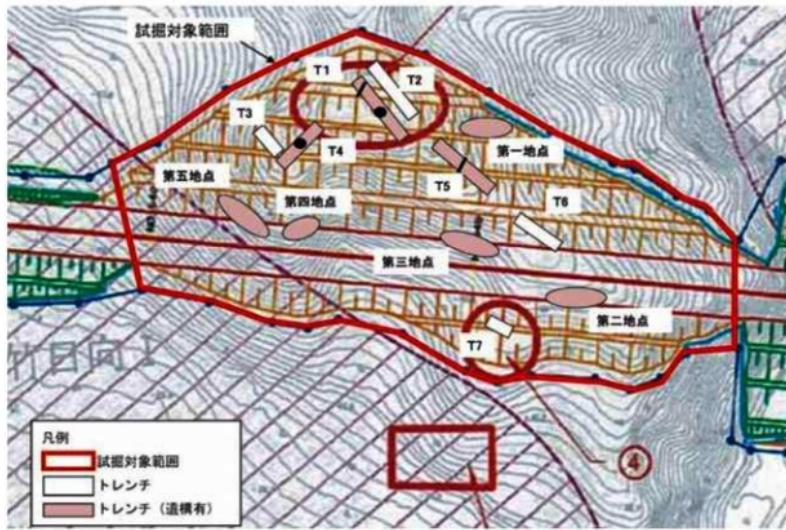
なお、当該地は樹木伐採のための重機進入路が設置されており、進入路壁面の精査により遺構と遺物を確認することができた。

遺構を確認した地点は5箇所あり、特に地点4、5では地山をほぼ垂直に掘込んだ堅穴住居跡と思われる遺構を確認している。その他の地点でも同様な地山を掘り込んで設けられた遺構を観察できた。遺物は地点2、3、5で土師器片、繩文土器片が出土している。

以上の結果から、当該地まで荷竹日向 I 遺跡の範囲が伸びる可能性が高い。



荷竹日向 I 遺跡 位置図



トレンチ位置図



調査風景



T1 遺構検出状況



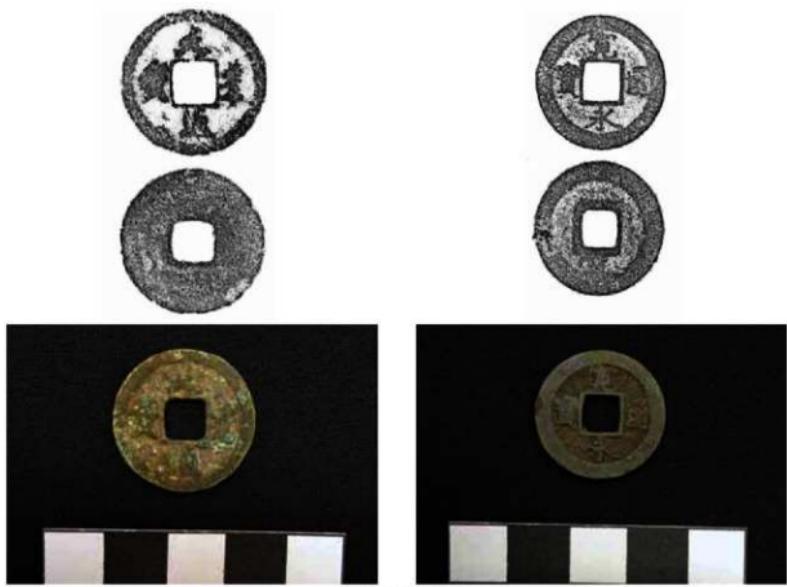
地点4 遺構検出状況



地点5 遺構検出状況



出土遺物 1



出土遺物 2・3

6 三陸沿岸道路(山田～宮古)

荷竹日影II遺跡 (LG63-0280 : 範囲拡大)

【所在地】 宮古市津軽石荷竹地内

【事業者】 国土交通省東北地方整備局

三陸国道事務所

【調査期日】 平成27年3月10日(火)

【調査結果】 調査地はJR山田線津軽石駅の南西約3.2km、津軽石川支流七田川右岸の丘陵上に位置する。

調査については、当該事業に付随する機能補償道路の建設に伴うもので、可能性あり1～4として対象範囲内に各1箇所、合計4箇所トレンチを設定し、人力による掘削後に精査・記録作成を実施した。

基本層序は以下のとおりである。

I層 表土 層厚5～15cm

II層 暗褐色土～黒褐色シルト層 層厚20～90cm

III層 暗灰色土層 層厚10cm

IV層 淡褐色土層 層厚20cm

V層 黄褐色土～黄褐色シルト層 層厚不明(遺構検出面・地山)

可能性あり1は、南北に続く尾根南端部の緩斜面である。調査の結果、暗褐色・黒褐色シルト等の表土及び旧表土を除去すると、礫を含む黄褐色シルト～粘土の地山に到達した。遺構・遺物は確認できなかった。

可能性あり2は、可能性あり1から南北に続く尾根が一度下り傾斜となり、再度上昇して長く平坦な尾根を形成する範囲の中央部に位置する。調査の結果、設定したトレンチの北端で堅穴住居跡と捉えられる遺構を確認した。住居跡本体は、さらに北側に連続するものと推測され、出土遺物がないため明確な帰属時期は判然としないが、周辺の調査事例から暫定的に縄文時代としておきたい。

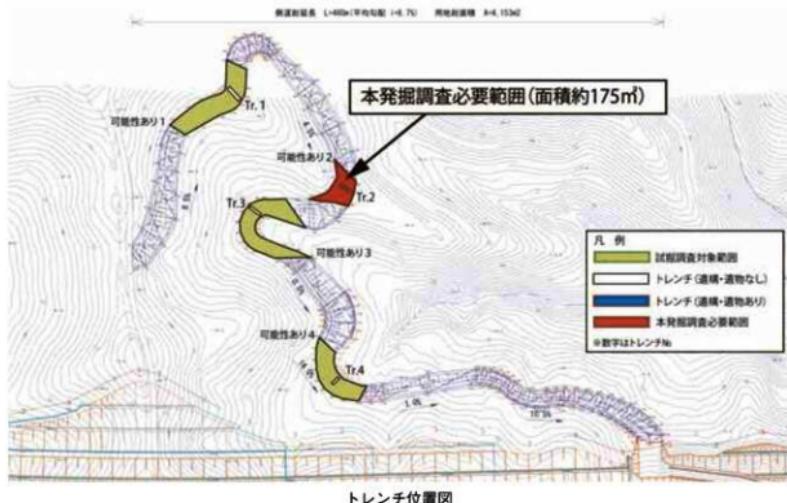
可能性あり3は、尾根と尾根に挟まれた谷状の北向き緩斜面である。調査の結果、埋没谷を構成する堆積が確認できたのみで、遺構・遺物ともに確認されなかった。

可能性あり4は、緩斜面先端の西向き平坦面である。調査の結果、表土直下で地山の暗黒茶褐色土となり、遺構・遺物ともに確認されなかった。

上記の試掘結果から可能性あり2については、立地する尾根上に遺跡が連続して存在するものと推測され、北側に隣接する荷竹日影II遺跡の範囲が、当該地まで拡大することとなった。



荷竹日影II遺跡 位置図



トレンチ位置図



T 2 調査状況



T 2 土層堆積状況



T 2 遺構確認状況



T 2 遺構埋土堆積状況

7 三陸沿岸道路(吉浜～釜石)

小白浜遺跡(MG92-0133)および隣接地

【所在地】 釜石市唐丹町字小白浜地内

【事業者】 国土交通省東北地方整備局

南三陸国道事務所

【調査期日】 平成26年12月8日(月)

～11日(金)

【調査結果】 小白浜遺跡は、釜石市役所から南南西に7.4km 離れた唐丹湾に向かう緩斜面に立地する。調査対象区域は、埋蔵文化財包蔵地内の水田(1区)と隣接する北側の山林(2区)である。調査では、1区に7箇所(T1～7)、2区に13箇所(T11～23)の計20箇所のトレンチを設定した。



小白浜遺跡 位置図

1区の基本層序は以下のとおりである。2区はⅢ・Ⅳ層が確認できず、一部にⅡ層を認めるもののほとんどの箇所でⅠ層表土下はV層地山面である。

I層 表土・盛土 層厚20～150cm

II層 黒色土 層厚0～40cm (旧表土)

III層 黒褐色土 層厚0～10cm (遺物包含層・礫多い)

IV層 褐色土 層厚5cm程度 (遺構検出面)

V層 黄褐色土 層厚不明 (礫層・地山)

調査の結果、1区では、水田上面に設定したT1からは1棟の竪穴住居跡、T2からは1基の土坑と竪穴住居跡と想定される円形プランが検出された。時期は出土土器から、縄文時代中期後葉と考えられる。水田面に設定したT4・5では、地形が改変され遺跡が破壊されている様相が確認できたが、海寄りに設定したT6・7では、土坑状のプランと共に縄文土器も出土している。遺跡全体が大きく地形改変されているが、多くの遺構や遺物が検出される可能性が高い。隣接地で急峻な地形となる2区では、最も北寄りに設定したT18から縄文土器片が1点出土したのみで、いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかった。散見される平坦面は、後世の植林に関わる道路などの痕跡であることが判明した。



トレンチ位置図



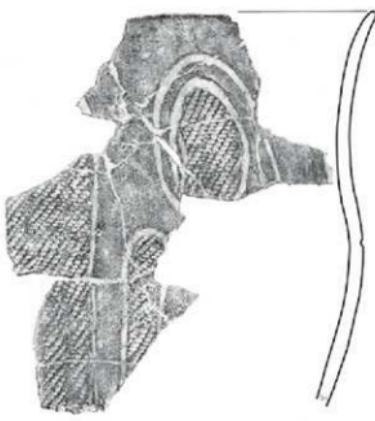
調査区全景（1区）



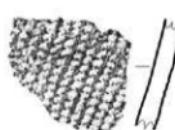
T 2 穹穴住居跡



T 15 全景



出土遺物 1



出土遺物 2

8 宮古盛岡横断道路(区界工区)

盆花遺跡

(LF20-2223: 新規発見 旧可能性あり10)

【所在地】 盛岡市篠川第2地割地内

【事業者】 国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

【調査期日】 平成26年11月7日(金)

【調査結果】 調査地は、JR山田線区界駅の西北西約2.4kmにある篠川に注ぐジナサワと呼ばれる小規模の沢により形成された、谷底低地の西面する山の緩斜面地である。現況は原野となっている。平場を中心に全体に5箇所トレンチを設定して調査を実施した。

基本層序は以下のとおりである。

I層 暗褐色土 層厚10~20cm(粘土質シルト層・表土・耕作土)

II層 黒褐色土 層厚20~40cm(粘土質シルト層・自然堆積層)

III層 暗褐色土 層厚0~10cm(粘土質シルト層・自然堆積層・遺物包含層)

IV層 黄褐色土 層厚不明(シルト層・自然堆積層・遺構検出面)

おおよその堆積層は上記のとおりであるが、暗褐色(I層)の表土下に、小礫を含む黒褐色の自然堆積層(II層)が堆積し、黄褐色土(IV層)が堆積する。T2及びT5では、II層とIV層の間に層厚10cm程度の暗褐色の粘土質シルト層(III層)が確認された。同層中からは縄文土器片が出土している。

T1・3~5では、IV層上面で遺構検出を行ったが、遺構は発見されなかった。

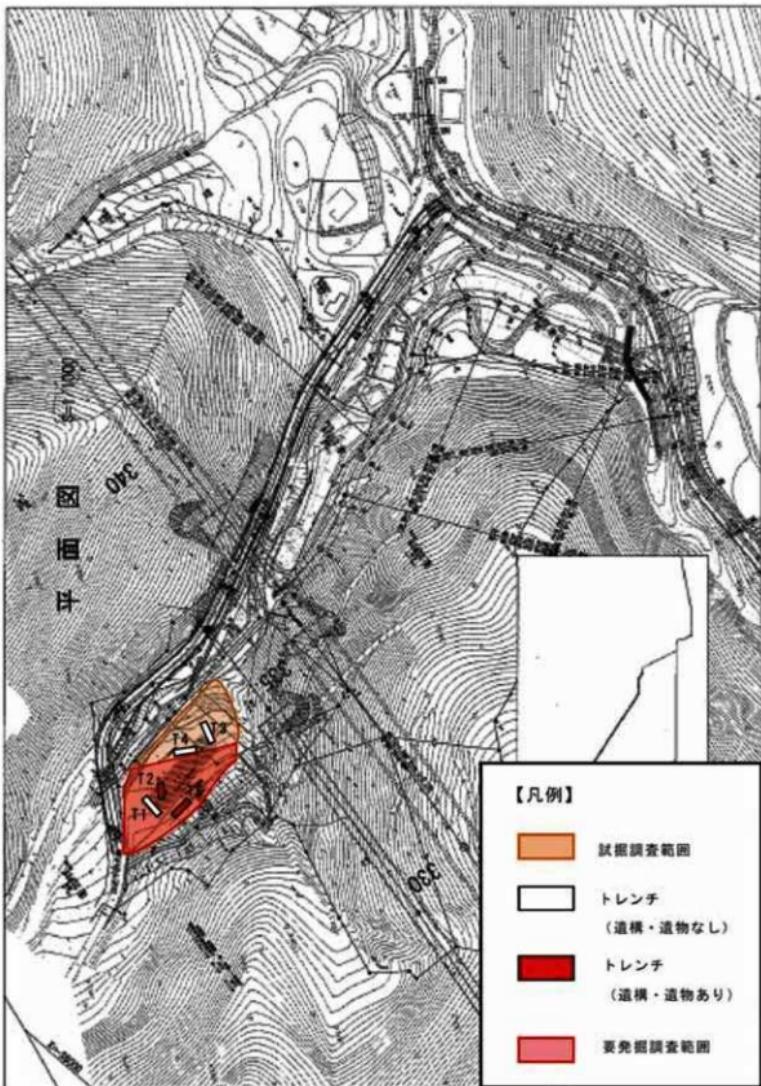
T2ではIII層中で、縄文土器片が面的に出土し、同層の落ち込みを確認したことから、III層を覆土とした竪穴住居跡の一部にあたるものと考えられる。出土した縄文土器から、縄文時代後期前葉～中葉のものと考えられる。

なお、T1・2ではII層に比定すると考えられる焼土と柱穴を確認した。出土遺物がないため時期の詳細は判断できないが、近世以降のものと推測する。

調査の結果、T2・5では、遺構と考えられる落ち込みや遺物を確認したことから、両トレンチ周辺の緩斜面地には、縄文時代後期前葉～中葉と考えられる遺構が分布しているものと推測する。



盆花遺跡 位置図



トレンチ位置図



調査前風景



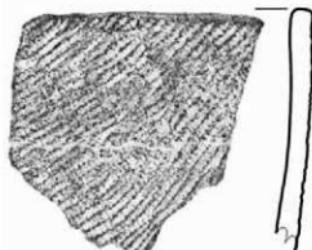
T 2 平面



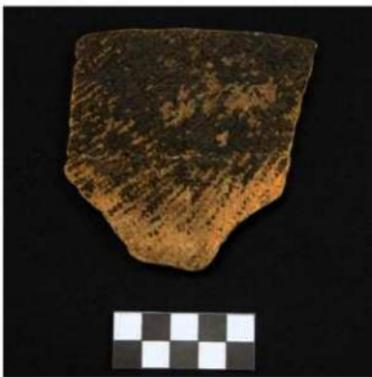
T 2 遺物出土状況



作業風景



出土遺物



本 発 掘 調 査

9 三陸沿岸道路(洋野階上道路)

サンニヤII遺跡

(IF48-2231:旧可能性あり 2号工事用道路)

【所在地】 九戸郡洋野町種市第25地割地内

【事業者】 国土交通省東北地方整備局

三陸国道事務所

【調査期日】 平成26年10月20日(月)

~11月21日(金)

【調査面積】 700m²

【調査結果】 調査地は、JR八戸線種市駅から西へ約1km、標高50mの丘陵上に立地する。現況は山林・林道である。

三陸沿岸道路(階上~侍浜)建設事業に伴う第2号工事用道路が計画され、事業用地が

周知の埋蔵文化財泡蔵地である横手遺跡(IF48-2234)及びサンニヤ遺跡(IF48-2128)に近接することから、試掘調査を実施した。遺構・遺物が確認されたことから、サンニヤII遺跡として新規登録を行い、立木伐採等の諸条件が整った後に発掘調査を実施した。

基本層序は以下のとおりである。

I層 表土

II層 10YR2/1黒色土(しまり中。粘性弱。炭化物微量混入。遺物包含層)

III層 10YR2/2黒褐色土(しまり中。粘性弱)

10YR5/6黄褐色ローム粒(ϕ 2~5mm。少量~中量混入。遺構確認面)

IV層 10YR3/4暗褐色~10YR4/2灰黄褐色ローム(しまり強。粘性中。八戸火山灰)

10YR4/4褐色~10YR5/6黄褐色ローム粒

(ϕ 2~5mm。微量~多量混入。上層ほど10YR5/6黄褐色ローム粒が微量~少量混入する)

V層 10YR6/6明黄褐色ローム(しまり強。粘性弱。八戸火山灰)

10YR5/6黄褐色ローム粒(ϕ 2~5mm。ロームブロック多量混入)

発掘調査の結果、古代の竪穴住居跡2棟(S I 1・2)、土坑2基(S K 8・9)、縄文時代の溝状土坑7基(SK 1~7)を検出した。

<1号竪穴住居跡(S I 1)>

G・H-5・6グリッドに位置し、III層上面で検出した。住居南西部は調査区外に延びる。平面形は方形を呈すると推定される。規模は長軸4.05m、短軸3.58m、検出面からの深さは0.34mを測り、床面積は約12m²である。長軸方向はN-27°-Wである。壁は南東部が一部削平されているが、床面から垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で中央部は硬化している。住居中央部に焼土が広がり、壁材と



サンニヤII遺跡 位置図

推定される長さ0.4~0.7m前後の炭化材が中央部に向かって放射状に検出された。

埋土は、1・2層が黒褐色土で炭化材・炭化物が多量に混入し、3層には焼土が層状に堆積する。4~5層にはIV層由来の黄褐色ロームがブロック状に混入することから、住居が廃絶して一定時間を経て自然に埋没した後に火災に見舞われ、焼土・炭化材を伴う土層（2・3層）が形成されたと推定される。

柱穴は6基（Pit 1~6）確認した。Pit 2・7は方形の掘り方となるが、その他は円形・楕円形を呈する。Pit 2・3・7・8は住居の主柱穴、Pit 1・4~6は壁面に伴う小柱穴と考えられる。主柱穴は径20~40cmの掘り方で柱穴は径20cm、小柱穴が径15~20cmとなり、検出面からの深さは10~25cmを測る。

カマドは住居北西辺の中央に1箇所ある。平坦な燃焼部から長さ0.9m程度の煙道が緩やかに傾斜しながら伸び、住居壁から一旦上がって、直径30cmの円形を呈した煙出しが付属する。カマドの袖は地山を削り出して構築している。カマド裾部から燃焼部付近に焼土が顕著に認められたが、支脚は認められなかった。

遺物は、住居床面及び埋土下層から土師器（P 1~11）が出土した。カマド周辺で顕著に認められ、土器の多くが住居壁面に沿って出土し、床面中央部からは確認されなかった。出土位置は土器の保管のあり方を反映しているものと推察される。土師器の器種は長胴壺・壺・瓶・鉢・壺である。遺構の時期は、出土遺物から8世紀後半~9世紀初頭と判断される。

<2号竪穴住居跡（S I 2）>

E-6・7グリッドのⅢ層上面で検出され、長軸約4m、短軸約3.5mをはかる隅丸方形の土坑であり、東側は樹根による遺構の損壊が著しかった。その形状から堅穴住居と想定され、慎重に掘削を行った。埋土の1層に小さな炭片が、3層には大きいもので長さ約40cmの形状を残す炭化材が認められた。3層の炭化材の多くは10cm程度のもので、遺構内に散在しており現位置を残すものではなく、SI 1と異なる様相を呈している。TP40.6mの中央部付近を中心に土が硬化している範囲が認められ、床面と考える。床面のレベルは北・南・西側でT.P40.6m、東側でT.P40.5mと東側へやや傾斜しており、北東へ傾斜する地形の影響を受けていると考える。なお、被熱痕跡（遺構図中の焼土範囲）も確認された。

遺構北辺はその中央部で遺構内側へ張出すような形状を呈し、付近の埋土に焼土が含まれていることから、カマドの痕跡を示すものと考えられる。この張出し部に接して長軸約70cm短軸約60cm深さ約20cmの土坑（pit 1）が床面で検出された。カマドに伴う可能性もあるが、埋土に焼土は含まれていなかった。

床面検出後は、柱穴跡や壁溝の検出を試み精査及び掘削を行ったが、柱穴跡の痕跡を見出すことはできず、遺構の北西部で壁溝を一部検出したにとどまった。

遺物は少なく、埋土からは長胴壺1個体が、床面付近から円碟3個体が出土している。出土遺物より、当遺構の年代を9世紀前半と考えている。

以上の様相から、当遺構は堅穴住居と想定されるが、遺物が著しく少ないと、カマドを明確に確認できず、柱穴跡も検出できなかった状況などS I 1と様相を異にする点が多いことには注意を要する。

<陥し穴（SK 1～7）>

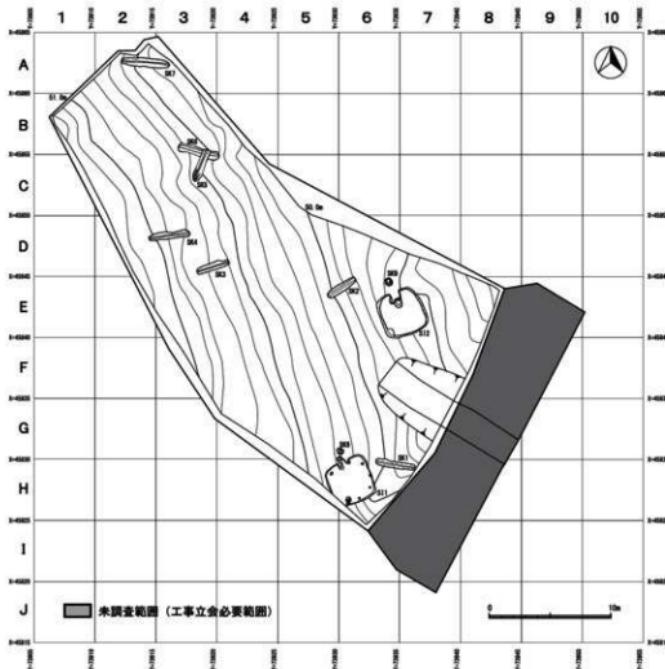
陥し穴は7基確認され、いずれもⅢ層上面で検出した。SK 5・6は重複するが、それ以外は単基存在である。重複するものを除けば、それぞれ3～15m程度の間隔を置いて位置する。平面形は溝状を呈する。規模は開口部で長軸263～387cm、最大幅37～70cm、底部で長軸263～393cm、最大幅10～25cm、検出面からの深さは85～112cmを測る。長軸は東西方向（SK 1・4・6・7）になるものと、北東～南西方向（SK 2・3・5）になるものに分けられるが、いずれも等高線に直交して位置する。断面形は、長軸方向がほぼ垂直になるもの（SK 1・3～6）と、オーバーハングして逆台形状を呈するもの（SK 2・7）があるが、短軸方向は上端でやや開き漏斗状を呈する。底面はおおむね平坦であるが、逆茂木等の杭痕跡は認められなかった。埋土は黒褐色～暗褐色土を主体とし、十和田中振火山灰（To-Cu）が微量～多量混入する。SK 1から土器片が確認されたが、それ以外からは遺物は出土しなかった。年代・性格については、形状及び堆積土の状況から、縄文時代のものと推定される。

<土坑（SK 8・9）>

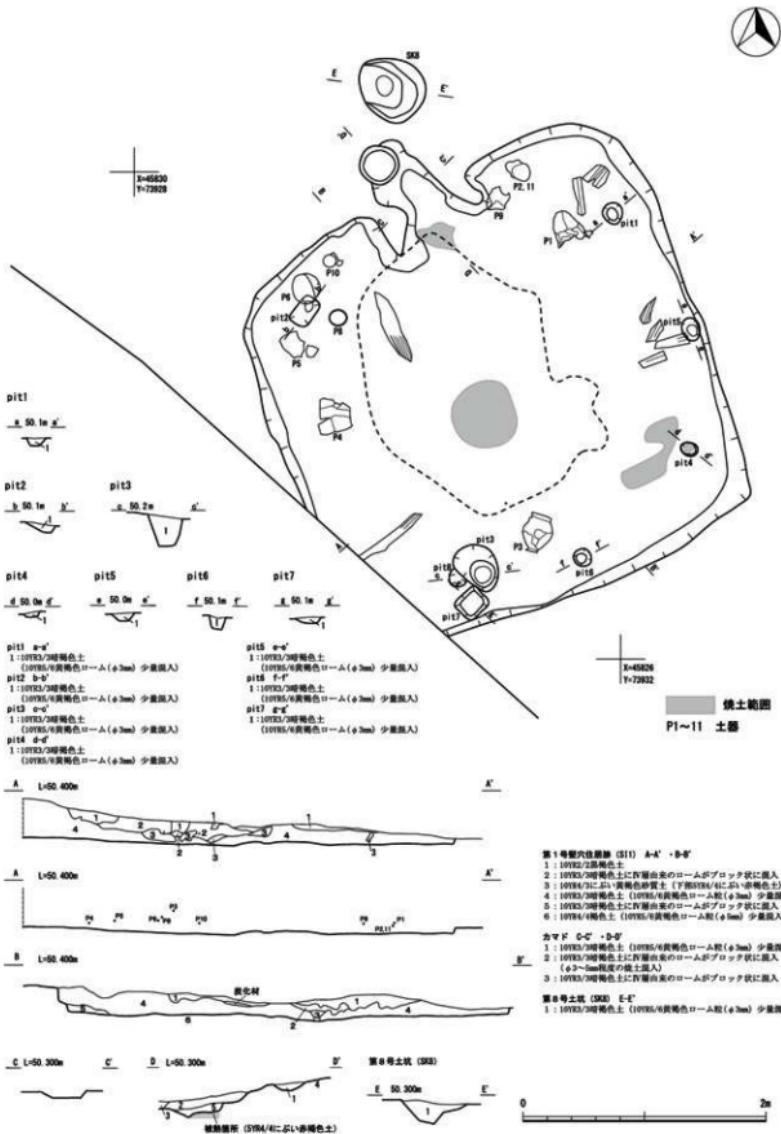
土坑は2基確認され、いずれもⅢ層上面で検出した。SK 8はSI 1のカマドの張出し部の北側に位置する。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.62m×短軸0.54m、検出面からの深さは19cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とし、焼土や炭化材は混入していない。SK 9は、SI 2の北側に約80cm離れて検出された径約60cm、深さ約40cmの土坑である。SI 2のカマド痕跡と考える張出し部延長線上に位置することから、煙り出し口の可能性もある。焼土、炭化材、遺物などは埋土に含まれていなかった。

【まとめ】

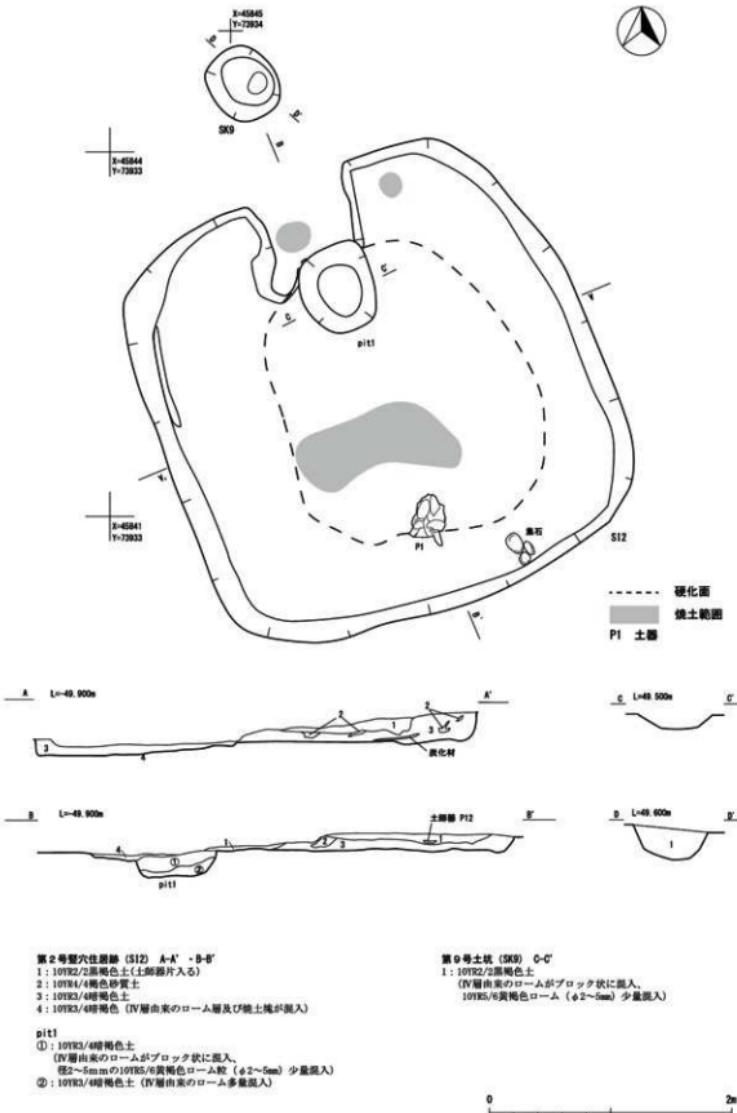
発掘調査の結果、本調査区周辺は縄文時代には狩猟場、奈良・平安時代には集落として利用されたことが明らかになった。縄文時代の陥し穴が調査区全域に点在することから、調査区周辺にも広がるものと予想される。また、古代の堅穴住居跡は調査区南側で検出され、北側では確認できなかった。本調査区南側に隣接する横手遺跡（IF48-2234）では奈良時代の遺物が確認されていることから、古代の集落は調査区南側に広がるものと推定される。



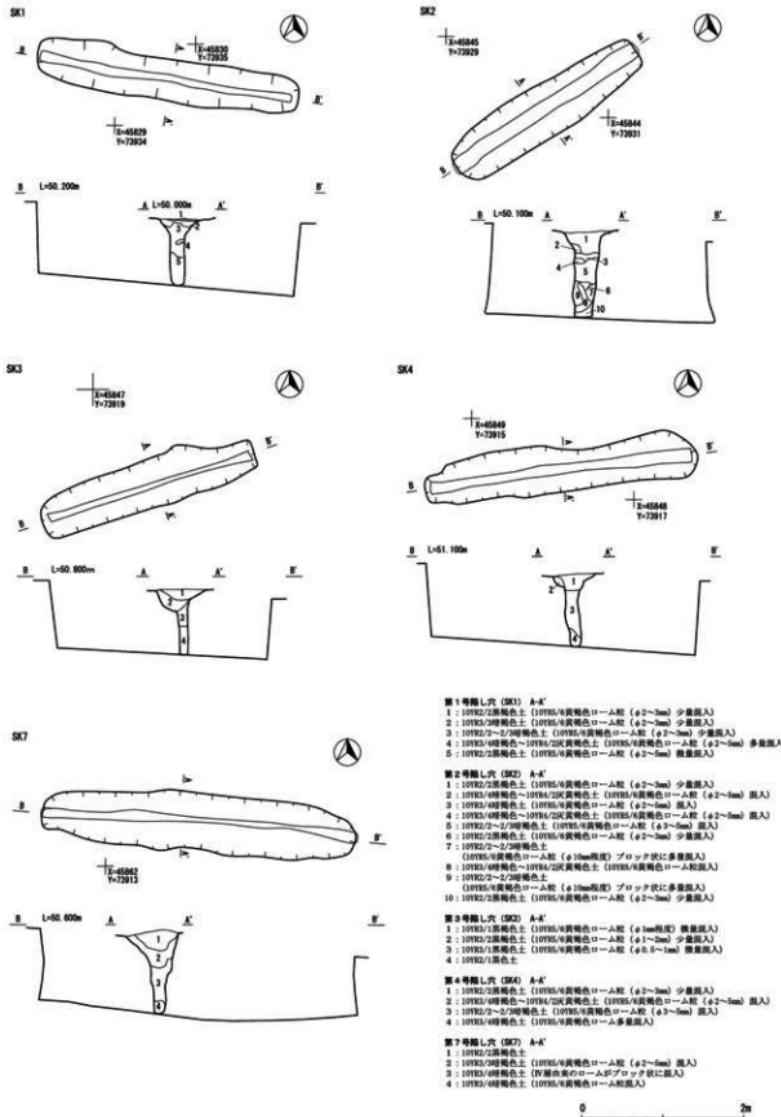
基本土層図



1号竖穴住居跡（S11）・8号土坑（SK8） 平面・断面図

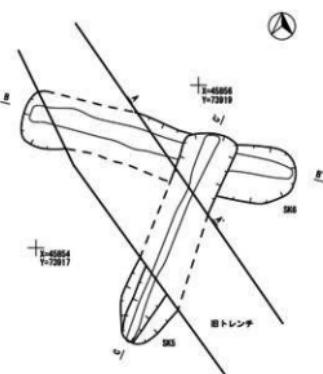


2号竪穴住居跡 (S12)・9号土坑 (SK9) 平面・断面図



陷し穴 (SK 1 ~ 4 · 7) 平面・断面図

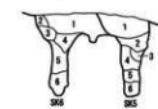
SK5-6



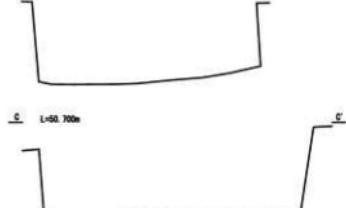
第5号施し穴 (SK5) A-A'

- 1 : 1973/2緑褐色土 (1973/6黄褐色ローム粘 (±2mm程度) 少量混入)
 2 : 1973/2緑褐色土 (1973/6黄褐色ローム粘 (±2~5mm) 少量)
 3 : 1973/2緑褐色土 (1973/6黄褐色ローム粘 (±2~5mm) 少量)
 4 : 1973/2-3/2緑褐色土 (1973/6黄褐色ローム粘 (±5mm程度) 多量混入)
 5 : 1973/2緑褐色土 (1973/6黄褐色ローム粘 (±3mm程度) 少量混入)
 6 : 1973/2緑褐色土 (1973/6黄褐色ローム粘 (±3mm程度) 少量混入)

第6号施し穴 (SK6) A-A'



L=52.700m



第6号施し穴 (SK6) B-B'

- 1 : 1973/2緑褐色土 (V層由来のロームがブロック状に入る)
 2 : 1973/2緑褐色土 (1973/6黄褐色ローム粘 (±5mm程度) 多量混入)
 3 : 1973/2緑褐色土 (1973/6黄褐色ローム粘 (±2mm程度) 少量混入)
 4 : 1973/2緑褐色土 (1973/6黄褐色ローム粘 (±2mm程度) 少量混入)
 5 : 1973/2緑褐色土 (1973/6黄褐色ローム粘 (±3mm程度) 少量混入)

6 : 1973/2緑褐色土

0 1 2m

陥し穴 (SK5・6) 平面・断面図

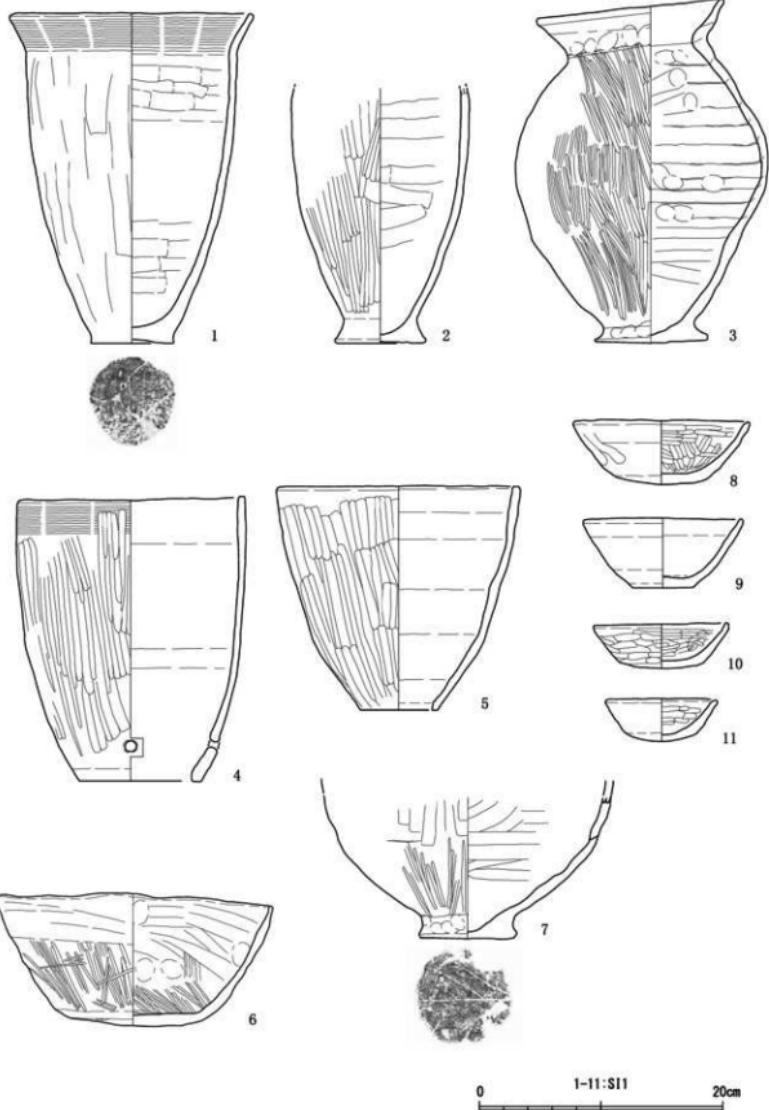
豊穴住居跡

遺構名	グリッド	検出部位	重複關係 (前>後)	平面形	主軸方向	規格			面積	遺物	備考
						上端		下端			
						長軸(a)	短軸(a)	長軸(a)	短軸(a)	検出面からの 深さ(cm)	
SK1	G-H-5-6	壁層上面	—	楕円形	N-27°-E	4.05	3.50	3.48	3.48	34	12mf 土器器
SK2	E-G-6-7	壁層上面	—	楕円形	N-22°-E	3.76	3.65	3.03	3.32	23	12mf 土器器 カマド無

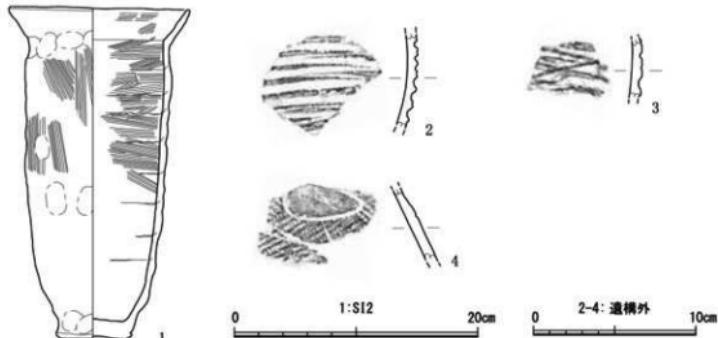
陥し穴・土坑

遺構名	グリッド	検出部位	重複關係 (前>後)	平面形	主軸方向	規格			遺物	備考	
						上端		下端			
						長軸(a)	短軸(a)	長軸(a)	短軸(a)	検出面からの 深さ(cm)	
SK1	H-G-7	壁層上面	—	長楕円形	N-80°-E	3.30	0.51~0.65	3.14	0.1~0.17	95	土器 陥し穴
SK2	G-E-6	壁層上面	—	長楕円形	N-34°-E	2.63	0.37~0.65	2.70	0.17~0.25	112	— 陥し穴
SK3	D-3-4	壁層上面	—	長楕円形	N-72°-E	2.75	0.55~0.65	2.60	0.1~0.15	85	— 陥し穴
SK4	D-2-3	壁層上面	—	長楕円形	N-83°-E	3.38	0.47~0.60	3.26	0.1~0.15	90	— 陥し穴
SK5	B-C-3	壁層上面	—	長楕円形	N-23°-E	2.77	0.60~0.70	2.73	0.1~0.20	100	— 陥し穴
SK6	B-C-3-4	壁層上面	—	長楕円形	N-76°-E	3.43	0.61~0.70	3.28	0.10~0.25	105	— 陥し穴
SK7	A-I-2	壁層上面	SKT>SK8	長楕円形	N-85°-E	3.87	0.65~0.70	3.93	0.10~0.15	105	— 陥し穴
SK8	G-G-6	壁層上面	—	円形	N-78°-E	0.62	0.54	—	—	19	—
SK9	E-6	壁層上面	—	円形	N-48°-E	0.65	0.54	—	—	26	—

造構観察表



出土遺物 1



出土遺物 2

探査 番号	番号	写真 図版	出土 遺物	出土層位	種類	器種	部位	計測値(cm)			特徴
								口径	器高	底径	
第8区	1	7-1	SI1	床面直上	土師器	長胴甌	口縁部～底部	20.0	27.0	6.4	外：口縁部コナデ、胴部ヘナダ／内：口縁部コナデ、胴部ヘナダ／粘土接着合痕明瞭／底面：木葉底／内外面スス付着
第8区	2	7-2	SI1	床面直上	土師器	長胴甌	胴部～底部	—	—	7.0	外：ヘラミガキ／内：ヘナダ／粘土接着合痕明瞭／底面：無調整／内外面スス付着
第8区	3	7-3	SI1	床面直上	土師器	甌	口縁部～底部	15.1	27.6	9.8	外：口縁部コナデ、胴部ケズリ～ヘラミガキ／内：口縁部ケズリコナデ、胴部コナデ／粘土接着合痕明瞭／底面：無調整／内外面スス付着
第8区	4	7-4	SI1	床面直上	土師器	甌	口縁部～底部	18.8	18.3	10.0	外：口縁部コナデ、胴部ケズリ～ヘナダ、胴部下半被熱／内：ナデ／胴部下半に穿孔2ヶ所
第8区	5	7-5	SI1	床面直上	土師器	甌	口縁部～底部	20.0	23.3	8.0	外：口縁部コナデ明瞭／内：ナデ／粘土接着合痕明瞭／底面：内外面スス付着／ゆがみ有り
第8区	6	7-6	SI1	床面直上	土師器	鉢	口縁部～底部	22.2	10.9	—	外：口縁部～ヘラミガキ～ナダ、胴部ケズリ～ミガキ／内：ヘラミガキ～ナダ／底面：ヘラケズリ～ヘラミガキ・丸底風／外面スス付着
第8区	7	7-7	SI1	床面直上	土師器	甌	胴部下半～底部	—	—	8.0	外：胴部ケズリ～ヘナダ（上半）、ヘラミガキ（下半）、底面：ビオサエ／内：コナデ／底面：木葉底／スス付着
第8区	8	7-8	SI1	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	14.5	5.2	—	外：ヘラナデ／内：ヘラミガキ／底部：ヘラミガキ・丸底風／外面スス付着
第8区	9	7-9	SI1	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	13.0	5.6	5.0	外：ロクナデ／内：ロクロナデ／底面：ヘラケズリ／内面スス付着
第8区	10	7-10	SI1	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	11.2	3.7	—	外：ヘラミガキ／内：ヘラミガキ／底面：ヘラミガキ・丸底風／内面スス付着
第8区	11	7-11	SI1	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	9.2	3.4	—	外：ヘラナデ／内：ヘラミガキ／底面：ヘナナデ・丸底風／内面スス付着
第9区	1	7-12	SI2	覆土上層	土師器	長胴甌	口縁部～底部	14.5	27.2	5.3	外：口縁部コナデ、胴部ハケ／内：ハケ～ナデ／底部：無調整／内外面スス付着
第9区	2	7-13	造佛外	II層直下	陶文土器	—	胴部	—	—	—	—
第9区	3	7-14	造佛外	II層直下	陶文土器	—	胴部	—	—	—	—
第9区	4	7-15	造佛外	I層直下	陶文土器	—	胴部	—	—	—	—

遺物観察表



調査区全景（東から）



調査区全景（南から）



調査前風景（北から）



基本土層



作業風景



作業風景



1号竪穴住居跡 棱出状況（南西から）



土層断面（北壁）



土層断面（西壁）



完掘状況（南から）



1号竪穴住居跡 カマド土層断面（南東から）



カマド完掘状況（南東から）



1号竪穴住居跡 完掘状況（南から）



2号竪穴住居跡 検出状況（東から）



土層断面（北から）



土層断面（西から）



カマド完掘状況（南から）



完掘状況（東から）



1号陥し穴 断面



完掘状況



2号陥し穴 断面



完掘状況



3号陥し穴 断面



完掘状況



4号陥し穴 断面



完掘状況



5号陥し穴 断面



完掘状況



5・6号陥し穴



完掘状況



7号陥し穴 断面



完掘状況



8号土坑 完掘状況



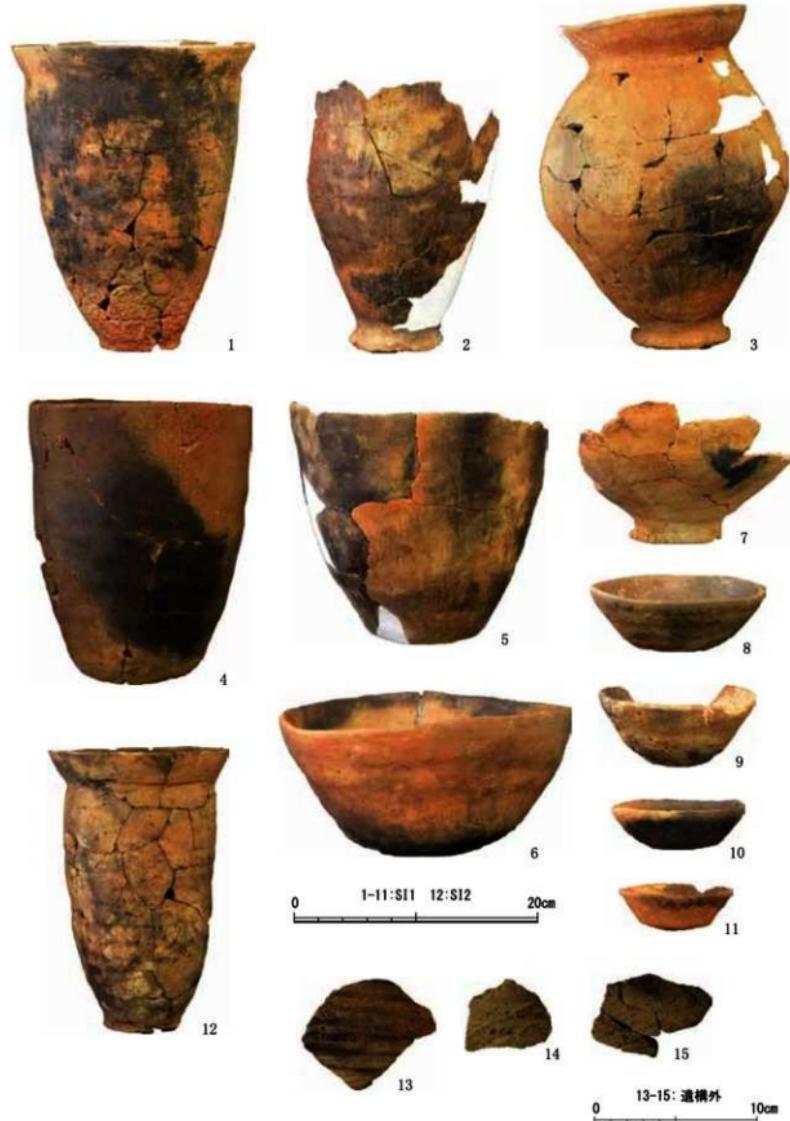
9号土坑 完掘状況



1号竪穴住居跡 出土遺物



2号竪穴住居跡 出土遺物



出土遺物

10 三陸沿岸道路(洋野隨上道路)

南鹿穂Ⅰ遺跡

(IF58-1333:旧可能性あり 29号工事用道路)

【所在地】 九戸郡洋野町種市第16・17地割
地内【事業者】 国土交通省東北地方整備局
三陸国道事務所【調査期日】 平成26年11月4日(火)
～12月26日(金)【調査面積】 875m²

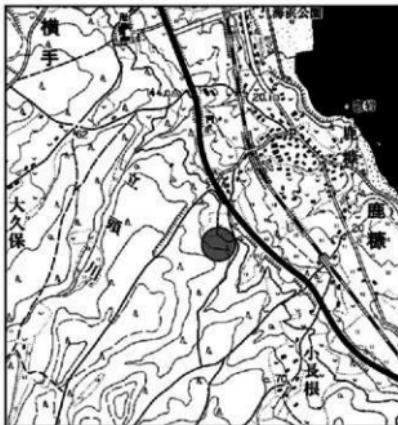
【調査結果】 調査地は洋野町役場種市庁舎より南約2.2km、国道45号線の西に隣接する。

今回の発掘調査は、調査に先立って実施された試掘調査において、遺構・遺物が確認されたことから、当課による本発掘調査を実施したものである。

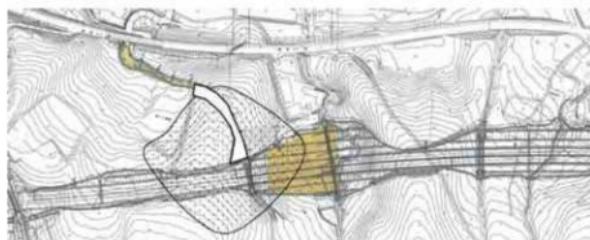
当遺跡周辺では、約0.9km北側に位置するゴッソー遺跡(IF58-0341)において、過去に(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターおよび洋野町において本発掘調査が実施されている。この遺跡からは早～晩期の縄文土器が出土しており、なかでも前期初頭の遺物量が多い成果が得られていることから、当遺跡との関連が注目される。

基本層序は以下の通りである。

I層 表土	層厚14～26cm
II層 黒色土層	層厚20～57cm (縄文時代包含層)
III層 灰色土層	層厚12～16cm (遺構検出面)
IV層 オリーブ黒色土層	層厚20～24cm
V層 明黄褐色土層	層厚不明



南鹿穂Ⅰ遺跡 位置図



調査区位置図

調査の結果、竪穴住居跡9棟・土坑26基・溝跡1条・焼土1基を確認した。竪穴住居は主に段丘平坦面に分布しており、出土遺物から縄文時代早~前期頃と捉えられる。この他、断面形状がフラスコ状を呈する土坑など、土坑の多くはこの時期に帰属するとみられる。

段丘平坦面から斜面に差し掛かる地形変換点周辺では、深い溝状の土坑である陥し穴が4基検出された。竪穴住居との関係や周辺の調査成果から、縄文時代後期頃と推定される。

遺構群の内容と立地環境から、集落の中心城は本調査地南~西側に展開するものと指摘できる。

さらに、調査区の形状に沿うように近世~近代にかけての林道跡が検出された。

以下より主要遺構について記すが、調査成果の詳細は今回の調査区南側を通過する三陸沿岸道路本線部分建設に伴う本発掘調査（県埋蔵文化財センターで実施・本報告）において報告する。

<竪穴住居跡>

【1号住居】 大部分が調査区外となり、西辺と南・北辺の一部を確認したに留まる。平面形状は方形を呈すると思われる。柱穴・壁溝は確認できなかった。

【2号住居】 西側の一部は調査区外となるが、長軸約4.4m・短軸は遺存状況から約3.5mと推測される。平面形状は楕円形を呈するものと判断できる。床面はほぼ平坦で東に緩やかに傾くが、貼床は認められない。柱穴は13基確認し、北辺及び南辺の壁溝周辺にも小規模なピットが散在する。床面中央と西北端の2箇所で焼土を確認している。

【3号住居】 平面形状は方形を呈すると思われるが、大部分が調査区外で北西隅のみ確認した。床面はほぼ平坦であり、東に向かって傾く。柱穴は認められないが、土坑13が柱穴であった可能性はある。壁溝は確認できなかった。

【4号住居】 長軸約4.9m・短軸約3.5mのやや不整形な隅丸長方形を呈する。住居には1回の建替えが認められる。床面は西側を基盤層とし、東側は貼り床を施す。柱穴は床面・壁溝内含めて多数確認しているが、配列状況は判然としない。北西隅の壁溝では切り合い関係がみられる。地床炉は住居長軸方向に設置されていた。

【5号住居】 削平が顕著であるが、長軸約2.8m・短軸約2.4mの不整形な隅丸方形を呈する。床面は凹凸があるが、貼り床の痕跡は確認できない。床面中央北西側に被熱による赤変部分があるため、地床炉の痕跡と判断できる。

【6号住居】 東側は一部調査区外へと延びる。平面形状は楕円形と推定され、長軸約3.8m以上・短軸約2.1mである。床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾する。床面のはば中央に2つの焼土を検出しており、地床炉と考える。北側では壁際沿って5基の柱穴がほぼ等間隔で巡る。

【7号住居】 東側は一部調査区外となるが、平面形状は長方形で長軸推定約3.6m・短軸約2.8mである。床面はほぼ平坦で、中央部には硬化が認められる。床面中央部では楕円形の土坑を検出している。この土坑の西側にはやや間隔を空けて2つの焼土があり、地床炉と考えられる。柱穴は壁際沿いに15基を検出した。遺物は西壁寄りの床面直上で土器大形破片がまとまって出土している。

【8号住居】 大部分が調査区外となっており、北西側の一部のみを確認した。詳細は不明であるが平

面形状は円形を基調とし、検出された最大長約6.2mである。床面はほぼ平坦である。壁は開口部に向かって緩やかに外傾する。床面中央部と推定される位置で楕円形の土坑を検出している。柱穴は壁際沿いに3基、中央部土坑の北側に1基を検出した。

【9号住居】 大部分が調査区外に位置しているため正確な規模等は不明である。壁溝及び土層断面から2回の建替えがあったものと判断できる。床面は平坦であり、柱穴を6基検出したが配列は明確ではない。床面には被熱による変色部分が認められ、地床炉が存在したものと考えられる。

<陥し穴>

【1号陥し穴】 西端部は調査区外となるが、検出された長軸約2.6m・短軸約0.8m・深さ約1.5mの溝状を呈する。底部はほぼ平坦で、短軸断面の壁は外傾する。長軸端部はオーバーハングする。

【2号陥し穴】 長軸約3.2m・短軸約0.7m・深さ約0.8mの溝状を呈する。底部はほぼ平坦で、短軸断面の壁は開口部まで外傾する。長軸端部付近はほぼ直立する。

【3号陥し穴】 長軸約4.0m・短軸約0.6m・深さ約0.7mの溝状を呈する。底部はほぼ平坦で、短軸断面の壁はやや外傾して中位まで立ち上がり、中位から開口部に向かって大きく外傾する。長軸端部南側はほぼ直立するが、北側は外傾する。

【4号陥し穴】 東半は調査区外へ延びるが、検出された長軸約1.4m・短軸約0.9m・深さ約1.3mの溝状を呈する。底部はほぼ平坦で、短軸断面の壁はやや外傾して中位まで立ち上がり、中位から開口部に向かって大きく外傾する。長軸端部はオーバーハングする。

<土坑>

【7号土坑】 西側は一部調査区外へと延びている。平面形状は円形で、最大径約1.2m・深さ約0.7mである。底面は緩やかに窪み、壁はわずかにオーバーハングする。堆積状況から廃絶時に若干の埋め戻しがなされた後放置され、開口部の崩落を伴いながら自然に埋没したと推測する。

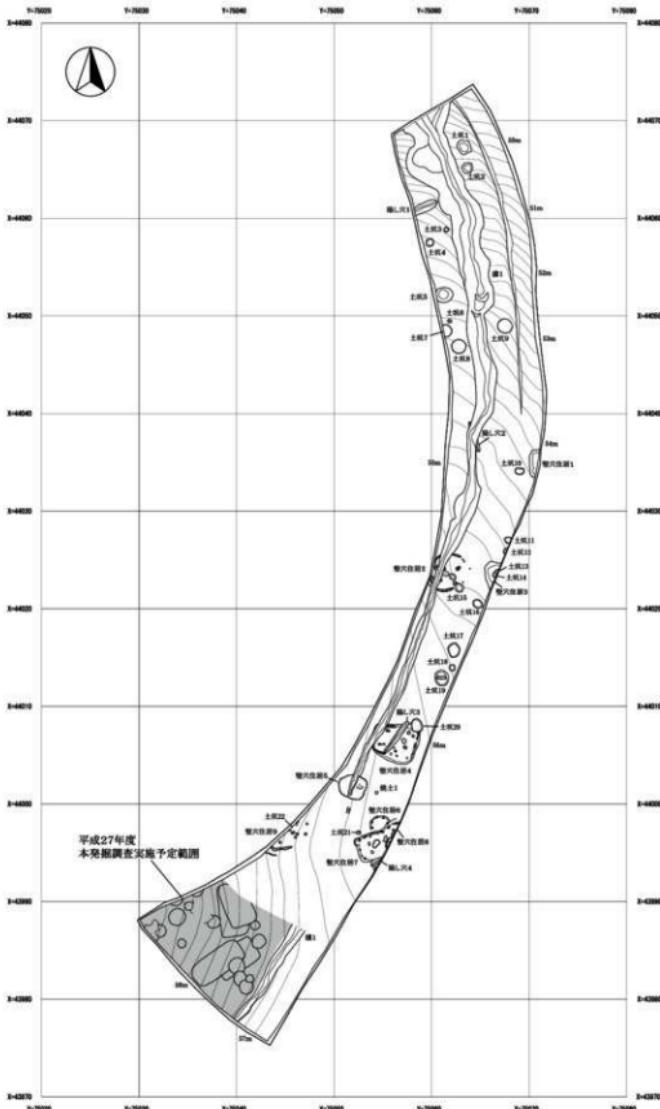
【8号土坑】 平面形状は円形で、最大径約1.5m・深さ約0.4mである。底面は緩やかに窪み、壁はわずかにオーバーハングする。堆積状況から廃絶後放置され、開口部の崩落を伴いながら自然に埋没したと推測する。

【19号土坑】 平面形状は楕円形で、長軸約1.6m・短軸約1.4m・深さ約0.4mである。底面は緩やかに窪み、壁は開口部に向かって緩やかに外傾する。底面中央には短軸方向に掘り込まれた溝を伴う。堆積状況から掘削後期間を置かずに掘り上げた土によって再び埋め戻されたと推測でき、土坑墓である可能性が高いと考える。

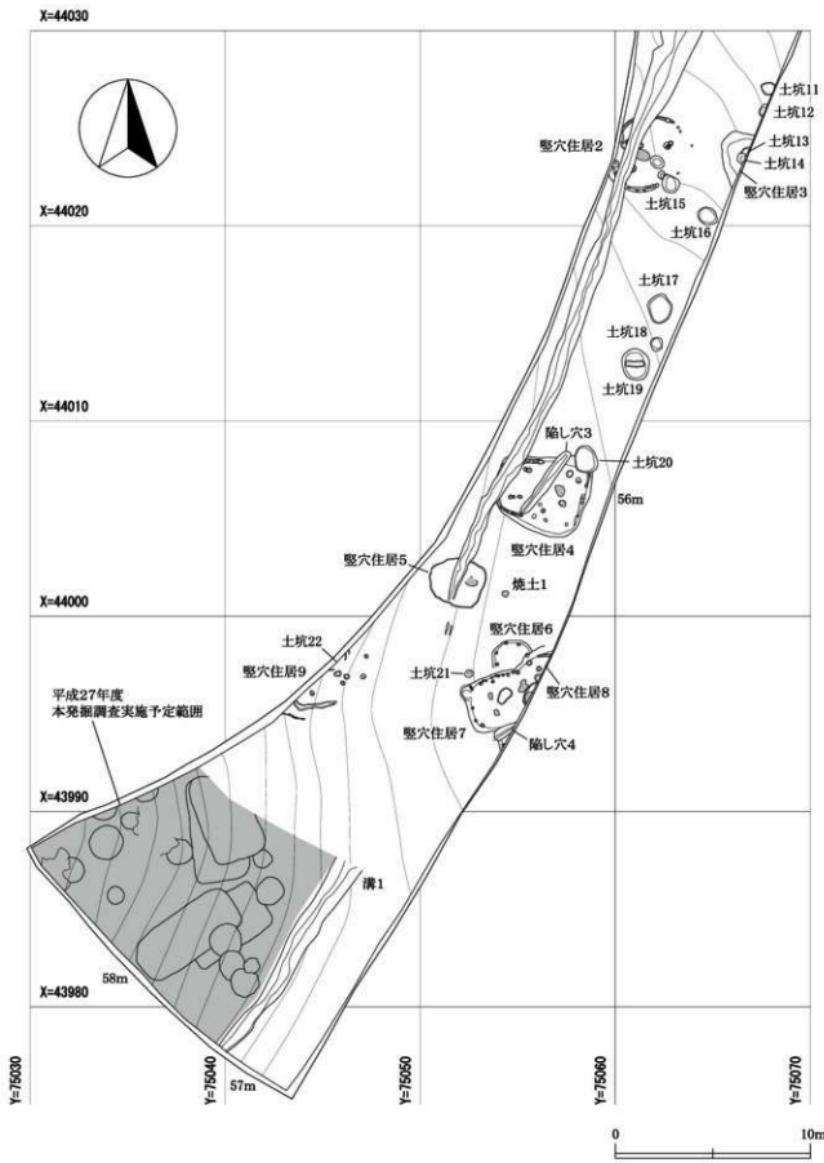
<溝跡>

【1号溝】 南部で途切れる箇所もあるが、調査区全域で検出された。推定される全長は約101mである。北部では平面形状が一定していない。断面形は概ね底部の小さい逆台形状を呈する。一方、北部南側で急激に立ち上がる箇所以南では平面形状はほぼ定形化し、断面形も浅い皿状で推移する。

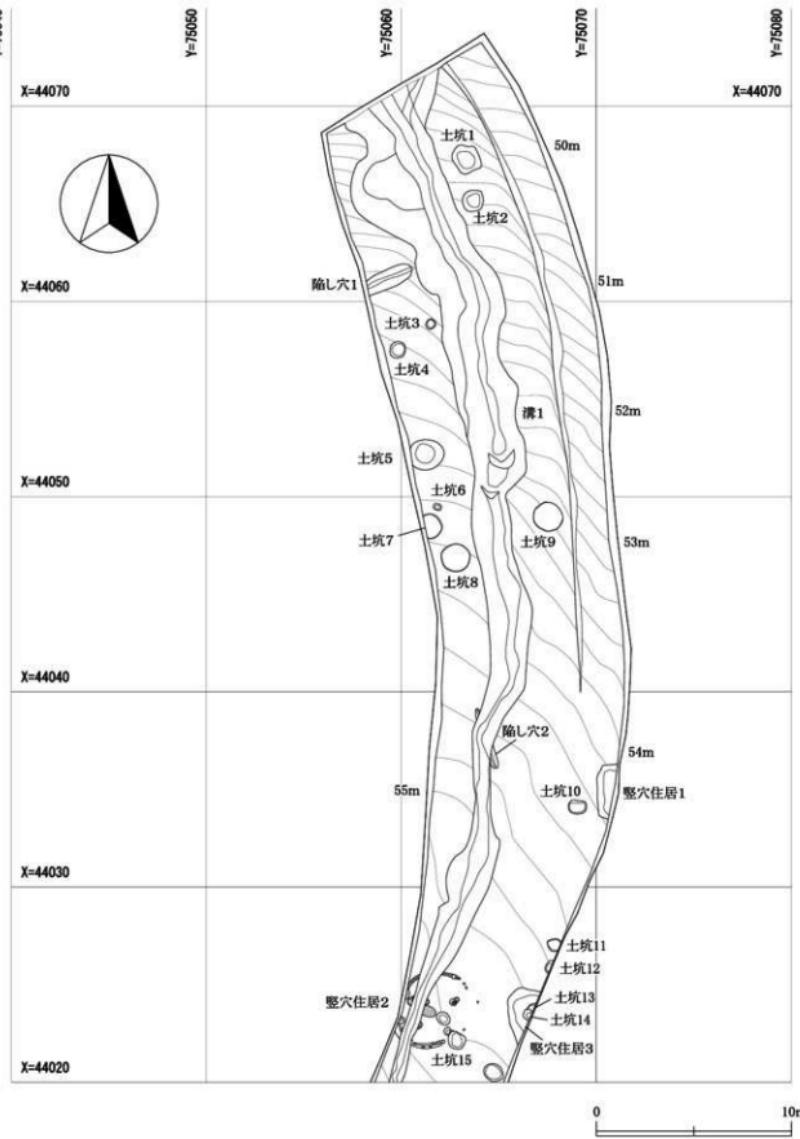
近世末～近代の陶磁器・銅錢が出土していることから、遺構の帰属時期もこの段階に求められる。



造構配置図（全体図）



遺構配置図 (南側)



構配図（北側）



調査区北側全景（南から）



調査区中央



調査区南側



1号竪穴住居跡



2号竪穴住居跡



3号竪穴住居跡



4号竪穴住居跡



5号竪穴住居跡



9号竪穴住居跡



6～8号竪穴住居跡



7号竪穴住居跡（カマド付近）



7号竪穴住居跡（遺物出土状況）



1号陥し穴



2号陥し穴



4号陥し穴



8号土坑 全景



9号土坑 全景



19号土坑 全景



21号土坑 遗物出土状况



1号溝跡 完掘全景

11 三陸沿岸道路(洋野階上道路)

黒坂遺跡

(IF89-1322:旧可能性あり1 工事用道路①-2)

【所在地】 九戸郡洋野町有家第9地割字黒坂地内

【事業者】 国土交通省東北地方整備局
三陸国道事務所

【調査期日】 平成26年7月28日(月)

~31日(木)

【調査面積】 145m²

【調査結果】 調査地はJR八戸線有家駅から南西へ約1.6km、有家川左岸の丘陵頂部付近にある緩斜面上に位置する。標高は123~130mであり、現況は山林である。北側約0.7km

には、縄文時代中・後期の集落跡とみられる上のマッカ遺跡(IF89-0340)が位置する。

三陸沿岸道路(階上→侍浜)建設に伴う工事用道路整備の照会を受け、平成26年5月22日に県生涯学習文化課が試掘調査を実施した結果、遺構が確認されたことから、遺構検出箇所周辺については発掘調査が必要と回答した。今回、立木伐採等の諸条件が整ったとの連絡を受け、平成26年7月28日~7月31日に発掘調査を実施することとなった。なお、本調査区隣接地の本線部分については、可能性あり46として試掘調査実施済みであり、遺構・遺物は確認されていない(平成24年10月26日付け教生第1326号で回答)。また、当該地北西約50mの地点については可能性あり1(工事用道路①)として試掘調査実施済み(平成26年3月18日付け教生第1785号で回答)であり、遺構・遺物が確認されている。

基本土層は下記の通りであるが、陥し穴1基が検出されたのみで、遺物は出土しなかった。

I層 表土

II層 黒褐色土

III層 暗褐色土

IV層 黄褐色土

V層 暗オリーブ灰ローム

VI層 暗赤褐色ローム(高館火山灰)

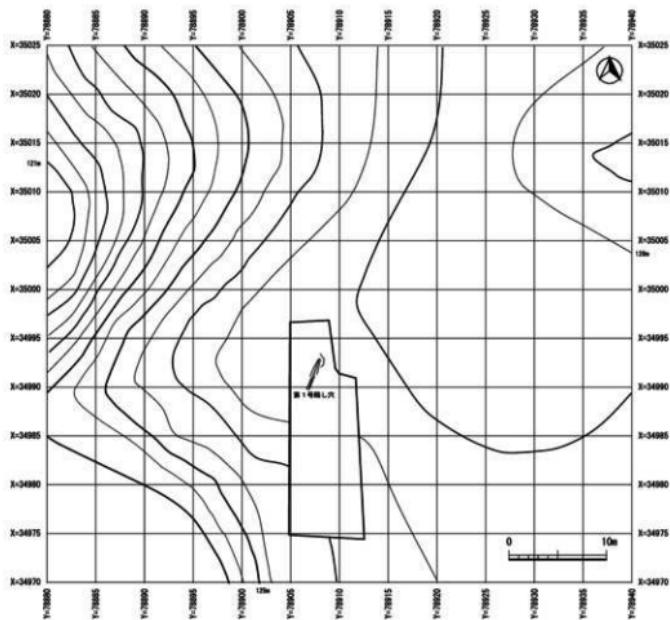
VII層 灰オリーブローム

<第1号陥し穴(SK1)>

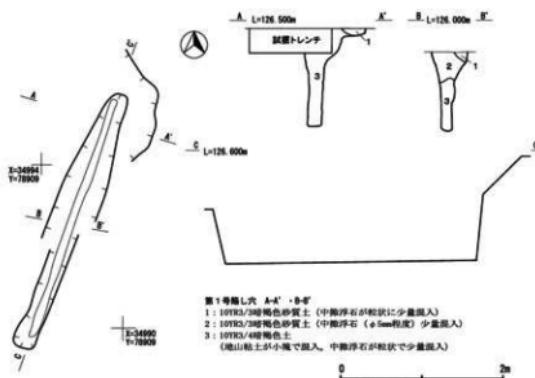
調査区北部、X=34.989~34.993、Y=78.906~78.908に位置する。IV層上面で検出した。平面形はIV層上面では不明瞭であったが、IV層中層において溝状を呈することを確認した。規模は開口部で長軸336cm、最大幅55cm、底部で長軸307cm、最大幅11cm、検出面からの深さは98cmを測る。長軸方向は北



黒坂遺跡 位置図



造構配置図



陷し穴 平面・断面図

西 - 南東である。長軸方向の断面形はほぼ垂直となり、短軸方向は上端でやや開き漏斗状を呈する。埋土は暗褐色砂質土を主体とし、十和田中振火山灰が微量～少量混入する。底面は平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められなかった。形状・埋土から縄文時代の陥し穴と考えられる。

以上のことから、本調査区周辺は縄文時代の狩り場として機能していたと推定される。平成25年度に本調査区北側隣接地で実施された試掘調査において、縄文時代の竪穴住居跡や土器等が確認されていることから、集落の本体は本調査区北側に存在するものと推定される。



作業風景



基本土層



調査区全景（東から）



陥し穴 断面（A-A'）



陥し穴 断面（B-B'）



陥し穴 完掘

12 三陸沿岸道路（宮古～田老）

駿達Ⅰ遺跡 (KG99-0124 : 旧可能性あり①)

【所在地】 宮古市田老字駿達、滝の沢地内

【事業者】 国土交通省東北地方整備局

三陸国道事務所

【調査期日】 平成26年9月29日(月)

～10月10日(金)

【調査面積】 330m²

【調査結果】 調査地は三陸鉄道北リアス線田老駅より北北西約1.9kmに所在し、国道45号線の東に隣接する。南西から派生する尾根の先端頂部に位置し、北側には東へ流れる沼先川が接している。現況は杉林であり平坦面は認められない斜面地である。今回の発掘調査は、平成26年3月の試掘調査により炭窯が確認されたことに伴う埋蔵文化財の記録保存を目的としたものである。

基本層序は以下のとおりである。

I層 表土 層厚10～15cm (耕作土)

II層 褐色土 層厚50～60cm

III層 黄褐色粘質土 層厚不明 (地山)

調査の結果、試掘調査で確認されていた炭窯1基を確認した。遺物は炭窯から離れた地点で近世陶磁器片が1点出土した。

<炭窯>

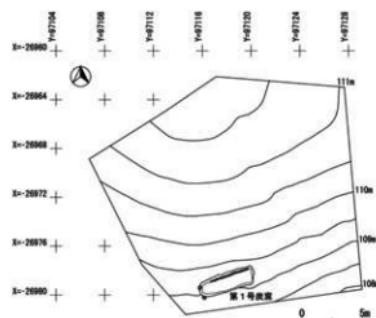
調査区南西部で検出された、長軸約4.6m、短軸約1.4m、深さ約0.3m隅丸長方形を呈する。尾根頂部よりやや南へ下った斜面地で、炭窯より南は急斜面となり谷へ下る。

埋土には多くの炭片が含まれ、炭材の形状を残すものは東側床面付近で認められた。被熱痕跡は床面北東部でわずかに認められた。

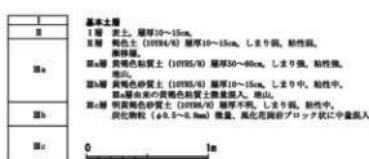
なお、床面北側には壁面に接して溝が設けられている。この炭窯に一部重複して、西側に径約0.25m、深さ約0.25mの小穴（ピット）が2基検出されており、位置関係から炭窯に伴うものと考えている。



駿達Ⅰ遺跡 位置図

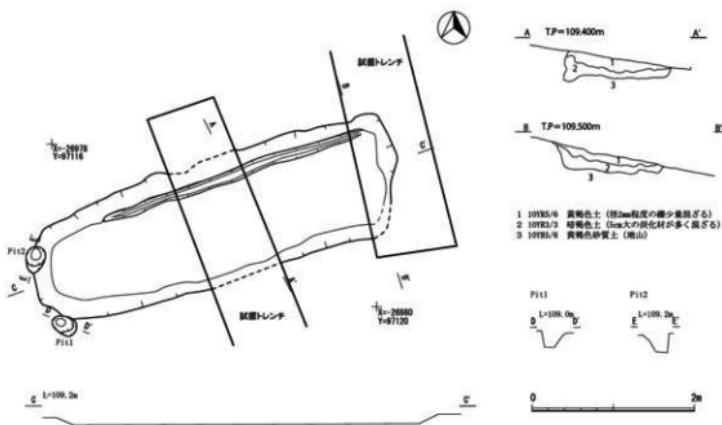


遺構配置図



基本土層図

おそらく、小穴（ピット）は窯の焚口部付近に設けられた簡易的な作業場を構成する柱跡と思われる。



遺構平面・断面図



調査風景



炭窯掘削状況



炭窯断面



完掘状況

13 三陸沿岸道路(宮古～田老)

牛沢遺跡 (LG23-1233)

【所在地】 宮古市山口13地割牛沢2-1地内

【事業者】 国土交通省東北地方整備局

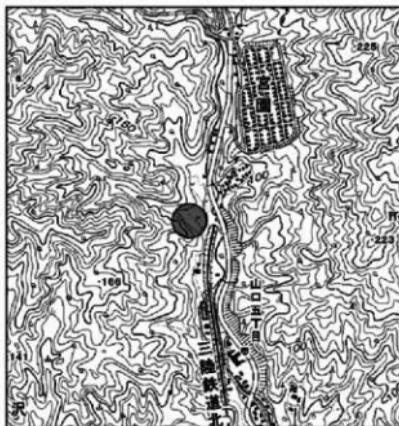
三陸国道事務所

【調査期日】 平成26年4月21日(月)

～5月16日(金)

【調査面積】 780m²

【調査結果】 調査地は、JR山田線宮古駅の北西約2.7kmに位置する。周辺は黒森山山地に区分され、遺跡は閉伊川の支流、山口川右岸の樹枝状に延びる尾根の先端に形成された段丘上に立地する。遺跡の南側には山口川へと注ぐ無名の沢が流れ、急峻な崖となっている。



牛沢遺跡 位置図

平坦部は南北約80m、東西約60mの規模で、比高差はおよそ10mである。平成17年度には宮古市教育委員会による発掘調査が行われ、縄文時代中期大木9式期の堅穴住居跡6棟、大木8b～9式期の土坑7基、縄文時代後期初頭の遺物包含層などが調査された。

今年度の発掘調査は、平成17年度調査区と同一面の南側沢沿い、及び上面の平坦面へと続く斜面の780m²について実施した。

基本層序は以下の通りである。

I層 黒褐色土 (10YR2/3) やや柔らかい 風化花崗岩片 ($\phi 1\text{mm}$) 7%、耕作土層

II層 黒色土 (10YRL7/1) 締まり有り 有機質に富む

III層 黒褐色土 (10YR2/3) 締まり有り 十和田・中標火山灰 (To-Cu) ブロック ($\phi 2\text{cm}$) 20%

IV層 黒色土 (10YR2/1) 締まり有り 風化花崗岩片 (~ $\phi 1\text{mm}$ ~) 7%

V層 暗褐色土 (10YR3/4) 締まり有り 風化花崗岩片 (~ $\phi 1\text{mm}$ ~) 10%、縄文早期の遺物包含層

VI層 褐色土 (10YR4/6) 締まり有り 花崗岩巨礫 ($\phi 20\text{cm}$ ~) を部分的に含む

III層以外は調査区のはば全面に均質に堆積していたが、III層、特にTo-Cuブロックの密度は場所によつて異なっており、遺構配置図中の網掛けの付近に集中しており、北東から調査区南側の沢へと続く浅い沢があったと考えられる。II層から縄文時代中期、V層から早期の遺物が出土したが、前期については表探が主体であった。縄文時代中期の遺物はSI01・02付近と前述の網掛けの範囲を中心に、早期は調査区北側の斜面際で出土した。

遺構は、縄文時代中期後半の堅穴住居跡2棟 (SI01・02)、縄文時代早期の包含層、土坑5基 (SK01～05) が確認された。

堅穴住居跡2棟は重複しており、SI02はSI01より古い住居跡である。規模は調査区内で、南北2.5m、

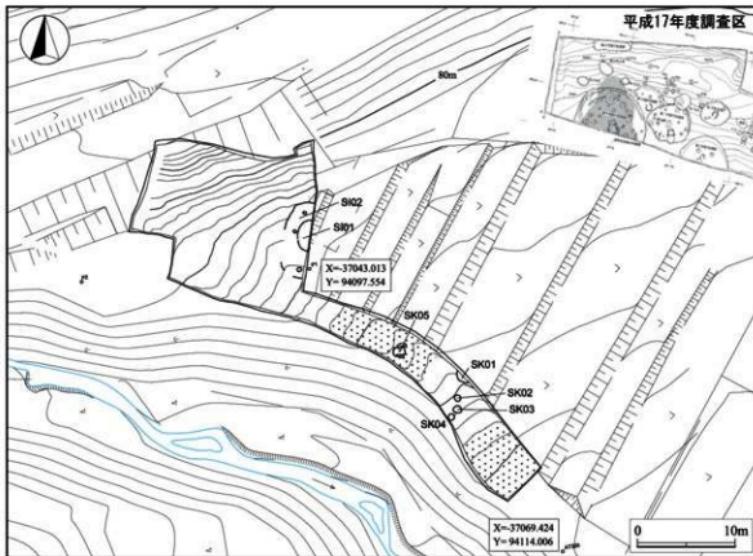
東西1.1m、深さ0.2mであった。覆土中には焼土、木炭を主体とする層（3層）があり、木炭が平面で放射状に見える部分もあったことから、火災にあった住居であると考えられる。柱穴や壁溝は検出されなかった。出土遺物は少ないが、縄文時代中期後半の土器片が出土した。

SI01は、SI02の埋没後に構築されていた。規模は調査区内で、南北6.1m、東西2.1m、深さ0.5mであった。平面形は楕円ないし倒卵形で、全体のほぼ半分が調査区外にあるものと考えられる。V層中からは土器が集中して出土しており、また焼土層もみられることから、竪穴住居埋没中の窪地利用があったと考えられる。床面からは柱穴、壁溝が検出された。主柱穴はP1～2・5と考えられるが、P2とP5の間が広いことからP1-P5-（未検出）-P2の配置が考えられる。出土遺物から縄文時代中期後半と考えられる。

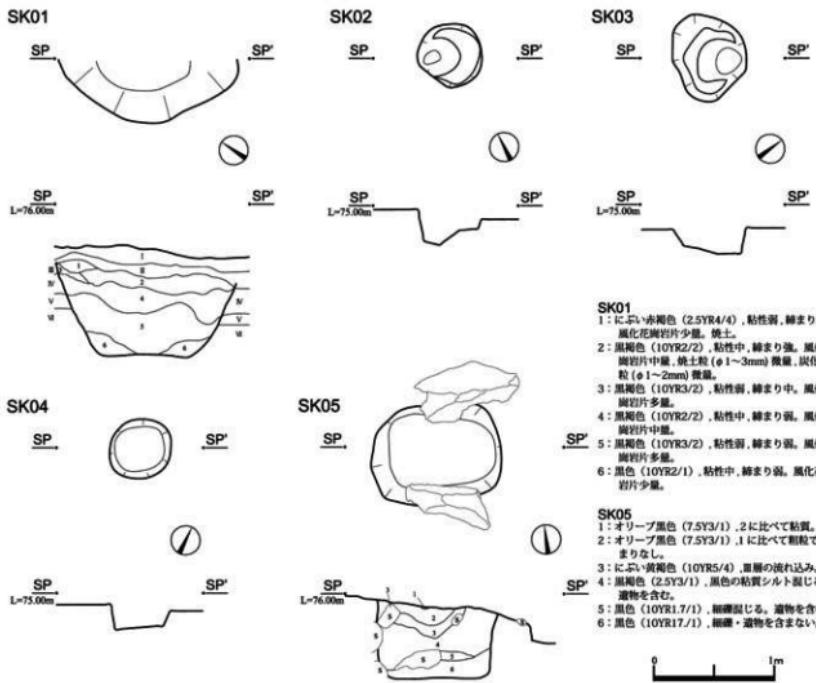
SI02の北側のV層中から縄文時代早期の土器が集中して出土したが、遺構は確認できなかった。また、同じくV層中からは磨石が出土した。

SK01は、大半は調査範囲外であった。調査区内で直径1.23m、深さ0.7mであった。覆土中から縄文時代中期大木9式土器の小破片が出土したことから、縄文時代中期後半の遺構と考えられる。SK02は、径0.5mの不整円形で、深さは確認面から0.25mであった。SK03は長径0.7m、短径0.6mの不整円形で、深さは確認面から0.22mであった。SK04は径0.5mの不整円形で、確認面からの深さは0.2mであった。SK02からSK04では遺物は検出されなかったが、周辺の出土遺物からSK01・03と同様に中期後半と考えられる。

SK05は、長軸1.0m、短軸0.7mの隅丸方形で深さは0.6mであった。縁際からは平坦面をもつ花崗岩礫



遺構配置図

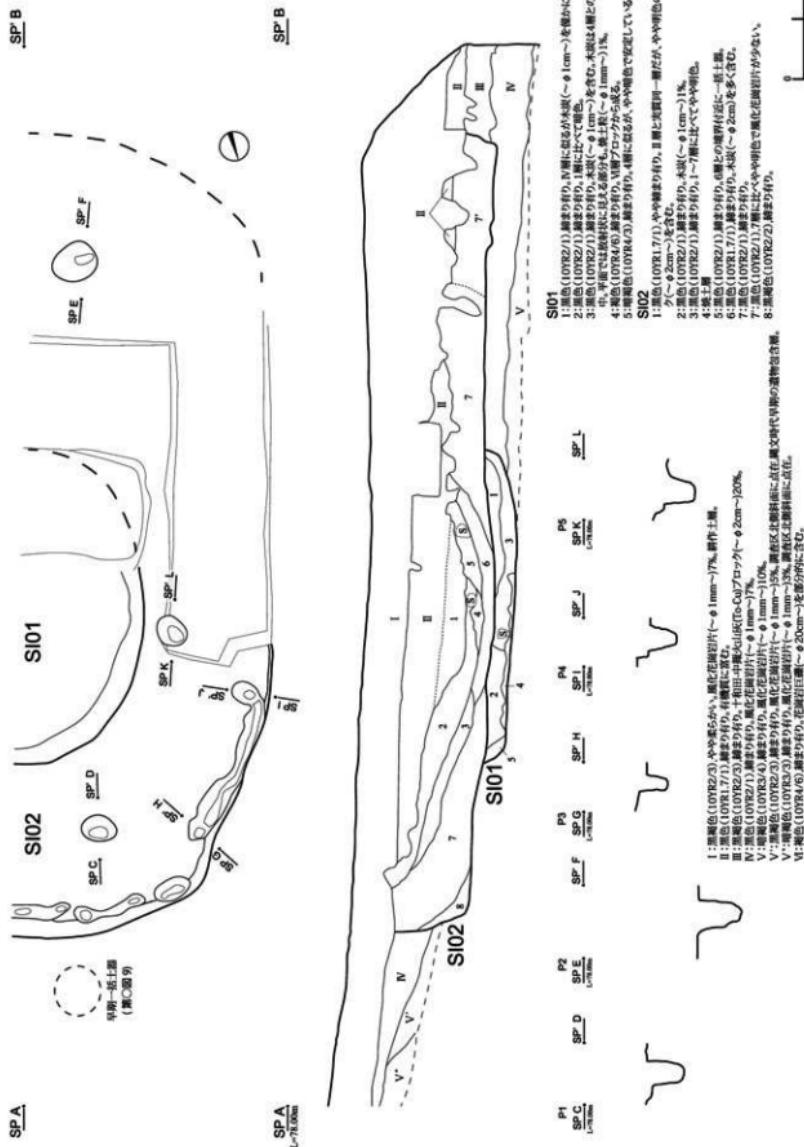


SK01～05 遺構平面・断面図

が出土した。SK05付近を中心にV層中にも花崗岩が含まれており、人為的に土坑内に配置したものであるかは判然としなかった。覆土上面には焼土と炭化物を含んだ層（1層）が確認できた。遺物は覆土上層から下層まで偏りなく出土した。出土遺物から縄文時代中期以降の遺構と考えられる。

出土遺物は縄文時代早期～中期であった。遺物No1はSI02の5層と6層の境界付近、No2はSI01、No3・4はSK05、No5～7・11は表探、No8・13はII層出土、No9・10・12はV層出土である。No9は10号袋1個分はどの破片があったが接合しなかったため、口縁部と底部の破片のみ掲載した。

今年度の調査で検出された遺構はいずれも平成17年度調査で検出された堅穴住居群とはほぼ同時期の縄文時代中期後半と考えられる。地形からもそれ以上奥へは集落が展開し得ないことから、中期後半の集落の西南端付近を調査したと考えられる。いずれの堅穴住居も等高線にはほぼ直行した長軸をもち、炉が検出されたものについては斜面の低い方に炉が寄るという共通性が認められる。狹小な段丘上での空間利用を考える上では興味深い資料であろう。縄文時代早期・前期について平成17年度調査では報告されておらず、当該調査でも少数の出土であることから、評価は困難であった。



S101・02 遺構平面・断面図



調査区近景



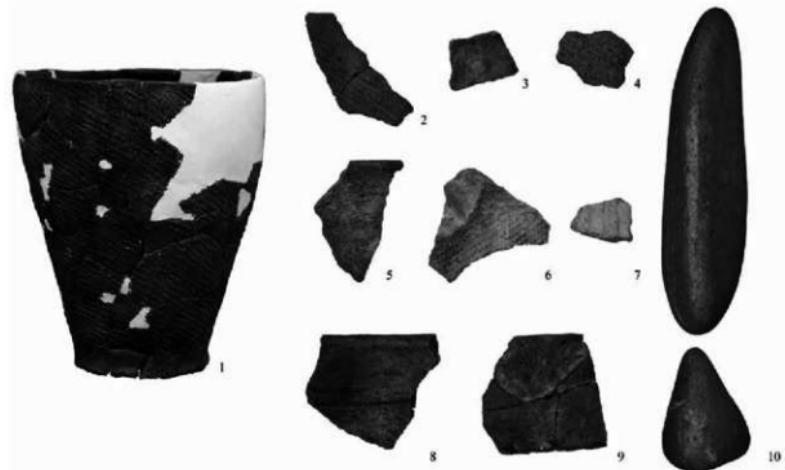
SI01・02 完掘状況



SK05 完掘状況



調査区完掘状況



出土遺物

14 三陸沿岸道路（吉浜～釜石）

扇洞遺跡（MG11-0269：旧可能性あり）

【所在地】 大船渡市三陸町吉浜字扇洞地内

【事業者】 国土交通省東北地方整備局

南三陸国道事務所

【調査期日】 平成26年10月14日（火）

～11月28日（金）

【調査面積】 145m²

【調査結果】 調査地は、大船渡市と釜石市の市境に近い、旧三陸町吉浜字扇洞にあり、三陸鉄道南リアス線吉浜駅から、国道45号線を挟んで、ほぼ真北に660m離れた位置にある。

地形は中起伏山地の裾野で南向きの緩斜面となっている。標高は70～73mで、遺跡の南西

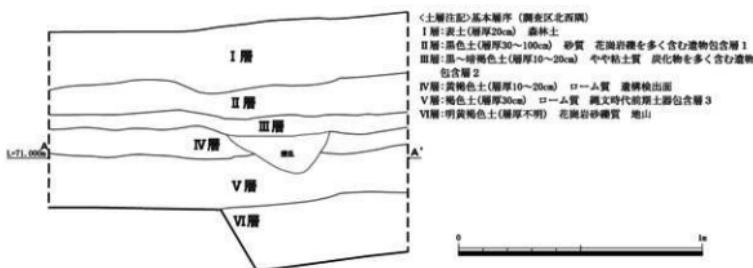


扇洞遺跡 位置図

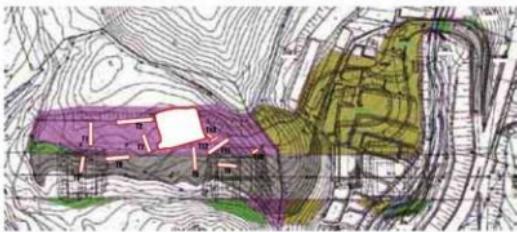
側を白木沢川が東流し、調査地南側は急勾配となって落ち込む。また、北東側は後背の山地から続くやせ尾根が形成されており、遺跡を囲む地形になっている。

基本層序は以下の通りである。

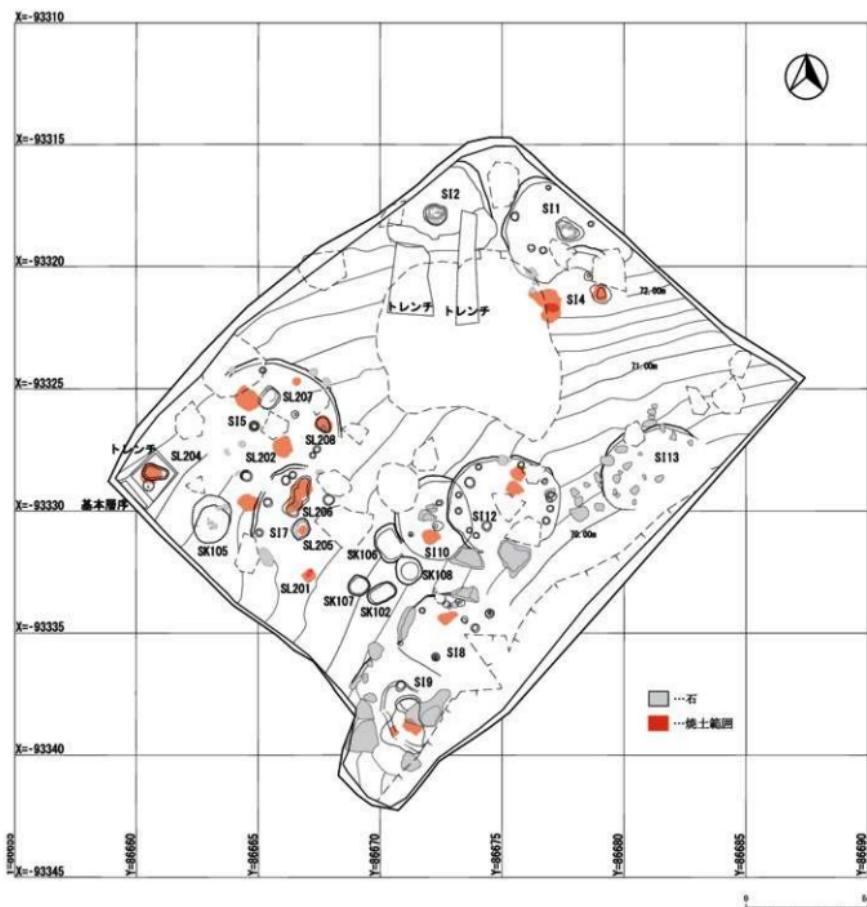
I 層 表土	層厚20cm (腐植土)
II 層 黒色土	層厚30～100cm (砂質。花崗岩礫を多く含む遺物包含層1)
III 層 黒褐色土	層厚10～20cm (やや粘土質。炭化物を多く含む遺物包含層2)
IV 層 黄褐色土	層厚10～20cm (ローム質。遺構検出面)
V 層 褐色土	層厚0～30cm (ローム質。繩文前期土器包含層3)
VI 層 明黄褐色土	層厚不明 (花崗岩砂礫質。地山)



基本土層図

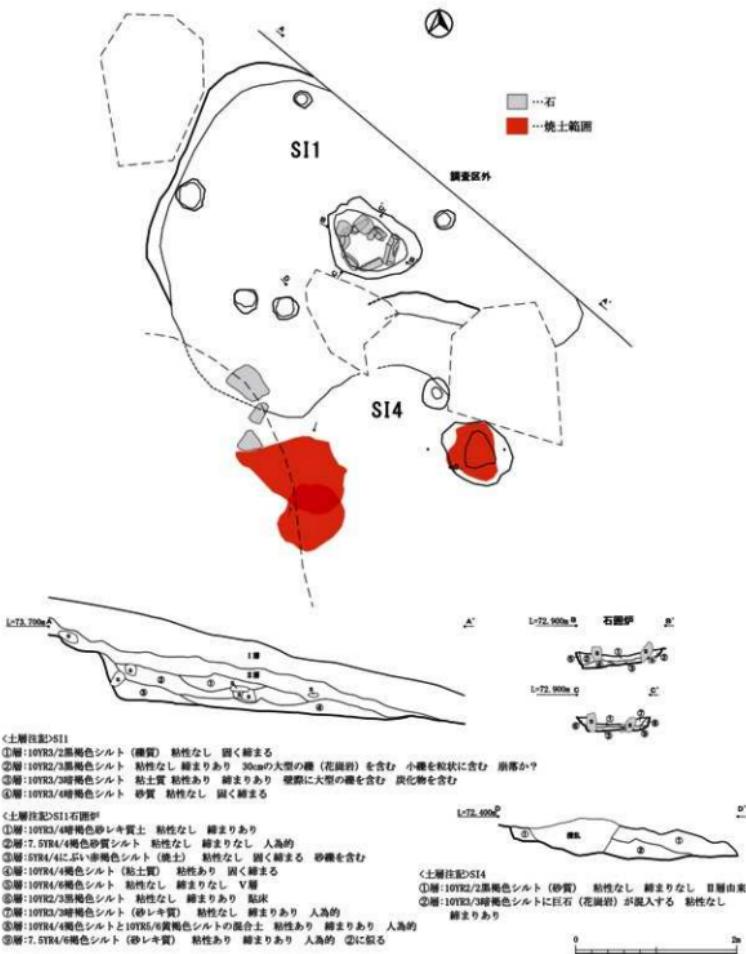


遺跡位置図

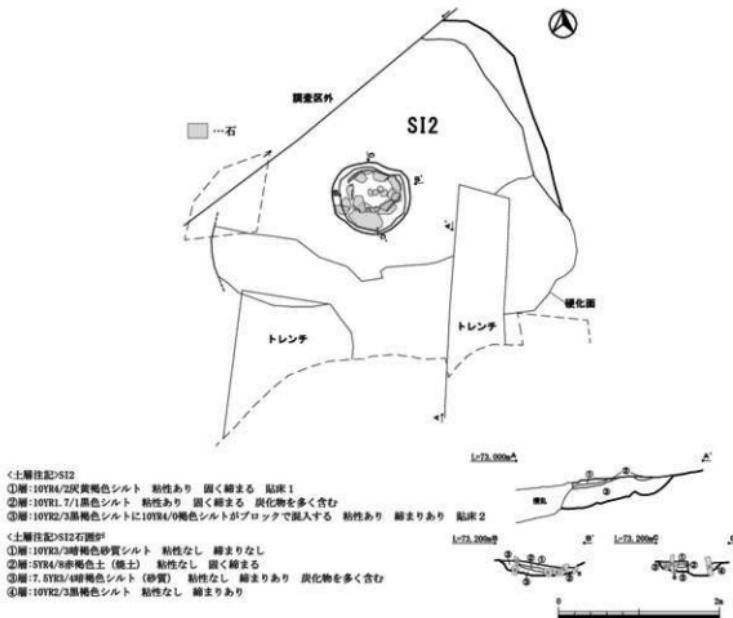


遺構配置図

事業区内での試掘調査は9箇所にトレンチを設定して実施した。結果、T 1・2・5~9の区域は調査不要となり、対象は1,000m²である。北東側の尾根上から急斜面は、改めてトレンチ（T10~13）を設定して調査した結果、遺構・遺物とも検出されなかった。本調査は、中央部緩斜面の406m²である。調査の結果、竪穴住居跡（住居状を含む）9棟、土坑5基、焼土・炉跡8基（住居内を含める）を検出した。遺物は、土器・土製品が大コンテナで10箱、石器は中コンテナで1箱出土している。その他で製鉄関連遺物が少量出土している。



S 11・4 遺構平面・土層断面図



S I 2 造構平面・土層断面図

<SI 1堅穴住居跡>調査区北部斜面で検出した。北側は斜面を掘削して壁を構築している。南側は検出できなかった。北壁の比高は最大で90cmを測る。平面形は隅丸長方形もしくは楕円形で、主軸方位は北西-南東に傾き、規模は500×350cm前後と推測する。床面中央部に石臼炉があり、平面形は楕円形で、堅穴主軸方位に平行する。掘り方は長軸116cm、短軸86cmを測る。30×20cm前後の平板礫6個で構成されている。焼土は硬く締まるが、埋土が厚く、廃絶の可能性がある。柱穴状土坑は5基検出したが、配置は不明確である。遺物は、炉脇床面から壺(遺物No1)が出土している。

<SI 2堅穴住居跡>調査区北部斜面で検出した。SI 1と東側で隣接する。SI 1同様に南側は不明である。北東壁の比高は最大で98cmを測る。平面形は円形と推測するが、やや角張る(方形状)印象をもつ。規模は北東-南西壁下径で420cmを測る。床面中央部に石臼炉が検出され、平面形は略円形で、掘り方規模は開口部径87cmである。焼土は硬く締まる。焼土上部中心部に3個の小型礫が置かれており、廃絶の儀式的な様相を持つ。南側床面は急斜面を黒色土で覆う貼床となり、硬化面が認められる。柱穴は検出していない。高坏(No.2・3)を含め、0.91kgの土器が出土している。

<SK 1堅穴住居状造構>SI 1床面下(貼床黒色土下)から検出した。北側壁はなだらかに立ち上がり、比高は最大で32cmを測る。平面形は円形状と思われるが規模は不明である。炭化物集中区2基と柱穴状小

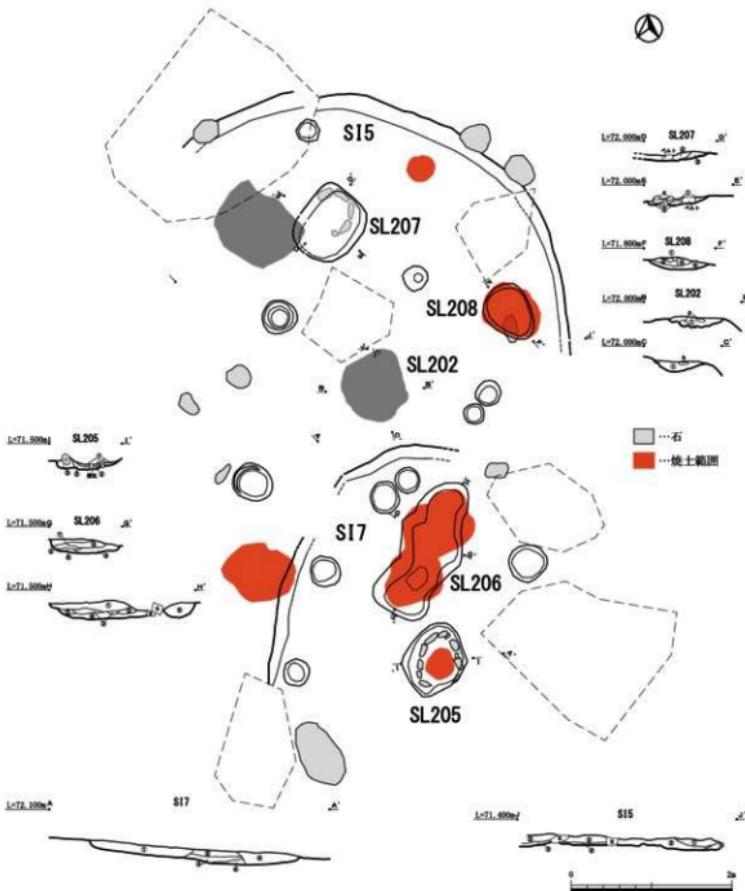
土坑を検出した。鉢の口縁（No.4）や粗製土器（0.07kg）が出土している。

＜S I 5堅穴住居跡・S L202地床炉・S L203焼土・S L207石囲炉・S L208焼土＞西部平坦面で検出した。南側でS I 7と重複する。II層黒色土直下の遺構で、基本層III層面を床面としている可能性が高い。山側で一部壁が残り、比高は21cmを測るが、他の壁は失われている。平面形は梢円形で、主軸方位は北北西に若干傾くと考えられるが、判然としない。規模は720×560cm前後と推定される。柱穴状土坑は6基検出した。P 1の規模は43×40cmで、深さは46cmを測る。想定床面範囲内に地床炉（S L202）と石囲炉（S L207）や焼土（S L208）を検出した。S L202は床面中央部にあり、地床炉と推定する。平面形は略円形を呈し、規模は82×76cmと大型である。焼土は厚く硬く縮まり、小型の花崗岩礫を含む。S L207は床面の北側で検出された。平面形は梢円形で、掘り方規模は88×73cmである。平面形・規模や構成礫はS L205と類似する。S L203・S L208は焼成が悪く縮まりがない。遺物は調査区の中では最も多く、土器は12.82kg出土している。原体の小さな繩文を施す、薄手の深鉢の破片や、沈線の巡る鉢形土器が多い。床面から出土の甕（No.6・7）のほか、11点（No.5～17）を掲載している。石器は、礫石器（No.98）が出土している。

＜S I 7堅穴住居跡・S L201焼土・S L205石囲炉・S L206焼土＞西部平坦面で検出した。北側でS I 5と重複する。埋土は、上位がS I 5床下（貼床か）となる人為的堆積層で、下位に黒褐色土（自然堆積か）を確認している。検出した北西壁の比高は18cmで、直線的であることから、平面形は梢円形で、規模は長軸で500cm前後と推測する。柱穴状土坑は5基検出した。P 2の規模は38×34cmで、深さは16cmを測る。これらの柱穴はS I 5に関連する可能性もある。また、床面に1基の石囲炉（S L205）と2基の焼土（S L201・206）を検出した。S L205の平面形は梢円形でやや北東～南西に傾く。掘り方開口部径は91×71cmである。平面形・規模・構成礫はS L207に似る。S L201は微細焼土と炭化物が広がる。S L206は、規模も大きく硬く縮まる。8.92kgの土器が出土している。7点（No.18～23）の土器と3点の石器（No.96・99・100）を掲載した。

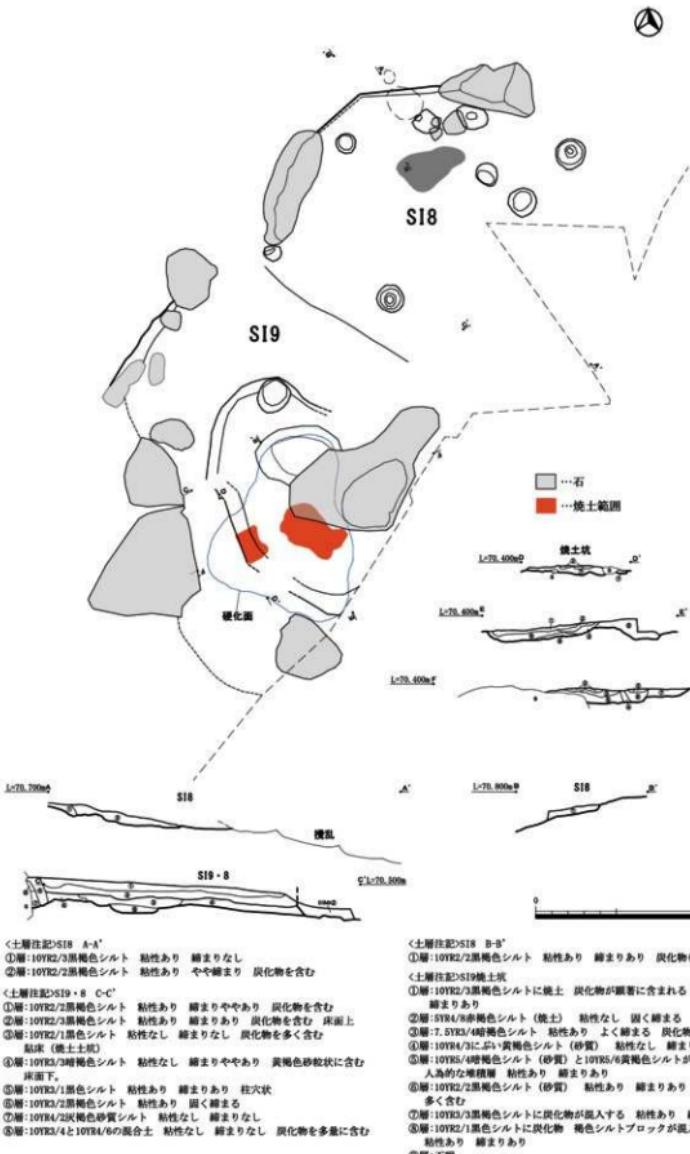
＜S I 8堅穴住居跡＞南部斜面で検出した。巨石（径2m前後）が多い区域で、その巨石の合間の空間を利用しているような住居跡である。南側でS I 9と重複し、切り合いの状況から、S I 9より新しい遺構と判断した。平面形は、巨石を壁に利用していると判断し、隅丸の長方形と推定している。主軸は西北西～東南東に傾く。規模は短軸で300cmを測り、長軸は350cm前後と推定する。床面の北西側はテラス状に高まる。床面北側に炭化物集中1基、柱穴は6基検出した。9.92kgの土器が出土しており、そのうち壁際に一括土器を2個体（No.32・36）確認している。No.36は、正立で出土した埋設土器と思われるもので、その横には礫が置かれており、礫下にNo.32が検出されている。全体的に薄手の土器が多いが、赤色の無文壺（No.37）は厚みがあり大型である。その他、先行して実施された試掘出土土器を含めて13点（No.25～37）掲載した。No.33の浅鉢と36・37の壺、104の土製品（粘土塊）は、ほぼ同じ場所から出土している。石器は石錘2点（No.91・92）が出土している。

＜S I 9堅穴住居跡＞南部斜面で検出した。東側でS I 8に切られる。平面形は遺構の南北側に突きでる巨石を範囲とする梢円形で、南側は搅乱で喪失している。主軸方位は北北西～南南東に傾き、規模は、長軸550cm、短軸400cm前後と推定する。

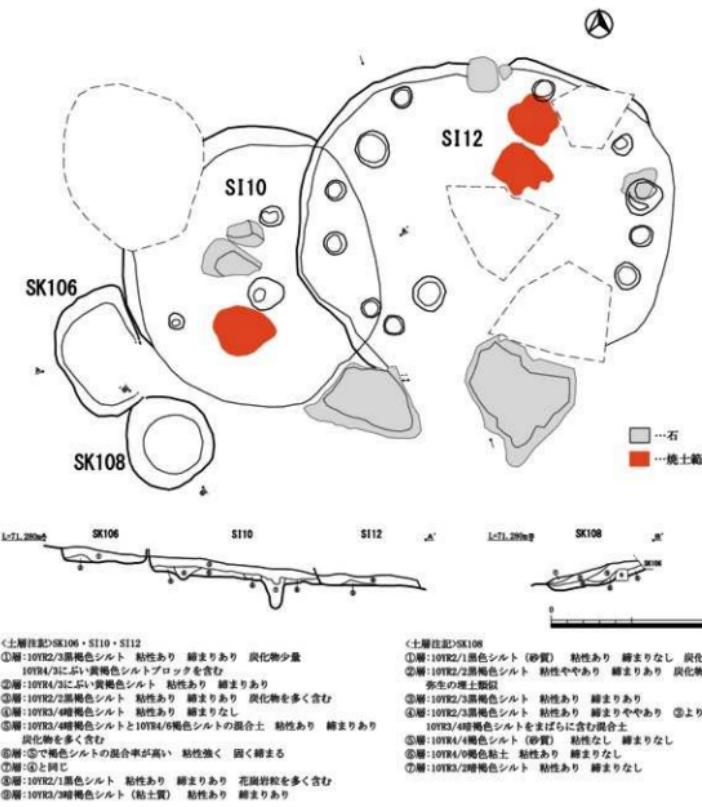


・ <u>土層記</u> SI5	・ <u>土層記</u> S17
①層: 10TR3/4黄褐色シルト 粘性あり 細まりあり	①層: 10TR2/2暗褐色シルトと10TR4/3黄褐色シルトの混合土 粘性あり 細まりあり 粘か? 土塊を手に含む 南面で合率高い (黄褐色シルトが卓続する)
②層: 10VR1/2白色土 属性なしやあり 細まりあり 岩化物を含む	②層: 10TR3/3褐色シルト 粘性あり 細まりあり 岩化物を多く含む
③層: 10VR2/3暗褐色シルト 粘性なし 細まりあり 岩化物を多く含む	③層: 10VR2/3褐色シルト 粘性あり 細まりあり 岩化物を多く含む
④層: 10VR2/3暗褐色シルト 粘性なし 細まりあり 岩化物を多く含む	④層: 10VR2/2暗褐色シルト 粘性あり 細まりあり 岩化物を含む
⑤層: 10VR5/6褐色土 粘性あり 細まりあり	⑤層: 10VR2/1黑色シルト 粘性なし 細まりなし (木根?)
・ <u>土層記</u> SL202	・ <u>土層記</u> CL207
①層: 5YR5/6赤褐色シルト (液状) 粘性なし 固く細まる	①層: 10VR2/1白色土 粘性なし 細まりなし
・ <u>土層記</u> SL205	②層: 5YR4/6褐色土 粘性なし 固く細まる
①層: 10VR3/4黄褐色シルト 粘性あり 細まりなし 岩化物を多く含む	③層: 5YR5/6赤褐色土 粘性なし 固く細まる
②層: 5YR3/6赤褐色シルト (液状) 粘性あり 固く細まる	④層: 7.5YR5/4暗褐色シルト 混土を含む 粘性なし 細まりなし
③層: 17.5YR4/3褐色シルト 粘性あり 細まりあり	・ <u>土層記</u> CL206
・ <u>土層記</u> SL206	①層: 10VR2/4暗褐色シルト (砂質) 混土状含む 岩化物を含む 粘性なし 細まりなし
①層: 7.5YR3/4と 5YR4/5の混合土 混土シルト 岩化物を含む 混土を含む	②層: 5YR4/6褐色土と白色土の混合土 粘性なし 細まりなし 岩化物を多く含む
②層: 7.5YR4/6褐色土 固く細まる 動性あり	③層: 5YR4/6赤褐色土 (液状) 粘性なし 細まりややあり
③層: 5YR4/8褐色土 粘性あり 細まりなし	④層: 7.5YR5/4暗褐色シルト 粘性あり 細まりあり
④層: 17.5YR2/3褐色シルト 粘性あり 細まりあり 岩化物を含む	
⑤層: 10VR4/5Cと 17.5YR4/3褐色シルト (粘土質) 粘性あり 細まりあり	

S 15・7・S L201~203・205~208 遺構平面・土層断面図



S 18～9 遺構平面・土層断面図



床は北側で傾くが、中央部はほぼ平坦で硬化面が認められ、2基の焼土と炭化物範囲が広がっている。壁となっている巨石は女陰形のくぼみを持つ。また、焼土や炭化物範囲の下位には、大型の男根状の巨礫が横たわり、先端がくぼみに向いているように見える。柱穴は1基検出した。炭化物範囲は楕円形の土坑状に掘り込まれ、焼土や炭化物は非常に厚く硬く締まる。土器は724kg出土している。浅鉢もしくは高壺の出土が多い特徴がある。掲載は9点 (No.38~46) である。石器は石鏃1点 (No.93)、そのほかNo.102の土製品が出土している。

<SI10堅穴住居跡>中央部平坦面で検出した。東側でSI12に切られ、東側でSK102・106と隣接する。平面形は円形で、規模は350cmほどと推定する。埋土は、Ⅲ層に似た炭化物混入の顯著な黒褐色土で、SI12などと区別される。床面中央部や南寄りに炭化物範囲が広がる。柱穴は3基検出し、P2の深さは39

cmを測る。床面中央部に巨石が突き出ている。224kgの土器が出土し、2点（No47・48）掲載した。

＜S I 12堅穴住居跡＞中央部平坦面で検出した。西側でS I 10を切る。南側にある2つの巨礫も範囲とした。平面形は楕円形を呈し、規模は480×400cmを測る。壁は斜めに緩くたち上がり、比高は最大42cmを測る。埋土は黒色土主体となる。床面北側に微弱な焼土伴う2基の炭化物範囲を検出した。柱穴は12基検出し、そのうち開口部径38～40cm前後のP 1～3が主柱穴になると考えられ、深さはP 3が最大で42cmを測る。南側の2つの巨石間に、柱穴などの施設がなく、出入り口の可能性がある。出土土器は総量で204kgである。弥生土器のほかに、縄文時代前期や後期と思われる土器も上層から出土している。4点（No49～52）を掲載した。

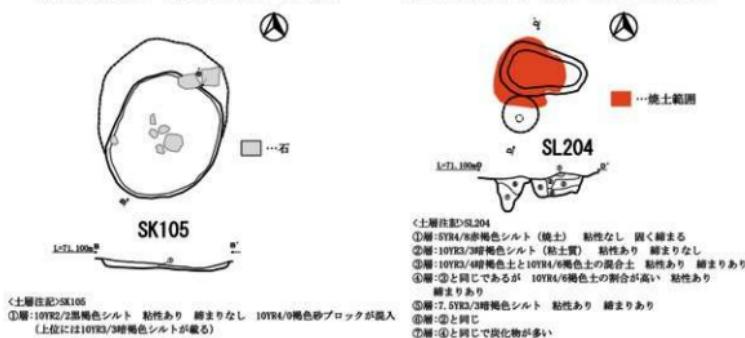
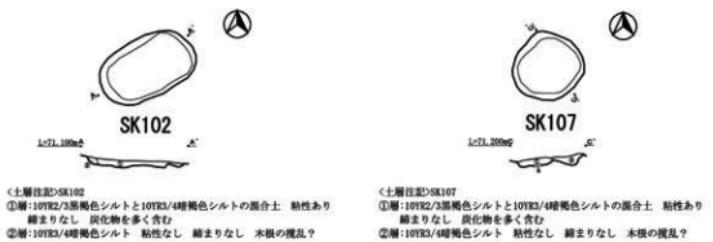
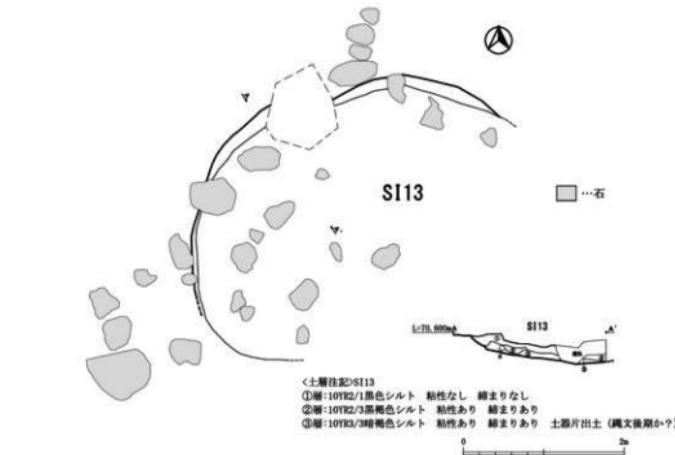
＜SK I 13堅穴住居状遺構＞東部斜面で検出した。平面形は楕円形で、規模は長軸で440cmを測る。壁は北壁のみの検出で、壁比高は27cm、黄褐色土を振り込んでいる。埋土は、黒褐色土下の暗褐色土で、他遺構と異なる特徴がある。床面は緩やかに南に下がるが、人頭大の礫が規則性を持って並んでいるようにも見える。この礫は埋土（暗褐色土）面に載っている。出土土器の総量は134kgで少ない。下層（暗褐色土）出土3点（No53～55）を掲載した。

＜SK 102・106～108土坑＞中央部南よりS I 7～10に挟まれる形で検出された。埋土は、すべて炭化物を多く含む黒褐色土が主体となる、SK 102の平面形は隅丸長方形で、開口部径は122×73cmを測る。土器出土量は0.20kgで小片が多い。SK 106はS I 10と隣接する。平面形は隅丸長方形で、開口部径は150×101cmを測る。土器出土量は0.09kgである。SK 107の平面形は円形で、開口部径は83cmを測る。深鉢の底部（No58：0.29kg）が出土している。SK 108は、SK 106と重複し、平面形は円形で、開口部径は108cmを測る。出土量は注口土器（No59）を含め0.23kgである。

＜SK 105土坑・SL 204焼土＞当初、堅穴住居跡と想定していた最西部で検出した。S I 5とS I 7に挟まれる形となる。SK 105は大型の土坑である。平面形は楕円形で、開口部径は193×157cmを測る。北壁はなだらかに立ち上がり、底面中央部や北側に礫を配する。遺物は、上層出土を遺構外として取り上げているため、1kgと少ない。2点（No56・57）を掲載した。SL 204は、焼土は硬く縮まり、規模や柱穴状土坑が隣接する特色はSL 206に似る。

＜遺構の時期＞埋土の特色や遺構毎の重複関係、また土器の出土状況などから、SK I 13が縄文時代前期初頭から前葉にかけて、SK I 4やS I 10、中央区で検出された土坑（SK 102・106～108）が、縄文時代後期後葉から晩期前葉にかけて、北側斜面検出のS I 1、S I 2と西部のS I 7、SK 105土坑やSL 204焼土が、弥生時代初頭から前期の遺構と考えられる。また、S I 9とS I 12が弥生時代前期から中期、そしてS I 5・S I 8が弥生時代中期から後期の遺構と推定する。

＜その他＞縄文時代前期の遺構はSK I 13のみであるが、S I 5床下（V層）から同期の土器が出土することから、調査区西部を中心に当期遺構の存在が危ぶまれる。S I 1・2は尾根沿いに検出されていることから、調査区外の北西側に同様の遺構が広がっていると予測される。S I 8は、方形のプランとしたが、巨石を壁と想定していることによるため明確ではない。S I 9は、巨石の配置と焼土遺構の規模などから、巨石を伴う祭祀遺構の可能性がある。S I 8と同遺構で、テラス状の高まりを持ち、巨石で囲まれる楕円形もしくは隅丸長方形の遺構との解釈もできる。



S K 102~103・105・S L 204 遺構平面・土層断面図



調査区実掘全景（東から）



S I 1 埋土断面（西から）



S I 2 平面（北東から）



S I 1 炉跡断面（北西から）



S I 5・S L 202平面（南西から）



S L 202断面（西から）



S I 7・S L 205平面（南から）



S K 105平面（南西から）



S I 8 平面（北から）



S I 9 床面突出焼土炭化物（西から）



S I 12 平面（北から）



S I 9 巨石周辺完掘（南から）



S K I 13 平面（西から）



S K 108 断面（東から）



遺物出土状況（S I 8 床面出土 遺物No.31）



遺物出土状況（中央区 II 層 遺構外遺物No.86）

<出土遺物>土器は総量で77.5kg(遺構内47.3kg、遺構外30.2kg)である。弥生時代前期から中期が多く、少量であるが縄文時代前期前半、中後期や晩期の土器も出土している。遺構内から順に記述する。S I 1出土No.1は、頸の狭い小型壺、S I 2出土No.2は高坏もしくは浅鉢で、胎土に金雲母が混入する。No.3は高坏の台部である。S K I 4出土No.4は鉢の口縁下破片で、縄文時代晩期初頭～前葉(大洞B式)の土器であろう。S I 5出土No.5は、複合口縁(肥厚)の交互刺突文が特徴的で、同様の土器はS I 9(No.38)やS I 12(No.50)でも出土している。No.6はS L 202とした地床炉と思われる焼土遺構の脇、No.7はS L 207とした石窯炉の近辺で検出された土器で、頸部が筒形状に伸び、口縁が外反する。胴部が膨らみ口縁とともに最大径となる。外面に煤が大量に付着しており、ただれていることから煮炊用に使われていた壺形土器と思われる。No.8～10の鉢のうち、No.9は櫛描文様の波状沈線が巡り、裏面には山形沈線が確認できる。No.10の内湾する山形口縁の鉢は、変形工字文を施文する。No.11・12は鉢の頸部から胴部と思われる破片で、No.11は連弧状沈線が、No.12は方形に区画された沈線内に縄文が充填され、下位には工字文状の文様が見える。またNo.13は平行沈線に区画され、連続刺突文(列点文)が施文される。No.16・17は高坏の台でNo.16は流水文が、No.17は流水文で縄文が充填され大型である。S I 7出土として登録された土器は、重複するS I 5に関連する可能性のある土器も含む。No.18は、口縁が長く大きく開き、肩の張る壺形の深鉢で、上層黒色土での出土である。No.19・29は平口縁、No.21は山形口縁、No.22は小波状口縁の鉢で、胎土に金雲母が多く混入する。No.23・24の浅鉢と鉢形土器の底部は、同じく金雲母を多く含み、器面色は暗褐色系である。

S I 8は、先行して実施した試掘調査で得られた土器(T 4出土土器)も登録した。No.25は、器面色が赤朱色の口縁が大きく開く深鉢(または壺)で、頸部が無文となる。No.30の胴部破片は同一個体と思われ、薄手の大型土器となりそうである。No.26～29は鉢形土器で、No.26は羽状縄文状に施文されてように見える。No.27・28の小型破片や沈線で区画され縄文を充填するNo.29は、縄文時代後晩期の土器(流れ込みか)の可能性もある。No.31は深鉢の胴部で乱雑な櫛描文が観察できる。No.32は碟に埋もれていた浅鉢である。No.33の浅鉢は孔が見られ、蓋として利用されていたことも考えられる。No.34は柱穴出土の壺、No.35の小破片は、口縁が長く伸びる小型壺の可能性がある。No.36は正立で検出された壺で、流水文とJ字文が描かれ縄文が充填される。弥生時代中期の折形圓式土器に相当しようか。No.37は厚みのある無文の壺でNo.36の近くで出土している。S I 9出土No.38～40は深鉢で、No.39は胎土に金雲母がやや多く混入している。No.41・42は平口縁の、No.43は山形口縁の浅鉢で、垂直にあがるNo.42は粘土粒が失われ、器面色は赤朱色である。No.44の壺は変形工字文の粘土粒がつぶされている。No.45の高坏とNo.46底部は暗褐色をしている。

S I 10出土のNo.47は、磨消しと縄文充填のほかに粘土瘤が貼られる特色を持つ土器で、遺構外で登録したNo.67と同一破片と考える。No.48の小破片は瘤付土器の壺である。S I 12出土土器は、S I 5やS I 9出土と同様の特色を持つ。S I 13は、埋土下層の暗褐色土から出土した土器を登録した。No.53は口縁に刺突列をもつ羽状縄文土器、No.54はループ文か、No.55は複節斜縄文を地文とする深鉢で、いずれも胎土に纖維を混入させる。S K 105出土のNo.57は高坏になろうか。S K 107のNo.58は一括で出土

した深鉢の底部である。S K 108のNo59は注口土器で、先端部を隆起で三角形に区画する。

以下は遺構外出土土器である。遺構内で出土した土器であっても、上位黒色土から出土（針葉樹の根から出土）した時期差のある土器（No60～66）は、遺構外として取り扱う。No60・61は縄文時代初期から前葉の土器で、No60はS I 5の床下（褐色ローム層）から、No61は調査西側の試掘トレンチV層から出土している。いずれも胎土に纖維が混入する。縄文時代前期初頭から前葉の土器である。No62は、S I 13検出区域黒色土からの出土で、細い粘土紐が貼り付けられており縄文時代前期中葉の土器であろうか。No63・64は縄文時代中期前中葉の土器で、他に数点出土しているが摩滅が激しい。No65・66の縄文時代後期後葉土器はS I 10出土土器と同様な特色を持つ。

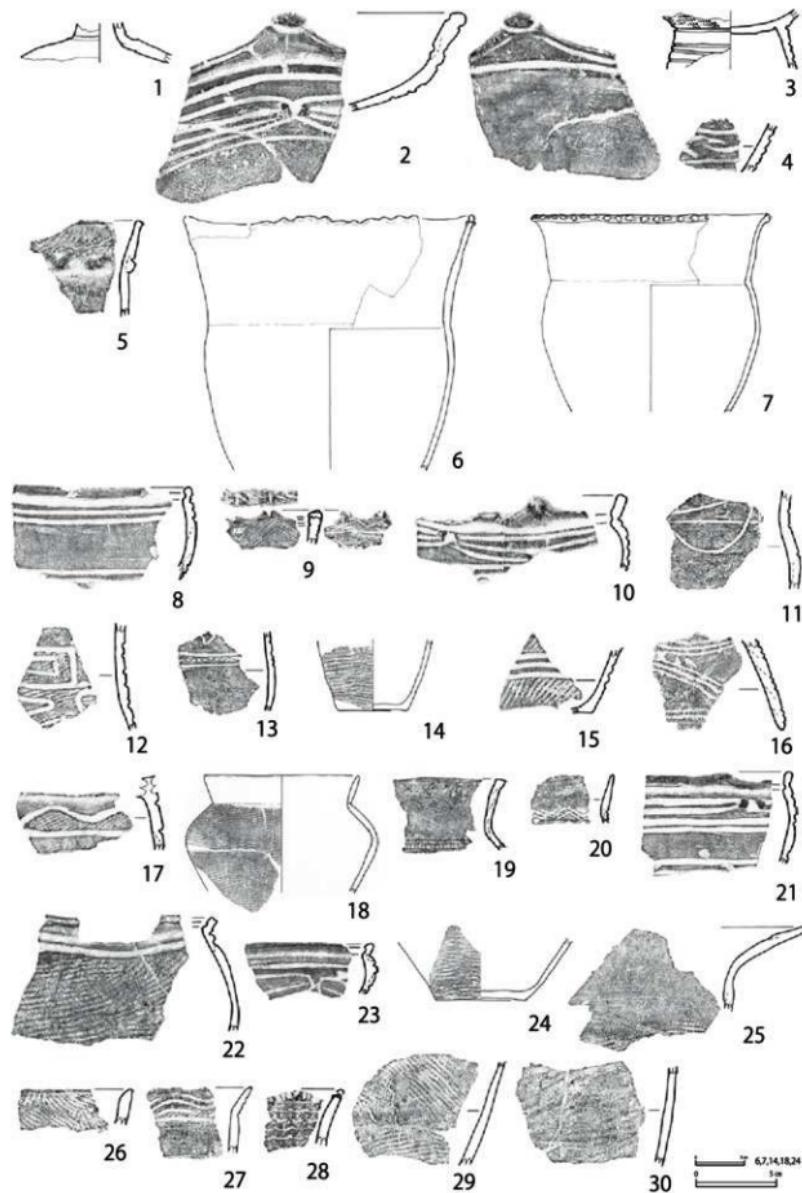
No67から86は、II層出土土器のうち弥生土器と思われるものを集めた。No67は肥厚された口縁下の無文帯に、大柄な山形の細沈線（菱形文？）が巡る。No68は押し引き文下位に交差刺突文が施文される。No69・70は口縁が大きく長く外反する深鉢で、どちらも胎土に金雲母が多い。No71は外反しない深鉢の粗製土器である。No72～74は平口縁の鉢でそれぞれ沈線が施される。No75・76は山形口縁で、No75は内側に2条の沈線が見える。No77はS I 2の貼床と搅乱黒色土から出土した鉢（碗？）で、器面色が黒褐色の特徴がある。No78～85は、浅鉢もしくは高壺である。そのうち平口縁のNo78は、暗褐色系で金雲母の混入が多い。No79は粘土粒がつぶされている。No81は高壺で口縁が欠損するが、器面色は白色系である。No82・83は流水文で暗褐色をしている。No84・85は縄文が充填されている。壺資料は1点。No86は短頸壺で大型であり、表面色は濃赤褐色である。肩部に縄文が施文されている。以下4点は時期不明の破片と底部である。No87と88は、沈線で方形区画し磨消しが施される。縄文時代中後期の深鉢であろうか。No89はS I 9の、No90はS I 7の検出区域II層出土の深鉢底部である。

以上の弥生土器の時期については、前期から中期にかけてと考えられるが、複合口縁の壺（No67・68）や口縁部が大きく開き外反する壺？（No69・70）は弥生時代後期（天王山式期）に属する可能性もある。また浅鉢もしくは高壺・壺については、金雲母を多く含み暗褐色系の色合いを持つNo82・83、磨消して縄文を充填するNo84・85、2条の沈線が口縁を巡るNo86は、前期末葉から中期初頭に位置付けられるものと考える。

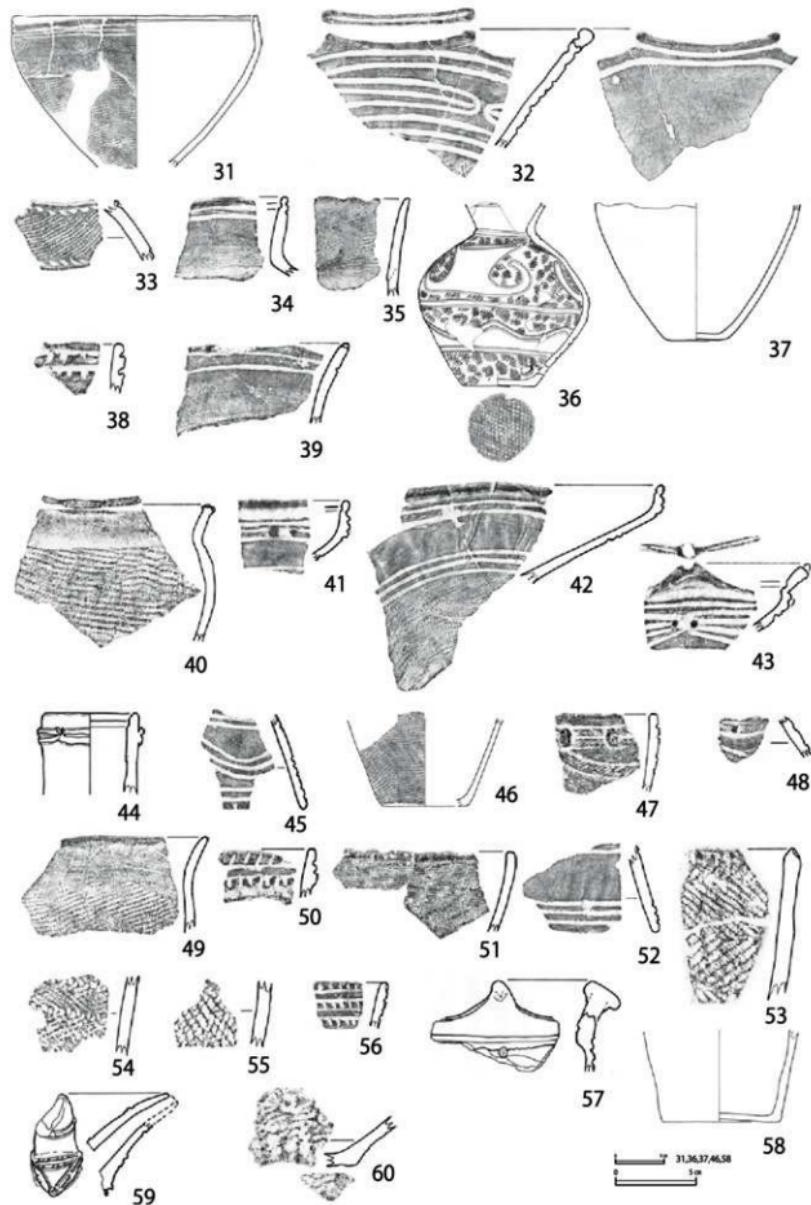
剥片石器は7点掲載している。No91・92はS I 8から、No93はS I 9から出土した石鎚で、ほか2点も調査区南側から出土している。No96はS I 7から出土した石錐、No97は石匙である。礫石器は遺構内出土を厳選した。No98がS I 5出土の敲石、S I 7からはNo99・100の磨石が出土している。

土製品は3点出土した。調査区西側から出土したNo101は、結髪土偶の結い部分の破片で、顔部が欠損している。またS I 9やその近隣からNo102・103の円盤状土製品が出土している。その他では調査区西側から古代の遺物である羽口（No105）や鉄滓（No106・107）が出土している。

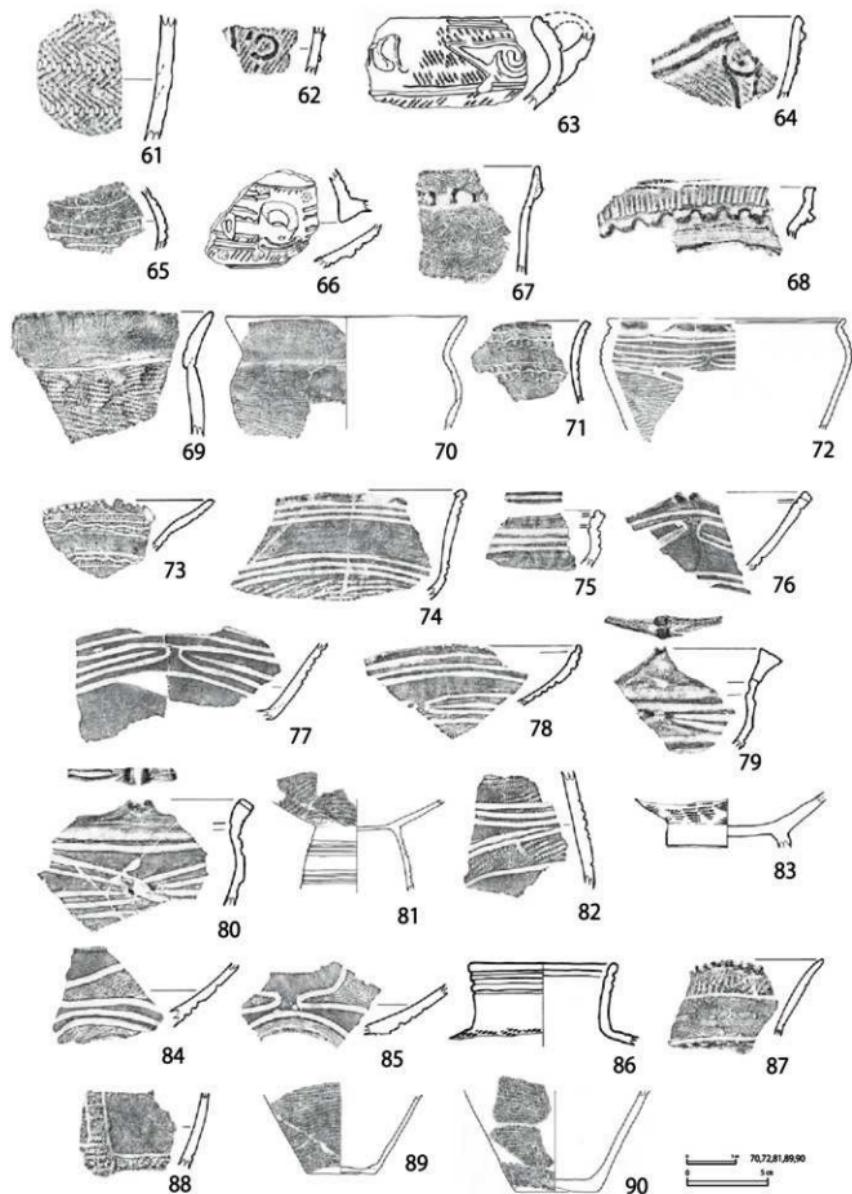
出土遺物から遺跡全体像を見ると、縄文時代前期初頭～前葉、中期前葉～中葉、後期後葉～晚期前葉、弥生時代前期～後期、そして古代人の活動の痕跡が伺える。集落の全盛は弥生時代前期～中期で、特記として、内陸部の当期遺跡に見られる蓋形土器が出土していないことを指摘しておきたい。



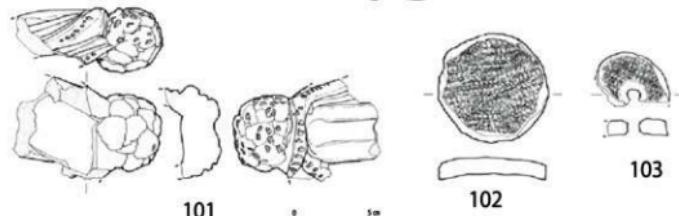
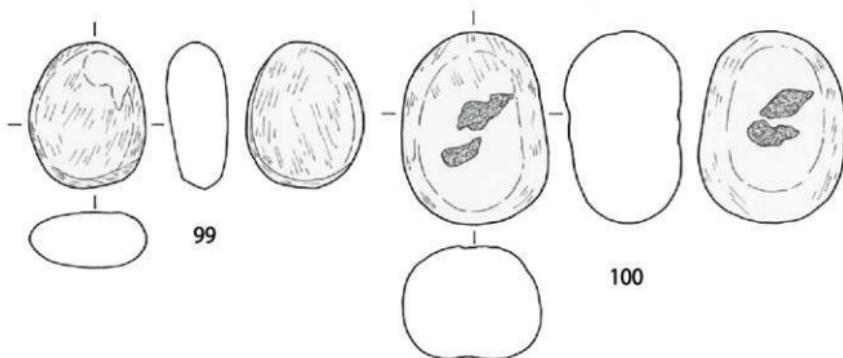
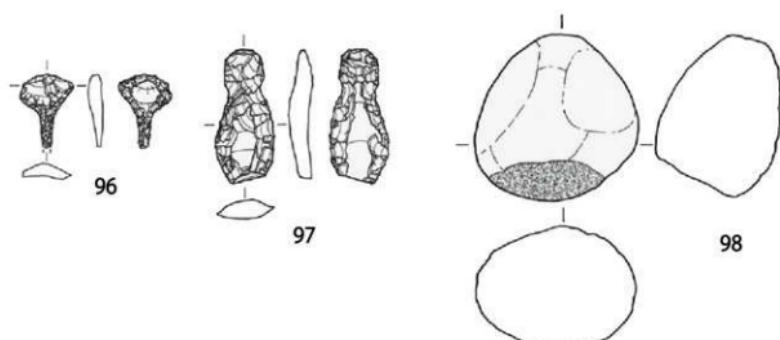
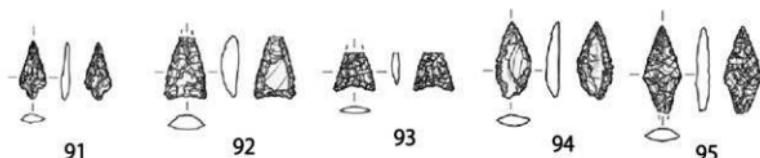
出土遺物 1



出土遺物 2



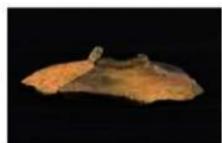
出土遺物 3



0 5 cm
0 5 cm

出土遺物 4

- 89 -



1 (1/2)



4 (1/2)



5 (1/2)



2 (1/2)



7 (1/3)



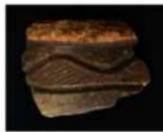
9 (1/2)



13 (1/2)



18 (1/3)



17 (1/2)



21 (1/2)

遺物写真 1



25 (1/2)



33 (1/2)



38 (1/2)



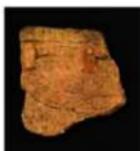
31 (1/3)



36 (1/2)



43 (1/2)



47 (1/2)



50 (1/2)



51 (1/2)



53 (1/2)

遺物写真2



57 (1/2)



63 (1/2)



67 (1/2)



66 (1/2)



74 (1/2)



87 (1/2)



81 (1/2)



83 (1/2)

遺物写真3



91 (原寸)



98 (原寸)



97 (原寸)



98 (1/2)



101 (1/2)



102 (1/2)



104 (1/2) 土球



105 (1/2) 鐵屑類

15 宮古盛岡横断道路（区界工区）

中村遺跡（LF20-1054：旧可能性あり8）

【所在地】 盛岡市築川地内

【事業者】 国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

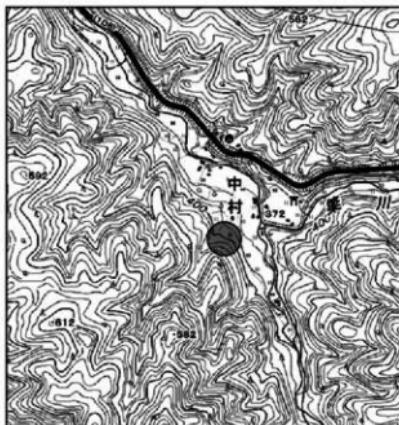
【調査期日】 平成26年10月7日（火）

～11月28日（金）

【調査面積】 1,500m²

【調査結果】 築川の左岸・標高400m前後の丘陵上に立地する。調査地から北東に300m離れた梁川対岸の丘陵上には縄文時代の組木新田遺跡（LF20-1035）がある。

今回の発掘調査は、国道106号宮古盛岡横断道路（区界～築川）建設事業に伴う本発掘



中村遺跡 位置図

調査である。平成26年1月27日（月）～31日（金）に行った試掘調査の結果、T 4で焼土遺構を検出し、またすべてのトレンチから縄文土器が出土した。周辺の地形等について考え合わせた結果、梁川右岸の丘陵上に集落遺跡が展開することが判明し、当該事業地について本調査が必要と判断した。

以上の試掘結果をもとに、当課により本発掘調査を実施した。調査地西側には現行河川が深い谷状地形を呈し、南側は丘陵の裾部に里道が存在するため、それぞれの影響を勘案して調査区を設定した結果、1,500m²の本発掘調査を実施した。

調査区は南に向かって展開する丘陵の先端に該当し、緩斜面上に遺跡が展開する。掘削の結果、後世の土地利用によって地形変更がなされ、基盤層上面において段状に造成されていた。調査では段を境に上段調査区・下段調査区と区割りしてすすめた。

基本層序は以下のとおりである。

I 層 黒色土 層厚10～20cm（表土及び耕作土）

II 層 黒褐色土 層厚10～20cm

III 層 黒色土 層厚35～60cm（縄文時代の包含層）

IV 層 褐色土 層厚不明（基盤層・地山）

包含層はIII層の黒色土であるが、多くは削平され上段調査区の一部で遺存していた。包含層内の出土遺物は縄文土器で、以降の所産となる遺物は貨銭1点がある。遺存状況が悪いため種別等は判別しがたいが、寛永通宝の可能性が高い。

＜遺構の概要＞IV層（褐色土・基盤層）の上面で検出した。いずれも土坑で、円形のものは多くが貯蔵穴、長椭円形のものは陥れ穴と考えられる。深度が1mを超えるものもあるが、大半は上面を削平されて構築当初の深度は遺存していない。

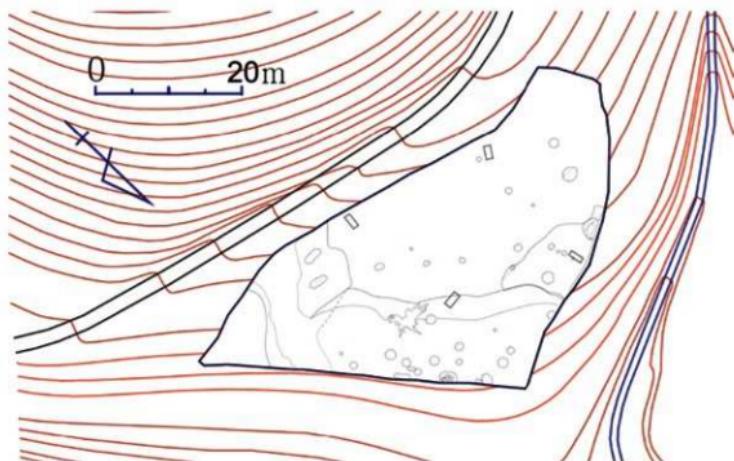
<土坑（略号：SK）>32基検出した。個別の規模ならびに状況については、別記一覧表にまとめた。調査区の北東部に固まって検出され、標高を減じる北側に顕著な集中が見られる。その大半は貯蔵穴として設けられたと考えられるが、遺物の出土がなく規模の小さいものも見られるため、時期・性格とも異なる遺構の混在が考えられる。

平面形状はバラバラだが、おおむね正円形が多い。断面形は、中胴部分が広く張る形態が多い。ただ、検出面での径と比較すると、胴部が極端に張り出すものは少ない。

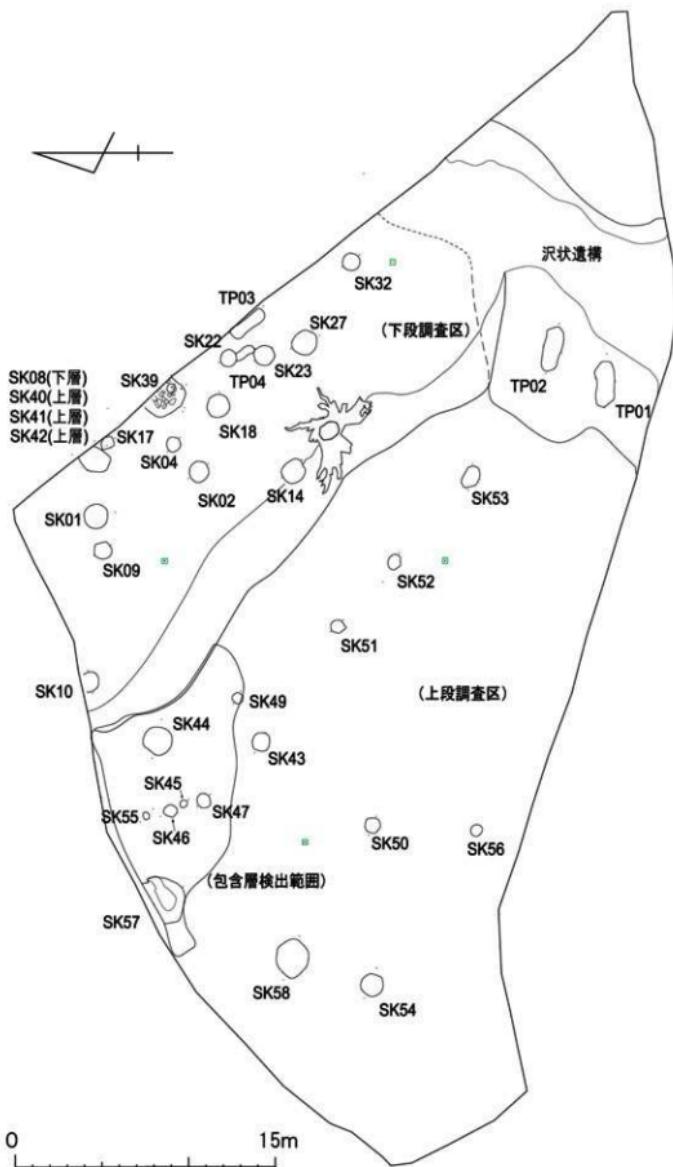
出土遺物は埋土中に包含するものが多く、底部付近から出土したものは極めて少ない。SK44では、遺物が埋土の中央に集積して検出され、一旦埋没した後に掘りなおして投棄した状況がうかがえる。

<陥れ穴（略号：TP）>4基検出した。個別の規模・状況は、別記一覧表にまとめた。TP01・TP02は調査区南西の斜面地で検出した。周辺は小規模な沢状の地形で、沢を臨む斜面に並行して設定されたと考えられる。またTP03・TP04は調査区北側に存在し、土坑によって一部を破壊されている。

いずれも平面は長楕円形を呈し、断面は船底形を呈する。底面は平坦で、いずれも中央に直径10cm程度の土色変化が列状に並ぶ状況を検出したことから、逆茂木が設置されていたと考えられる。



調査区位置図



遺構配置図

出土遺物は比較的少なかった。大半は土坑からの出土で、小片化した縄文土器が中心をなす。時期を決定するのに良好な資料は多くないが、おむね後期後葉の特徴を有するものが主体で、一部前期の特徴を有するものがある。またわずかではあるが、晩期の土器が出土しており、比較的長い時間に人為的活動がなされたと考えられる。一方、縄文時代遺構の遺物はほとんど見られなかった。さらに後世の時期を示す出土遺物は寛永通宝と考えられる貨銭が1点出土したに過ぎず、土地の造成などによって亡失した可能性が考えられる。

くまとめ▶本発掘調査の結果、中村遺跡は縄文時代中期を中心とする遺跡と判明した。築川左岸に張り出す丘陵先端の緩斜面に展開し、貯蔵穴および陥落穴が存在することから、当該地は集落の背後に設けられた狩場または貯蔵域にあたる。

また今回の調査区において、住居等に関連する遺構は検出できなかったことから、集落の居住域は丘陵の南部に展開すると考えられる。

●陥落穴(略号: TP)

遺構番号①)	位置	平面形状	規模②)	主軸	出土遺物	時期	備考
TP-1	下段	溝状	2.65×0.91/1.97×0.34/0.89m	N88° W	-	縄文時代中期～後期	逆茂木痕3個
TP-2	下段	溝状	3.04×0.87/2.14×0.42/0.96m	N75° W	-	縄文時代中期～後期	逆茂木痕1個
TP-3	下段	溝状	2.17×0.61/2.16×0.32/0.83m	N39° W	-	縄文時代中期～後期	逆茂木痕4個
TP-4	下段	溝状	-×0.57/-×0.34/0.30m	N32° W	-	縄文時代中期～後期	SK22・23に切られる

●土坑(略号: SK)

遺構番号①)	位置	平面形状	規模②)	出土遺物	時期	備考
SK-1	下段	円形	1.30×1.30/1.18×1.18/0.95m	-	不明	焼土は堆積するも、焚火の痕跡なし。
SK-2	下段	フラスコ	1.14×1.09/1.27×1.27/0.85m	上部	縄文時代後期前葉	壁面はフラスコ状を呈する。
SK-4	下段	円形	0.28×0.77/0.66×0.63/0.44m	-	不明	
SK-8	下段	フラスコ	1.31×1.05/1.23×1.43/1.29m	上部	縄文時代後期前葉	SK頭に切られる
SK-9	下段	円形	0.97×0.92/0.87×0.64/0.46m	上部	縄文時代後期前葉	
SK-10	下段	フラスコ	1.13×-/-1.41×-/-0.85m	-	不明	調査区外へ、壁面はフラスコ状を呈する。
SK-14	下段	円形	-×1.33×/-1.18×/-0.99m	-	不明	東側は削平により消失。壁面はフラスコ状を呈する。
SK-17	下段	円形	0.84×0.65/0.67×0.57/0.18m	上部	縄文時代後期前葉	
SK-18	下段	フラスコ	1.29×1.33/1.37×1.45/0.92m	上部	縄文時代後期前葉	壁面はフラスコ状を呈する。
SK-22	下段	円形	1.08×1.17/1.03×1.05/0.98m	上部	縄文時代後期前葉	
SK-23	下段	円形	1.16×1.16/1.19×1.16/1.42m	上部	縄文時代後期前葉	
SK-27	下段	円形	1.43×1.27/1.03×1.25/1.02m	-	不明	遺構上面に巻土遺構あり
SK-32	下段	円形	0.92×0.93/0.43×0.55/1.43m	上部・裡	不明	
SK-39	下段	方形	2.32×(1.54)×1.50×(0.86)×0.3m	-	縄文時代後期前葉	内部で人頭の大形の礎。底面遺構なし
SK-40	下段	不明	-×-/-×-/-m	上部	不明	SK40を切る／SK41・42に切られる
SK-41	下段	不明	0.80×-/-0.87×-/-m	-	縄文時代後期前葉	SK40を切る／調査区外へ
SK-42	下段	不明	0.64×-/-0.3×-/-m	上部	不明	SK40を切る／調査区外へ
SK-43	上段	丸方形容	1.68×1.55/0.89×0.88/0.35m	上部	縄文時代後期前葉	壁面はオーバーハング。フ拉斯コ状を呈するか
SK-44	上段	円形	1.84×1.84/1.15×1.06/1.13m	上部	縄文時代後期前葉	
SK-45	上段	円形	0.50×0.39/0.35×0.24/0.28m	上部	縄文時代後期前葉	
SK-46	上段	円形	0.83×0.72/0.67×0.54/0.22m	-	縄文時代後期前葉	
SK-47	上段	円形	0.74×0.75/0.68×0.62/0.47m	-	不明	
SK-49	上段	円形	0.76×0.77/0.50×0.57/0.25m	-	不明	
SK-50	上段	円形	0.84×0.79/0.68×0.67/0.23m	-	不明	
SK-51	上段	円形	0.85×0.87/0.58×0.57/0.30m	-	不明	
SK-52	上段	円形	0.82×0.60/0.68×0.72/0.28m	-	不明	
SK-53	上段	椭円形容	1.24×-/(1.14×-)/-0.18m	-	不明	遺構は流失
SK-54	上段	円形	1.31×1.22/1.11×1.04/0.25m	-	植物遺体	壁面はオーバーハング。フ拉斯コ状を呈するか
SK-55	上段	円形	0.62×0.60/0.50×0.47/0.23m	-	不明	試験で確認。焼土は堆積するも、焚火の痕跡なし
SK-56	上段	円形	0.87×0.70/0.58×0.52/0.45m	-	不明	
SK-57A	上段	円形	-×-/-0.61×0.64/-m	上部	縄文時代後期前葉	上花北側に巻土・炭化物広がる
SK-57B	上段	円形	-×-/-0.50×0.48/-m	-	不明	
SK-58	上段	椭円形容	2.39×-/-1.94×-/-0.07m	-	不明	北側は流失

※1)・遺構番号は陥落穴、土坑の検出順に付与した。調査の結果、遺構と認められなかったものについては、報告対象から除外し、欠番とした。
※2)・陥落穴、土坑の復原は、上端：長軸長×短軸長/底面積(m)を用いて算出した。

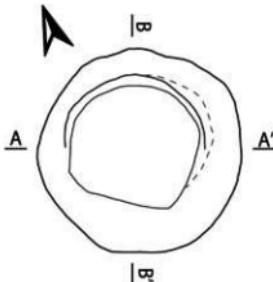
検出遺構概要表

L=399.2m

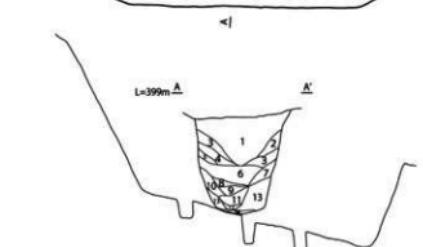
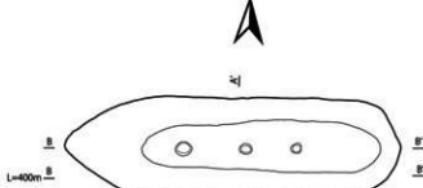
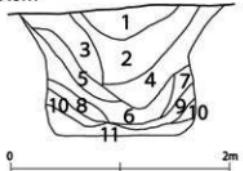
| B



| B'



- 1 黒色土 (10YR2/1) しまりややあり、粘性ややあり。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) しまりややあり、粘性あり、10~20cm 大の縫、織文土器片を含む。人為的に捨てられたものと考えられる。
- 3 棕褐色土 (10YR4/6) しまりなし、粘性ややあり、5mm 大の小縫を含む。
- 4 黑褐色土 (10YR2/3) しまりややあり、粘性ややあり、織文土器片や縫を含む。
- 5 黑褐色土 (10YR2/2) しまりややあり、粘性ややあり、黄褐色ブロックを部分的に含む。
- 6 棕褐色土 (10YR4/6) しまりあり、粘性あり、部分的に黄褐色ブロック、暗褐色土を含む。
- 7 棕褐色土 (10YR4/6) しまりややあり、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
- 8 暗褐色土 (10YR2/4) しまりあまりなし、粘性ややあり、全体に黄褐色土粒を含む。
- 9 暗褐色土 (10YR3/3) しまりあまりなし、粘性ややあり、黄褐色土粒・暗褐色土粒を全般的に含む。
- 10 棕褐色土 (10YR4/6) しまりあり、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
- 11 黑褐色土 (10YR2/2) しまりあり、粘性あり。

A
L=399.0m

- 1 黒色土 (10YR1.7/1) しまりややあり、粘性ややあり、部分的に小縫を含む。
- 2 黄褐色土 (10YR6/8) しまりあまりなし、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
- 3 黑褐色土 (10YR2/3) しまりあまりなし、粘性あり、全体に黄褐色土粒を含む。
- 4 黑褐色土 (10YR2/2) しまりあまりなし、粘性あり。
- 5 黄褐色土 (10YR6/8) しまりあまりなし、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
- 6 黑褐色土 (10YR2/2) しまりあまりなし、粘性あり。
- 7 棕褐色土 (10YR4/6) しまりややあり、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
- 8 棕褐色土 (10YR4/6) しまりややあり、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
- 9 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまりあまりなし、粘性ややあり。
- 10 棕褐色土 (10YR4/6) しまりややあり、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
- 11 棕褐色土 (10YR4/5) しまりややあり、粘性あまりなし。
- 12 黑褐色土 (10YR2/2) しまりややあり、粘性あまりなし。
- 13 明黄褐色土 (10YR6/8) しまりなし、粘性なし、小縫を多く含む。
- 14 黑褐色土 (10YR3/2) しまりなし、粘性なし。

上：土坑（貯蔵穴）SK02／下：土坑（陥し穴）TP01 検出構造図



下段調査区 遺構精査



下段調査区 人力掘削



下段調査区 遺構検出状況



TP-3 (躰し穴) 全景



SK01 (土坑) 土層断面



SK02 (土坑) 遺物出土状況



SK32 (土坑) 全景



SK39 (土坑) 碳化状況



上段調査区 遺構精査



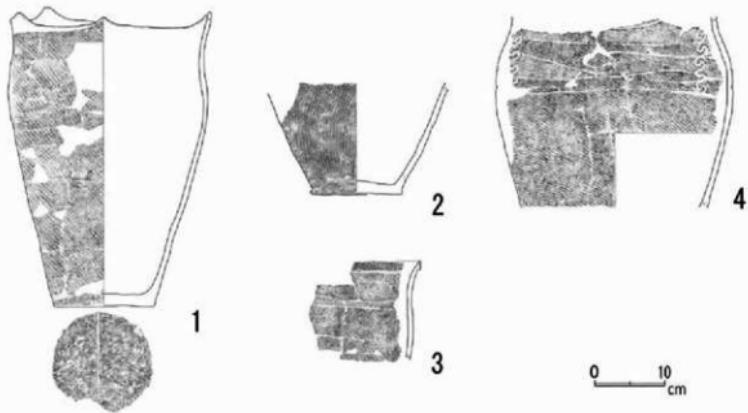
上段調査区 遺構検出状況



SK55（土坑）全景



SK57（土坑）全景



出土遺物 実測図



番号	遺物	器種・部位	出土地点	番号	遺物	器種・部位	出土地点
1	縄文土器	深鉢	SK44 埋土中	9	縄文土器	口縁部	下段・表土掘削中
2	縄文土器	深鉢	SK2 埋土中	10	縄文土器	口縁部	下段・遺構検出中
3	縄文土器	口縁部	SK17 埋土中	11	縄文土器	体部	SK39 埋土中
4	縄文土器	深鉢	SK2 埋土中	12	縄文土器	口縁部	SK39 埋土中
5	縄文土器	口縁部	SK23 埋土中	13	縄文土器	体部	下段・表土掘削中
6	縄文土器	口縁部	SK57 埋土中	14	縄文土器	体部	不明
7	縄文土器	口縁部	SK8 埋土中	15	石器	敲石	カラマツ除去中に出土
8	縄文土器	口縁部	下段・表土掘削中	16	銭		下段・遺構検出中(SK11附近)

出土遺物写真・観察表

平成 26 年度 派遣専門職員の調査風景



【後列左から】中澤寛将（青森）・浅野晴樹（埼玉）・丸杉俊一郎（静岡）・上垣幸徳（滋賀）・上床真（鹿児島）・間真一（大阪）・小林昭彦（大分）

【前列左から】相原伸裕（岩手）・村本周三（北海道）・鳥居達人（岩手）・今福利恵（山梨）・柏原正民（兵庫）・加藤竜（秋田）・坂井田端志郎（熊本） ※敬称略



村本周三氏（北海道）



中澤寛将氏（青森県）



加藤竜氏（秋田県）



浅野晴樹氏（埼玉県）



今福利恵氏（山梨県）



丸杉後一郎氏（静岡県）



上垣幸徳氏（滋賀県）



間真一氏（大阪府）



柏原正民氏（兵庫県）



坂井田端志郎氏（熊本県）



小林昭彦氏（大分県）



上床真氏（鹿児島県）

分布・試掘・本発掘調査・工事立会
市町村支援一覧

1 分布調査一覧

(1) 三陸沿岸道路（三陸国道事務所・南三陸国道事務所管内）

津野工区(青森県南上～待浜)

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在 地	調査日	備考
1		可能性あり①(工事用道路①②)				九戸郡洋野町有家第9地割地内	平成26年4月30日	要試掘調査
2		可能性あり(29号工事用道路)				九戸郡洋野町種市第16地割地内	平成26年8月29日	要試掘調査
3		可能性あり(25号工事用道路)				洋野町種市第17地割地内	平成26年11月28日	影響なし

田野畑～普代工区

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在 地	調査日	備考
4		可能性あり(工事用道路-16)				下閉伊郡田野畑村一の渡地内	平成26年8月22日	要試掘調査
5		可能性あり(資産工事用道路)				下閉伊郡田野畑村曾澤地内	平成26年9月18日	要試掘調査
6		可能性あり(普代川付替え)				下閉伊郡普代村第12地割字中村地内	平成26年9月19日	要試掘調査
7		可能性あり(村道付替え)				下閉伊郡田野畑村曾澤地内	平成27年1月14日	影響なし

宮古～田老工区

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在 地	調査日	備考
8		可能性あり(工事用道路-16)				下閉伊郡田野畑村一の渡地内	平成26年8月22日	要試掘調査

山田～渡吉工区(山田北～宮古中央)

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在 地	調査日	備考
9	LG53-0313	金浜V道路	縦文		散布地	宮古市金浜第4地割、第5地割、第7地割地内	平成26年4月17日	要試掘調査
10		根井沢大田Ⅰ道路隣接地および 沼里川隣接地				宮古市津軽石第6地割地内、第19地割地内	平成26年4月17日	影響なし
11	LG63-0231	若竹向I 道路	縦文・古代		散布地	宮古市津軽石第16地割地内	平成26年4月17日	要試掘調査
12	LG63-0232	若竹向I 道路隣接地	掘切・郭			宮古市津軽石第16地割地内	平成26年4月17日	要試掘調査
13		可能性あり①				宮古市津軽石第15地割地内	平成27年2月5日	試掘調査
14		可能性あり②				宮古市津軽石第15地割地内	平成27年2月5日	試掘調査
15		可能性あり③				宮古市津軽石第15地割地内	平成27年2月5日	試掘調査
16		可能性あり④				宮古市津軽石第15地割地内	平成27年2月5日	試掘調査

釜石山田道路(釜石JCT～山田南)

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在 地	調査日	備考
17		可能性あり③				大船町吉里吉里地内	平成26年7月24日	要試掘調査
18		可能性あり④				大船町吉里吉里地内	平成26年7月24日	要試掘調査
19						大船町小船地内	平成26年8月8日	影響なし

吉浜釜石道路(吉浜～釜石JCT)

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在 地	調査日	備考
20		可能性あり①				大船渡市三跡町古浜地内	平成26年7月24日	要試掘調査
21		可能性あり②				釜石市唐丹町小白浜地内	平成26年7月24日	要試掘調査
22		可能性あり①				大船渡市三跡町古浜字上野地内	平成26年8月8日	要試掘調査
23	MGT7-0262	大津江道路および隣接地	縦文	周知	散布地	釜石市平子町地内	平成26年8月8日	要慎重工事

(2) 東北横断自動車道釜石秋田線(南三陸国道事務所管内)

釜石道路(釜石西～釜石JCT)

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在 地	調査日	備考
24	MGT0-1291	坪内道路	縦文・渋生	周知	散布地	釜石市平子町地内	平成26年8月8日	要試掘調査

(3) 宮古盛岡横断道路(三陸国道事務所・岩手河川国道事務所管内)

都南川自道路

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在 地	調査日	備考
25		新道I 道路および隣接地	縦文・古代		集落跡	盛岡市手代森6地割地内	平成26年11月7日	要試掘調査
26		都南字道路および隣接地	縦文		散布地	盛岡市手代森6地割地内	平成26年11月7日	要試掘調査
27		可能性あり				盛岡市手代森6地割地内	平成26年11月7日	要試掘調査

区界道路(区界～篠川)

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
28	可能性あり1					盛岡市篠川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
29	可能性あり2					盛岡市篠川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
30	可能性あり3					盛岡市篠川第2地割地内	平成26年8月7日	要1事立会
31	可能性あり4					盛岡市篠川第2地割地内	平成26年8月7日	要1事立会
32	可能性あり5					盛岡市篠川第2地割地内	平成26年8月7日	要1事立会
33	可能性あり6					盛岡市篠川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
34	可能性あり7					盛岡市篠川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
35	可能性あり8					盛岡市篠川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
36	可能性あり9					盛岡市篠川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
37	可能性あり10					盛岡市篠川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
38	可能性あり11					盛岡市篠川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査

2 試掘調査一覧

(1) 三陸沿岸道路

(三陸国道路事務所管内：青森県側上IC～山田IC・南三陸国道路事務所管内：山田南IC～宮城県側桑原IC)

No.	調査期日	事業名	事業者	道路名	所在地
1	平成26年4月14日～17日	三陸沿岸道路(宮古～田老)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	山口駄込1道路、山口駄込2道路、可能性あり1、可能性あり2	宮古市
2	平成26年4月23日	三陸沿岸道路(青浜至石道路)工事用道路	国土交通省東北地方整備局南三陸国道路事務所長	大沢1道跡	釜石市
3	平成26年4月21日～23日	三陸沿岸道路(宮古～田老)	国土交通省東北地方整備局南三陸国道路事務所長	可能性あり12.3	宮古市
4	平成26年5月13日～15日、19日～20日	三陸沿岸道路(山田宮古道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	金浜V道路、荷竹向1道跡、荷竹向2道跡	宮古市
5	平成26年5月22日	三陸沿岸道路(勝田～舟角)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	可能性あり1	津軽町
6	平成26年5月26日～29日	三陸沿岸道路(宮古中央～田老)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	可能性あり1(構造変更箇所なし)	宮古市
7	平成26年6月9日～6月10日	三陸沿岸道路(久慈北道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	可能性あり3.5、木戸場1道跡	久慈市
8	平成26年7月1日～3日	三陸沿岸道路(美石山道路)	国土交通省東北地方整備局南三陸国道路事務所長	沢山道跡、白石越跡	大槌町
9	平成26年7月14日～17日	三陸沿岸道路(宮古中央～田老)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	向新田道跡	宮古市
10	平成26年8月1日～25日	三陸沿岸道路(青浜至石道路)	国土交通省東北地方整備局南三陸国道路事務所長	可能性あり1(工事用道路)、八戸西市可能あり2(工事用道路)	釜石市
11	平成26年8月8日	三陸沿岸道路(普代久慈道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	可能性あり6蔵前地	野田村
12	平成26年8月27日	三陸沿岸道路(尾羽原至普代道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	可能性あり(尾羽原至普代工事用道路)	田代畠村
13	平成26年9月16～17日	三陸沿岸道路(青浜至石道路)	国土交通省東北地方整備局南三陸国道路事務所長	可能性あり1(工事間隔設施)、人和沢市可能あり1(工事用道路)	津軽町
14	平成26年9月21日	三陸沿岸道路(津野原上道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	第2工事用道路(サンニヤ農耕機械搬入地)	津野町
15	平成26年9月3日	三陸沿岸道路(久慈北道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	可能性あり3(構造変更箇所なし)	宮古市
16	平成26年9月25日～26日	三陸沿岸道路(久慈北道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	可能性あり5	久慈市
17	平成26年9月29日～10月2日	三陸沿岸道路(田老若道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	可能性あり2(構造変更箇所なし)	宮古市
18	平成26年9月29日～10月2日	三陸沿岸道路(宮古田老道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	可能性あり3(本線)	宮古市
19	平成26年9月29日～10月2日	三陸沿岸道路(宮古田老道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	可能性あり3(構造変更箇所なし)	宮古市
20	平成27年10月7日	三陸沿岸道路(津野原上道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	可能性あり	津野町
21	平成26年10月25日	三陸沿岸道路(田老若代道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	可能性あり	普代村
22	平成26年10月29日	一般国道45号 三陸沿岸道路(宮古～田老)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	高根道跡(隣接)	宮古市
23	平成26年11月12日	三陸沿岸道路(美石山道路)	国土交通省東北地方整備局南三陸国道路事務所長	可能性あり3(工事用道路)	大槌町
24	平成27年11月26日	三陸沿岸道路(山田宮古道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	松川1道跡	宮古市
25	平成26年12月8日～11日、15日～18日	三陸沿岸道路(宮古田老道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	千徳城遺跡群(南側)、千徳城遺跡群(北側)、青旗1道跡、山口駄込1道跡	宮古市
26	平成26年12月8日～11日	三陸沿岸道路(吉浜並石道路)	国土交通省東北地方整備局南三陸国道路事務所長	小白浜遺跡および接続地	釜石市
27	平成27年2月4日～5日	三陸沿岸道路(津野原上道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	南能椎1道跡	津野町
28	平成27年2月13日	三陸沿岸道路(美石山道路)	国土交通省東北地方整備局南三陸国道路事務所長	沢山道跡	釜石市
29	平成27年2月24日	三陸沿岸道路(田野雄原～尾羽原)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	沢岩原V道跡、尾崎地区道跡	田代畠村
30	平成27年3月10日	一般国道45号三陸沿岸道路(山田宮古道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道路事務所長	可能性あり1, 2, 3, 4	宮古市

※網かけ箇所は本書で取り上げた遺跡

(2) 東北横断自動車道 峰石秋田線

(岩手河川国道事務所管内：宮守～淡野住田、南三陸国道事務所管内：峰石西～峰石JCT)

No.	調査期間	事業名	事業者	道路名	所在地
31	平成26年5月26日～28日	一般国道283号峰石花巻道路（淡野住田～良）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり31（調査区域を一部含む）	淡野町
32	平成26年8月29日	峰石花巻道路（峰石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	坪内道路	峰石市

(3) 宮古盛岡横断道路

(三陸国道事務所管内：藤原～鶴石、岩手河川国道事務所管内：平津戸～鶴南川田)

No.	調査期間	事業名	事業者	道路名	所在地
33	平成26年6月19日	国道106号 宮古盛岡横断道路（区界～蓬川開工事用道路）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり4（工事用道路）	宮古市
34	平成26年8月26日	国道106号 宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり11	宮古市
35	平成26年8月26日～27日	国道106号 宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり2	盛岡市
36	平成26年9月11日	国道106号 宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり1	盛岡市
37	平成26年9月11日、11月25日	国道106号 宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり6	盛岡市
38	平成26年11月7日	国道106号 宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり10	盛岡市
39	平成26年11月25日	国道106号 宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり7	盛岡市
40	平成26年11月25日	国道106号 宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり8	盛岡市
41	平成26年11月25日	国道106号 宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり9	盛岡市

(4) 一般国道45号改良

No.	調査期間	事業名	事業者	看跡名	所在地
42	平成27年1月20日	一般国道45号矢吹点改良等 良浜歩道整備	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	角川日出跡及び隣接地。可能性あり1	津野町
43	平成27年3月31日	国道45号(岩手45号復興)	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	新船越跡隣接地	大槌町

(5) 市町村支援関係

No.	調査期間	事業名	事業者	道路名	所在地
44	平成27年2月24日	旧赤浜小学校校庭北側住宅地における範囲 確認調査	大槌町教育委員会	赤浜Ⅱ遺跡	大槌町

3 本発掘調査一覧

No.	調査期間	事業名	事業者	道路名	所在地
1	平成26年4月21日～5月16日	三陸沿岸道路（宮古～田老）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	牛沢遺跡	宮古市
2	平成26年7月28日～7月31日	三陸沿岸道路（津野原上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	黒坂遺跡（旧可能性あり1工事用道路①-2）	津野町
3	平成26年9月29日～10月10日	三陸沿岸道路（宮古～田老）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	駿達Ⅰ遺跡（旧可能性あり1）	宮古市
4	平成26年10月7日～ 平成26年11月26日	国道106号宮古盛岡横断道路（区界～蓬川）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	中村遺跡	盛岡市
5	平成26年10月14日～ 平成26年11月26日	三陸沿岸道路（吉浜峠石道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	福岡遺跡	大船渡市
6	平成26年10月20日～ 11月21日	三陸沿岸道路（津野原上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	サンニヤミ遺跡（旧可能性あり2号工事用道路）	津野町
7	平成26年11月4日～12月26日	三陸沿岸道路（津野原上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	南龍雅Ⅰ遺跡（旧可能性あり29号工事用道路）	津野町

4 工事立会一覧

No.	調査期間	事業名	事業者	道路名	所在地
1	平成26年7月28日	三陸沿岸道路（代代～久慈）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	中平遺跡	野田村
2	平成26年10月21日	国道106号 宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり34.5	盛岡市
3	平成27年1月21日	一般国道45号岩手45号復興（平田地区）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	平田遺跡	峠石市

※網かけ箇所は本書で取り上げた道路

報告書抄録

ふりがな	いわてけんないいせきはつくつちょうさほうこくしょ						
書名	岩手県内遺跡発掘調査報告書						
副書名	平成26年度 復興関係						
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書						
シリーズ番号	第146集						
編集者名	岩手県教育委員会						
編集機関	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課						
所在地	〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1 TEL 019-629-6180						
発行年月日	平成28年3月27日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
サンニヤⅡ遺跡	九戸郡洋野町種市第25地割地内	03507 IF48-2231	40度24分36秒	141度42分17秒	20141020～1121	700	記録保存調査
南鹿敷Ⅰ遺跡	九戸郡洋野町種市第16・17地割地内	03507 IF58-1333	40度23分35秒	141度43分02秒	20141104～1226	875	記録保存調査
黒坂遺跡	九戸郡洋野町有家第9地割字黒坂地内	03507 IF89-1322	40度18分38秒	141度45分42秒	20140728～0731	145	記録保存調査
駿達Ⅰ遺跡	宮古市田老子駿達、滝の沢地内	03202 KG99-0124	39度45分05秒	141度57分59秒	20140929～1010	330	記録保存調査
牛沢遺跡	宮古市山口第13地割牛沢2-1地内	03202 LG23-1233	39度39分40秒	141度55分47秒	20140421～0516	780	記録保存調査
扇洞遺跡	大船渡市三陸町吉浜字扇洞地内	03203 MG11-0269	39度09分18秒	141度50分11秒	20141014～1128	145	記録保存調査
中村遺跡	盛岡市篠川地内	03201 LF20-1054	39度39分49秒	141度18分06秒	20141007～1128	1,500	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
サンニヤⅡ遺跡	集落跡	縄文・古代	竪穴住居跡・陥し穴・土坑	土師器、石器	焼失住居		
南鹿敷Ⅰ遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡・溝跡・土坑・陥し穴	縄文土器、石器			
黒坂遺跡	集落跡	縄文	陥し穴	なし			
駿達Ⅰ遺跡	城 構 跡・ 集落跡	近世か	炭窯、小ピット	近世陶磁器(遺構外)			
牛沢遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡・土坑	縄文土器、石器			
扇洞遺跡	集落跡	縄文・弥生	竪穴住居跡・土坑・焼土	縄文・弥生土器、石器			
中村遺跡	集落跡	縄文	陥し穴、土坑(貯蔵穴)	縄文土器			

岩手県文化財調査報告書 第146集
岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成26年度 復興関係)

印 刷 平成28年3月22日

発 行 平成28年3月25日

発 行 岩手県教育委員会
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号
電話 (019) 629-6180
編 集 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
印 刷 (株) 興版社
〒020-0816 岩手県盛岡市中野1-4-14
電話 (019) 624-3456

